

第1回

# まちづくり コンペティション 2014

—多摩の持つ地域資源を発見・活用して、多摩の未来を創造する—

## 報告書

予選開催日：2014年11月8日（土） 会場：中央大学  
本選開催日：2014年12月20日（土） 会場：明星大学

主催：公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩  
後援：公益財団法人 東京市町村自治調査会  
協力：日本経済新聞社多摩支局



## はじめに

# 多摩の持つ地域資源を発見・活用して多摩の未来を創造する

多摩の大学生まちづくりコンペティション 2014

審査委員長 細野 助博

近年、多摩地域においては、都心回帰の動向、中心市街地の商店街の衰退、生活圏の広域化、少子高齢社会の進展といった地域の人々の生活や将来に直結する課題に直面しています。その一方で、持ち前の豊かな自然環境、古くからの地域固有の文化に加え、多数の高等教育機関、研究開発企業が集積するなど、新旧織り交ぜた地域資源を活用できる産学官連携の可能性に満ちあふれた地域でもあります。23区との競争、共創により新たなグローバルシティとしての TOKYO を作り上げる使命を持っています。

このような時代背景を前提に、第1回「多摩の大学生まちづくりコンペティション」事業は、若者の視点や感性を活かした、今ある多摩地域の魅力を発信できる企画や、今までにない多摩地域の新しい価値を創造し、多摩地域が抱える課題を克服することで未来に活力を与えることができる「実践的」試み・提案を発表する場です。そして、この事業の最大のねらいは、学生によるビジネスプランの内容の斬新さと手堅い現場に根ざしたフィールドワークの成果を組み合わせる実効性ある調査研究と実践活動を世に問うことです。

11月8日に中央大学で行われた予選において、16団体のうち上位7団体を選出されました。予選では、多摩の9大学90名が参加し、地域のブランディング、観光、教育、アート、商店街活性化、世代間交流といった分野について発表し一定の評価を得たものです。審査委員会は、ネットワーク多摩加盟団体の行政職員9名、企業の実務者6名、大学教授3名の計18名のメンバーで構成し、選考にあたって多角的な視点と評価に統計的な処理も施し本選出場団体の選考を行いました。

12月20日に明星大学において本選に残った7団体の最終選考会を行いました。最終審査は日本を代表するまちづくりの専門家をはじめ、多摩地域のトップの方々を擁し、厳正かつ公平な審査の上で、最優秀賞は1団体、優秀賞は2団体、奨励賞は4団体に決定いたしました。当日は100名を超える参加者により、会場は熱気に包まれておりました。この成功を果実にして、次年度からもこの事業をより有意義なものとして多摩地域の未来に繋がるよう努力したいと思います。

この企画を通じて、多摩地域の若い人材とアイデアを発見するとともに、若者からの提案が行政やコミュニティ、中小企業、商店街などを含めた多摩地域全体の"元氣"につながり、多摩地域の魅力づくりの一助となることを目指します。

最後に、本コンペティションの開催にあたり、ネットワーク多摩加盟機関の皆様のご支援を頂きましたことを、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

平成 27 年 3 月



# 目次

はじめに

第 1 章 実施要領 .....	1
第 2 章 予選 .....	6
予選プログラム .....	7
予選出場団体 .....	8
予選審査委員 .....	12
予選会の様子 .....	13
予選アンケート結果 .....	18
第 3 章 本選 .....	33
本選プログラム .....	34
本選出場団体 .....	35
本選審査委員 .....	36
開会式 .....	37
本選審査の様子 .....	38
閉会式 .....	39
懇親会の様子 .....	41
第 4 章 発表概要・当日のプレゼンテーション .....	44
最優秀賞 .....	45
優秀賞（2団体） .....	57
奨励賞（4団体） .....	75
本選アンケート結果 .....	120
第 5 章 新聞掲載等 .....	132

# 第 1 章

## 実施要領

多摩の大学生まちづくりコンペティション

# 実施要領

---

## 1. 目的

多摩地域には持ち前の豊かな自然環境、芸術・文化に加え、多数の高等教育機関、研究開発企業が集積し、ハード・ソフト両面で多様な資源を有しているが、近年では都心回帰の動向もあり、多摩地域全体を見据えた魅力づくりを検討すべき段階にきた。

中心市街地の商店街の衰退、生活圏の広域化、高齢社会の進展——全国各地域が直面している地域の課題が多摩地域においても顕在化してきた。それは、この地域が首都圏の中で"課題最先端地域"であることを意味している。

『多摩の大学生まちづくりコンペ』では、若者の視点や感性を活かした、今ある多摩地域の魅力を発信できる企画や、今までにない多摩地域の新しい価値を創造して、多摩地域が抱える課題を克服することで未来に活力を与えることができる「実践的」試みや提案を募集する。

このコンペの最大のねらいは、学生によるビジネスプランの内容よりもフィールドワークの成果をどのように生かしているかを問うものである。

学生にとっては、フィールドワークを実践し、実学としてまちづくりを考えるとともに、行政や事業者の前で自らの研究成果を広く発表する機会となる。優秀な取り組みをした団体・個人を表彰し、日本経済新聞紙上で取り上げる。

この企画を通じて、まちづくりの手法を学び、実践する若い人材とアイデアを発見するとともに、若者からの提案が行政やコミュニティ、中小企業、商店街などを含めた多摩地域全体の"元気"につながり、多摩地域の魅力づくりの一助となることを目指す。

## 2. エントリー団体スケジュール

6月20日（金）	エントリー受付開始
7月15日（火）	エントリー説明会開催
8月5日（火）	応募用紙締切
10月20日（月）	応募用紙再提出締切（内容に変更がある場合）
11月5日（水）	プレゼンテーションのデータ締切
<b>11月8日（土）</b>	<b>予選 中央大学</b>
11月20日（木）	予選結果通知（郵送）
12月17日（水） 12：00	プレゼンテーションのデータ締切（内容に変更がある場合）
<b>12月20日（土）</b>	<b>本選 明星大学</b>
1月16日（金）	入賞者報告書提出期限

### 3. 応募条件

- ・大学（短大、大学院生を含む）に在籍するグループ（個人も可）であること。
- ・行政、商店街、企業、NPO法人等との連携を前提とした企画であること。
- ・フィールドワークを実践した調査活動を実施すること。
- ・大学等教員の指導を受けること。

### 4. 注意事項

- ・予選、本選とも1チームの持ち時間は10分（タイムオーバー2点減点）とする。
- ・質疑応答は5分。質問は、審査委員が行う。
- ・集合、受付時間は厳守すること。

プレゼンテーションで使用するデータと参加者の所属、学年、氏名を、12月17日（水）12：00までに事務局（ネットワーク多摩事務局 office@nw-tama.jp）に提出すること。発表当日は、予備のデータをUSBメモリーに保存の上、持参すること。

- ・プレゼンテーションで使用するファイルの形式は、Microsoft PowerPointとする。
- ・発表では、事務局の用意するPC（Windows7）を使用する。
- ・提出されたデータの差し替えは、原則として受け付けない。
- ・データ提出の遅れや、ファイルの破損等により申込者に生じる損害について、事務局は一切の責任を負わないものとする。

### 5. 審査

#### 【予選】

- （ア）審査は、部分公開（参加者、関係者）により実施する。
- （イ）発表の順番は、審査当日に抽選により決定する。
- （ウ）予選の審査は、主催者から委嘱を受けた行政・民間企業の実務者及び大学教員が行う。
- （エ）審査委員はプレゼンテーションの結果を審査し、本選出場者を決定する。

#### 【本選】

- （ア）審査は、一般公開により実施する。
- （イ）発表の順番は、審査当日に抽選により決定する。
- （ウ）本選の審査は、以下の審査委員によって行う。

## 6. 審査の主なポイント

### 【予選】

- ・フィールドワークの手法 10点
- ・モデルの独自性、地域社会や経済への波及効果 15点
- ・モデルの普及可能性 15点
- ・地域活性化 10点

### 【本選】

- ・モデルの普及可能性 15点
- ・地域活性化 15点
- ・総合評価 20点

## 7. 結果の発表

### 【予選】

- (ア) 結果通知と審査委員講評を後日郵送する。
- (イ) 本選出場者については、主催者ホームページ上に大学名、教員氏名、テーマ、概要の4点を掲載する。

### 【本選】

- (ア) 審査当日に入賞者を発表し、表彰式を行う。
- (イ) 本選、講評、表彰式の概要について、主催者ホームページ上に掲載する。

## 8. 表彰

- ・最優秀賞、優秀賞に選出された場合は、表彰状とトロフィーを贈呈する。
- ・奨励賞に選出された場合は、表彰状を贈呈する。

## 9. その他

- ・入賞者とその発表内容については、日本経済新聞地域面等に掲載される予定であり、入賞者には取材への協力を依頼する場合がある。
- ・本コンペティションの実施報告書を、主催者において作成する予定であり、入賞者には原稿となる報告書の提出を別途依頼する。提出期限は平成27年1月16日（金）とする。

以上



# 第 9 章

## 予選 多摩の大学生まちづくりコンペティション

日時 平成 26 年 11 月 8 日（土） 13 : 00 ~ 16 : 30

会場 中央大学 多摩キャンパス 3 号館文学部総合棟

## 予選プログラム

---

### 開会式 3号館 5階 (3552 教室)

- 13:00 開会式
- 13:02 主催者の挨拶  
公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩 専務理事 細野助博
- 13:05 審査委員の紹介
- 13:10 アナウンス・移動

### 分科会 3号館 4階 (3453 3454 3455 教室)

- 13:15 分科会開始
  - グループ1 観光、教育、食育、自然、アート (3453)
  - グループ2 マーケティング、地域ブランディング、商品開発、就労支援 (3454)
  - グループ3 商店街、住宅環境、居場所づくり、世代間交流 (3455)
- 13:20 発表・質疑応答①②③
- 14:05 休憩
- 14:35 発表・質疑応答④⑤⑥

### 閉会式 3号館 5階 (3552 教室)

- 15:45 閉会式
- 15:50 講評
- 16:00 閉会の辞  
日本経済新聞社 多摩支局長 友山宏済氏
- 16:05 アナウンス

### 審査委員会

- 16:15 本選出場者決定

## 予選出場団体一覧

参加者：16 団体 9 大学 90 名

### エントリーNo.1 東京経済大学

#### 『国分寺駅北口再開発と商店街の活性化』

団体の概要	毎年、国分寺産の野菜を使ったレシピコンテスト(N-1 グランプリ)や、一年間のゼミ活動を発表する「学生のまちづくり論」を行っている。
まちづくりのねらい	国分寺駅北口再開発によって周辺商店街が今後どのように変化していくのか考える
対象地域	国分寺駅北口の7商店街

### エントリーNo.2 多摩大学

#### 『世代につなげるみんなの食卓-健康なまちづくりを目指して』

団体の概要	梅澤ゼミでは、2-4年ゼミ生30名が6つのプロジェクトチームを作り、それぞれが多摩地域の課題解決の企画提案を行い、行政、地域団体、企業と連携して活動を行っています。
まちづくりのねらい	多摩ニュータウンに住む高齢者と共働き家庭のこどもたち、それぞれの食卓が孤食化している。共に食卓を囲むことで、地域住民が身体も心も社会的にも健康になれる仕組みづくりをねらいとする。
対象地域	多摩市聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会、多摩市食育ネットワーク委員会

### エントリーNo.3 明星大学

#### 『産学公連携の価値共創で地域商店街を活性化』

団体の概要	羽村市内にある商店街の活性化支援活動
まちづくりのねらい	衰退している地域商店街を活性化させ、地域経済を元気にする。
対象地域	羽村市マミーショッピングセンター

### エントリーNo.4 法政大学

#### 『八王子駅南口"繋がる"プロジェクト』

団体の概要	地域住民やNPOが主体的に関わるまちづくり
まちづくりのねらい	八王子駅南口周辺地域の住民の居場所作りを目的とし、well-being(誰もが健康で幸せな暮らし)コミュニティの実現を目指す
対象地域	八王子南口地域(子安1~4丁目)

## エントリーNo.5 明星大学

### 『三多摩綜合食品卸売市場と周辺地域のネットワーク構築』

団体の概要	ビジネスプランニングをテーマに明星大学経営学部谷井ゼミナールとして活動している。
まちづくりのねらい	三多摩綜合食品卸売市場は専門業者の減少に伴い、一般顧客の増加を目指している。我々は一般顧客の集客増の施策として、①子供たちのための縁日、②タウンミーティング、③市場を利用した若者の趣味交流を考え、市場と周辺地域とのネットワークづくりを企画した。
対象地域	三多摩綜合食品卸売市場およびその周辺地域

## エントリーNo.6 大妻女子大学

### 『来て楽しい！見て楽しい！多摩のカラフルフラワータウン』

団体の概要	大妻女子大学 人間関係学部 福祉学科 福祉学専攻所属の団体9名。全員、上野ゼミのメンバーで、主に福祉をはじめとするレクリエーション活動を研究しています。
まちづくりのねらい	唐木田周辺の駅の出口に花壇を作り、球根を植える。色んな色の花の球根を、花が咲いたときには何かの文字や絵になるようにして場所を考えて植える。花の香りがあると来る楽しみも増えそう。
対象地域	多摩市(唐木田、多摩センターなど近く)

## エントリーNo.7 多摩大学

### 『知力・体力・精神力を向上させる「日の出赤いプロジェクト」』

団体の概要	地域産業・中小企業を研究するゼミです。通常のゼミ活動のほか、中小企業の実地調査、各地域のまちづくりへの参画など、フィールドワークを重視した活動を実施しています。
まちづくりのねらい	新しい切り口による「日の出」観光の再生、日の出町のイメージである「赤」という色を基軸とした新たな観光ルートの開発
対象地域	西多摩郡日の出町

## エントリーNo.8 多摩大学

### 『諏訪小学校と地域の連携づくり』

団体の概要	梅澤ゼミでは、2・3・4年、3学年30名のゼミ生が6つのプロジェクトチームを作り、それぞれが多摩地域の課題解決のための企画提案を行い、行政、地域団体、企業等と連携して活動を行っています。
まちづくりのねらい	多摩ニュータウンならではの豊かなみどりの環境を活かしながら家庭-学校-地域の三者連携を行うことをねらいに活動しています。
対象地域	多摩市立諏訪小学校、新都市センター開発株式会社永山営業所、多摩市永山公民館 諏訪名店街

## エントリーNo.9 多摩大学

### 『緑を通じて世代を繋ぐ グリーンライフ・プロジェクト』

団体の概要	梅澤ゼミでは、2～4年、3学年30名のゼミ生が6つのプロジェクトチームをつくり、それぞれが多摩地域の課題解決のための企画提案を行い、行政・地域団体・企業等と連携して活動を行っています。
まちづくりのねらい	多摩市の特長ともいえる緑豊かな自然を活用し、世代を超え、人と人とを結びつける仕組みづくりを行うことと、幅広い世代の方に緑の大切さを伝え、次世代の育成を狙いとす。
対象地域	多摩市立グリーンライブセンター、一本杉公園

## エントリーNo.10 明治大学

### 『多摩センターを拠点とした住宅衛星都市からの脱却』

団体の概要	-
まちづくりのねらい	若者を多摩地域によびこむこと(観光)に加えて、多摩地域間の連携を高める。周遊にもつなげる。
対象地域	多摩地域全体で連携をとって全体を盛り上げる施策です。主に多摩市を想定しています。

## エントリーNo.12 大妻女子大学

### 『リアルとネットの活用を通じたペット・コミュニティの創出』

団体の概要	1年生の科目の基礎ゼミの「情報デザイン基礎演習」の多摩市について考えるグループ
まちづくりのねらい	近所付き合いが親密でより明るい多摩ニュータウンの再生
対象地域	多摩ニュータウン

## エントリーNo.13 首都大学東京

### 『行政と地域事業者参加で取り組む地域ブランディング』

団体の概要	観光まちづくり、地域ブランディング ・大田区クリエイティブタウン構想・秋川渓谷ブランディング ・地域コミュニティと観光拠点としての廃校活用コンバージョン計画他
まちづくりのねらい	行政と地域の観光事業者参加による地域ブランディングワークショップを計画、実施し、地域の多主体間の合意形成を図りながら、地域の理念を明文化、さらに今後の地域内外へ向けての地域ブランディングのためのツールを作成する。
対象地域	あきる野市ほか、秋川流域圏

## エントリーNo.14 東京経済大学

### 『NPO法人による障がい者就労支援と事業継続性』

団体の概要	中小企業が直面している経営課題をテーマとして分析し、解決策となる経営戦略を提示する。
まちづくりのねらい	事業収入の高い障がい者の就労支援を行っているNPO法人を研究することで、普遍的経営手法を見出し、他のNPO法人への適用することにより障がい者の就労の機会を創出することでまちづくりを行う。
対象地域	多摩市、国立市など

## エントリーNo.15 東京経済大学

### 『世代間交流を長期的に行うシステム』

団体の概要	-
まちづくりのねらい	長期的に世代間交流を行うことが可能なシステムを考えることで地域活性化
対象地域	日野市

## エントリーNo.17 嘉悦大学

### 『小平ブルーベリーブランド化プロジェクト』

団体の概要	ベリベリぶるべりこだプリンの企画・開発・販売
まちづくりのねらい	小平のブルーベリーのブランド化を目標に活動してきました。小平のブルーベリー商品をマーケティングした後に、ブルーベリーを利用した商品を開発し実際の販売に取り組みました。その際にお店や地域のニーズを実際に調査し、商品や販促物を作成しました。私たちが商品企画した「ベリベリぶるべりこだプリン」を1万個販売を達成しました。
対象地域	小平市

## エントリーNo.19 実践女子大学

### 『トンネル美術館』

団体の概要	「日野宿通り周辺『賑わいのあるまちづくり』プロジェクト」
まちづくりのねらい	JR日野駅高架下の暗く重々しい雰囲気のあるトンネル。日野の玄関口にしては少しさびしいこのトンネルを、デザインを学ぶ実践女子大学の学生が日野市と協働し、明るく開放感のあるアート空間に生まれ変わらせる。
対象地域	日野市日野駅付近(日野駅前商店街)

## 予選審査委員一覧

\* 審査委員：18名 行政9名 企業6名 大学教授3名

### グループ1 観光、教育、食育、自然、アート (3453 教室)

機関	所属	審査委員名
行政	立川市 総合政策部 企画政策課長	渡辺晶彦 氏
行政	小金井市 企画財政部 企画政策課長	水落俊也 氏
行政	福生市 企画財政部 企画調整課長	田村満利 氏
企業	京王電鉄株式会社 沿線価値創造部長	都村智史 氏
企業	日本電気株式会社 西東京支社マネージャー	山崎英樹 氏
大学	中央大学 総合政策学部教授	黒田絵美子 氏

### グループ2 マーケティング、地域ブランディング、商品開発、就労支援 (3454 教室)

機関	所属	審査委員名
行政	町田市 政策経営部 企画政策課政策研究担当課長	石坂泰弘 氏
行政	日野市 企画部 企画調整課長	小平裕明 氏
行政	多摩市 企画政策部 企画課長	本多剛史 氏
企業	京西テクノス株式会社 取締役管理本部長	安田真人 氏
企業	東日本旅客鉄道株式会社 八王子支社企画部長	肥塚知成 氏
大学	専修大学 商学部教授	渡辺達朗 氏

### グループ3 商店街、住宅環境、居場所づくり、世代間交流 (3455 教室)

機関	所属	審査委員名
行政	八王子市 市民活動推進部 学園都市文化課長	小浦晴実 氏
行政	稲城市 企画部 企画政策課長	杉本勇人 氏
行政	羽村市 産業環境部 産業振興計画担当主幹	櫛島孝文 氏
企業	多摩信用金庫 価値創造事業部 部長	長島剛 氏
企業	インテル株式会社 技術開発・製造技術本部シニアエンジニア	清水隆史 氏
大学	首都大学東京 都市環境学部教授	吉川徹 氏



## 予選会の様子

---



さあ、予選の幕明け



会場の見学者も真剣

## 予選会の様子

---



スクリーンにも目を向けてプレゼン！



プレゼンに工夫をして…



男女のペア組も  
ちょっと緊張気味



余裕の笑顔で報告



分析結果をきっちり訴えたい…



プレゼン方法の直前打ち合わせ？

# 予選会の様子



熱意あふれるグループでのプレゼン



多摩の郷土色がうかがえるプレゼンが多かった



一発勝負の  
プレゼンだけに…



審査委員の言葉を  
聞き逃がさないまなざし



分析の出来具合にも  
確信あり

## 予選会の様子

---



講評する黒田教授。学生にやさしいまなざしを向ける



講評する吉川教授



講評する渡辺教授

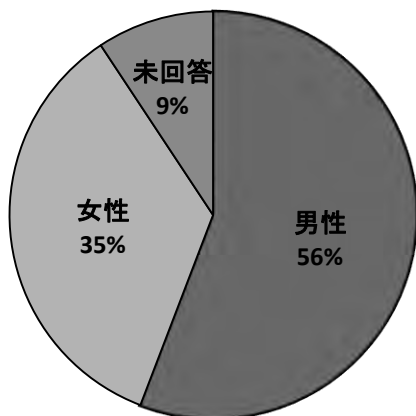


審査を終えた審査委員たち。どの団体を本選へ

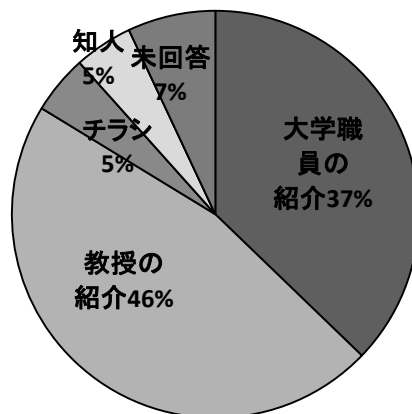


# 予選 エントリー団体 アンケート 回答者数=43

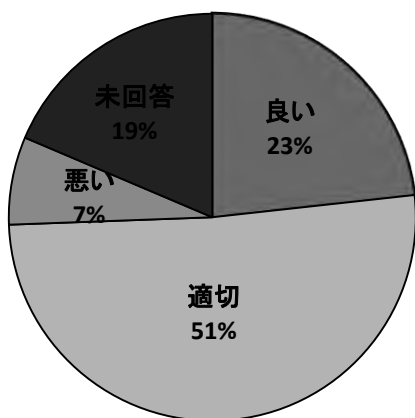
## Q1.性別について



## Q2.コンペを知った経緯



## Q3.説明会日時 7/15(火)



コメント:悪い  
・30分前集合を希望

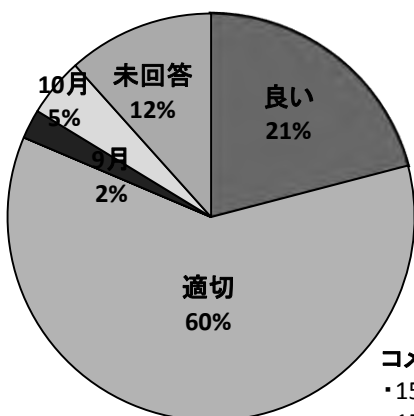
### Q1~Q3

予選当日にプレゼンテーションをした学生41人のほか、会場には発表団体関係者99人、ネットワーク多摩加盟機関の見学者28人が詰めかけました。

エントリー団体の学生たちのうち43人が答えたアンケート調査によると、この「コンペを知った経緯」は、大学教員の紹介によるものが46%と高く、これに続くのが大学職員からの紹介が37%でした。

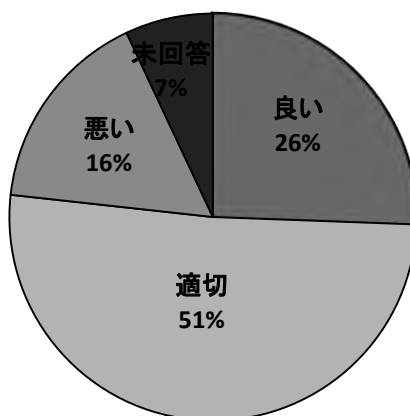
募集期間中に行ったコンペの説明会(7月15日、火曜日)は、応募締め切りの3週間前でした。この時期がエントリーしようとする学生に都合が良いかどうかを聞くと、「適切」と受け止めたのが51%で、「良い」と答えた人の数値を加えると、84%が良い時期だったことがわかりました。「悪い」と答えたのは7%でした。

#### Q4.予選開催時期 11/8(土)



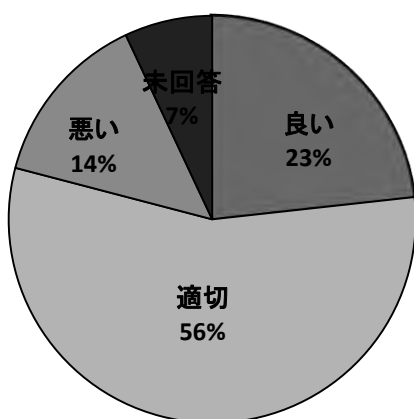
コメント:悪い  
・15~20分  
・15分程度  
・短い  
・少々短かった

#### Q5.発表時間 10分間



コメント:悪い  
・発表した後の  
意見交換にもっと  
時間をかけるべき  
・10分は欲しい  
・7分程度  
・短い

#### Q6.質疑応答時間 5分間



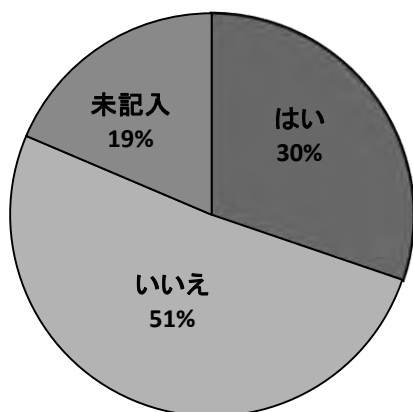
#### Q4~Q6

11月8日(土曜日)に開催した予選時期についても「良い」「適切」と答えたのが8割以上におよび、10%に満たなかった9月、10月を希望する声よりも圧倒的に多くありました。

10分あったプレゼンテーションの時間については、「良い」「適切」と答えた人が77%いました。しかし、16%が「悪い」と答えたのは「短い」というもので、「10分から20分ほしい」「短くても15分ほしい」という意見でした。

質疑応答の5分設定には「良い」「適切」が8割近くに及びましたが、16%が「悪い」と指摘しています。その言い分は「7分ほしい」「10分ほしい」といい、中には「発表した後の意見交換にもっと時間をかけるべきだ」と要求しています。

## Q7.プレゼン研修会を開催する場合 参加を希望しますか



### コメント:はい

- ・自分のプレゼンに不安があるため
- ・プレゼンのやり方が心配なため
- ・練習したいから
- ・勉強になるから
- ・会場の雰囲気を知りたいから
- ・内容によって

### コメント:いいえ

- ・必要ない気がします
- ・今年度卒業予定のため
- ・その時間を使って参加団体で地域の声を聞きに行く企画をしてはどうでしょうか
- ・皆が同じような形で発表してもおもしろくなさそうなので
- ・準備に時間を使いたい
- ・練習を重ねないと意味が無いので
- ・ゼミでプレゼン練習をしているので大丈夫です。
- ・来年は卒業論文のため忙しい
- ・就活のため
- ・業務の都合により
- ・プレゼンのやり方も含めたコンペだから
- ・数をこなさなきゃ意味が無い

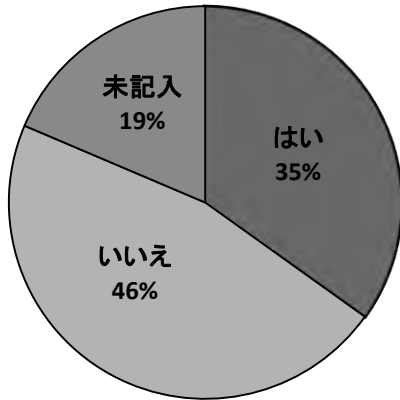
## Q7

2014年のコンペティションでは予選前に「プレゼン研修会」を行いませんでしたが、これを希望する声は3割あり、半数は「いいえ」と答えています。

希望組の声は、「自分のプレゼンに不安があり心配だから」「勉強になるから」「会場の雰囲気を知りたいから」とそれぞれが挙げています。

また、不要派は「プレゼンのやり方も含めたコンペだから」「ゼミでプレゼン練習をしているので大丈夫です」と普段のゼミナールでの活動の意義を挙げています。「皆が同じような形で発表しても面白くなさそうなので」という見方をしている学生がいれば、「その時間に参加団体で地域の声を聞きに行く企画をしてはどうでしょうか」と提案する学生もいました。

## Q8. 来年のコンペティションの参加を希望しますか



### コメント: はい

- ・とても勉強になった
- ・全体的に学生が意欲を持って取り組んでいると感じられるから
- ・今回ダメだった点を改善するなら
- ・プレゼンが好きだから
- ・ゼミとして参加するが後輩にがんばってもらいたい
- ・もっと活動をしたいから

### コメント: いいえ

- ・4年生のため
- ・就活のため
- ・卒業のため
- ・時間がないため
- ・補助としての参加だから
- ・やりきったから
- ・時期が忙しい

## Q8

「次回のコンペティションに参加しますか」という問いに、46%が「いいえ」と答えています。その声の多くは、卒業したり、4年生に進級したりするなど、就活にも時間が取られることをあげています。

しかし、35%の学生は、参加すると答えています。その理由は「とても勉強になった」「(他の学生たちは)意欲的に取り組んでいると感じたから」「ゼミとして参加するが、後輩に頑張ってもらいたい」「今回、ダメだった点を改善する」など、さらに活動意欲を高めたことがわかりました。

## Q9.参加した感想や希望などをご自由にお書きください

<p>参加したことで、企業の方とつながりを持つことが出来た。実現に向けてもう一歩進むことができたように思う。</p>
<p>とても学びが深かったです。</p>
<p>他大学の学生が取り組んできたことを聞き、刺激となる一日であった。それぞれのプレゼンテーションで特徴があり、まちづくりに対して熱い思いが伝わってきた。</p>
<p>今回の発表の中でタイムキーパーが残り時間を出す際に気づきにくかったので別の方法を希望します。</p>
<p>質疑応答の時間が少なく充実したものではなかった様に思います。企画はずばらしいと思ったのですが、発表して終わりのような印象を受けました。それでは多摩地域は変わらないと思うので、優秀な提案をバックアップする方向にしたほうが良いと思います。</p>
<p>様々な企画・活動を知ることが出来、非常に有意義な時間でした。しかし、審査委員以外の方が質問しづらい雰囲気があったため、点数をつけるような方式ではなく、意見交換会のようなカタチのほうが、有意義な気がしました。もらえるトロフィーよりも、そうした意見・交流のほうが有意義だと考えています。</p>
<p>他大学の発表などを聞いて、とても勉強になった。プロジェクターが原因で発表がスムーズにいかなかったのが残念だった。</p>
<p>申し訳ないが、運営面で困らされた。プロジェクターの不具合、案内、進行ともにわかりづらく動きが悪かった。</p>
<p>おもしろい発表があつて聞けてよかった。発表時間10分と質疑応答5分は短いなと思いました。</p>
<p>発表時間と質問時間がもう少し欲しい。</p>
<p>運営側の対応が悪い。効率が悪い。その練習をされた方がいいんじゃないですか？学生より悪いです。こちらは練習してきているので失礼だと思います。</p>
<p>段取りをもっとしっかりして欲しいです。発表の際の時間管理はストップウォッチを使うほうがよいと思います。</p>
<p>段取りが悪すぎて待つ時間が多かった。タイムキーパーが時計を見ていたので、きちんとストップウォッチ等を使う時間管理を徹底すべきだと思った。</p>
<p>多摩未来奨学金のプレ発表会に参加したが、(すべての分科会に参加していないので一概には言えないが)発表内容等について遜色ないと感じた。スライド(資料)の体裁もよい。審査員の質問に対する質問も無難に答えていた。</p>
<p>主催者側はなぜもっと作りこみ、準備をしなかったのか、説明不足、時間配分全てがひどかった。</p>
<p>自分たちが発表したプレゼンが、研究企業さんには、どのように感じたのかを知ることができたのでよかったです。また、他大学さんのプレゼンを聞くことができ、他大学の考えていることも少しは見えたので、とてもよい時間になりました。</p>

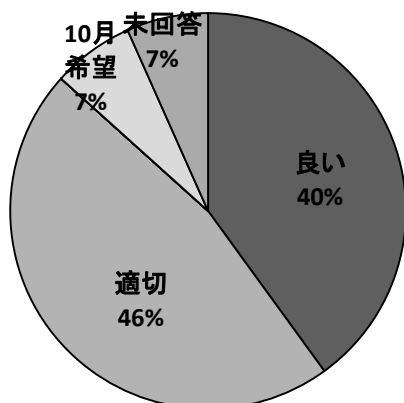
<p>参加した感想として、審査員の人からの今後のプロジェクトを進めていくさいのととても参考になる意見をいただけて、とても勉強になりました。</p>
<p>実際に参加して思ったことは、内容はよかったです、仕事の効率が悪いのではないかなと感じた。</p>
<p>様々な大学の発表を聞くことができ、自分たちだけの発表ではなくよい意見も聞けるという貴重な経験となりました。もう少し、開催の時期が中旬ぐらいだとよりよい発表になったのではないかと思います。</p>
<p>他大学が何をやっているかがわかり、とてもよい刺激を得ることができる場だと思いました。</p>
<p>説明会は数日程あるとよいと思う。</p>
<p>少々段取りが悪く感じた。発表中の入退室が多く、とても気になった(関係者の方も含めて)</p>
<p>様々な大学のまちづくりに関する取り組みについて知ることができたのでよかった。スクリーンの不具合について改善されるとより良いものになると思う。</p>

## Q10.来年度も参加する場合は、どのような実施方法や内容が良いですか

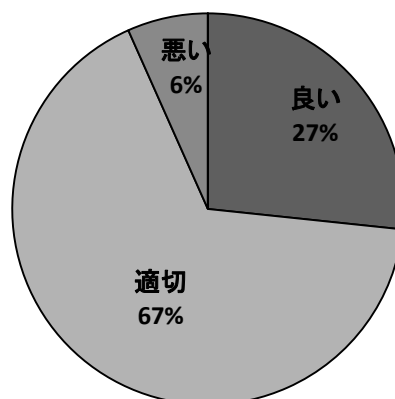
<p>次回は運営として関わってみたいと思いました。</p>
<p>参加はしませんが、PCの不具合でプレゼンテーションの行方が左右されてしまうのはどうなのかと思う。今後はトラブルがないように我々も協力してこの「多摩の大学生まちづくりコンペティション2014」をよりよい物としていくことが大切になってくるのではないかと考えている。</p>
<p>午前から開催することにして、もっと様々な大学を集められると学生としても様々な大学の発表を聞いてよいと思った。</p>
<p>内容は変えずともよい</p>
<p>せっかく学生がいて学生が発表するのだから、見ている人の質疑応答の時間も欲しい。いろいろな意見を聞けないのは残念である。</p>
<p>当日のオペレーションをしっかりしたほうが良いと思います。時間道理進んで欲しいと思いました。</p>

# 予選 審査委員 アンケート 回答者数=15

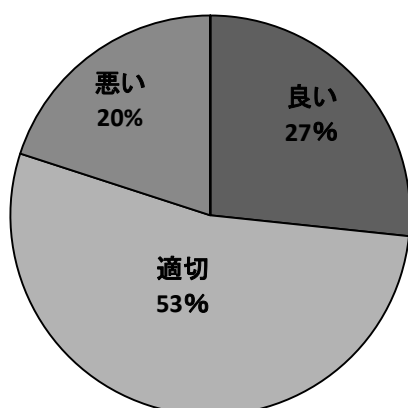
Q1. 予選の開催時期 11/8(土)



Q2. 発表時間 10分間



Q3. 質疑応答時間 5分間



コメント  
・20分

コメント  
・10分あるといい  
・あと、2-3分あるとよかった

## Q1

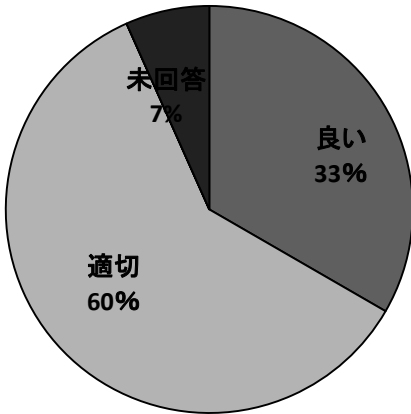
審査を終えた後に記入されたアンケートによると、開催時期を10月希望とした7%を除く86%の委員が今回の開催時期が「良い」「適切」と記しています(未回答7%)。

## Q2～Q3

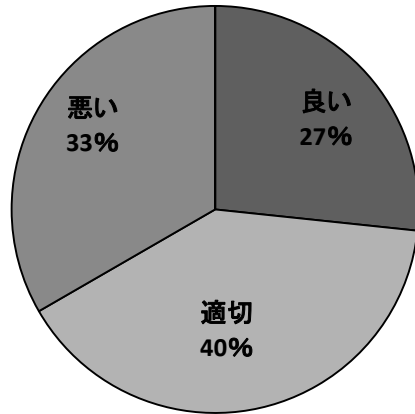
プレゼンする学生の持ち時間の10分について、委員の27%が「良い」、67%が「適切」と判断しています。しかし、6%の委員は「悪い」と指摘しており、いわば時間が短い、20分程度あった方がよかったと具体的に示しています。

審査委員が全員で5分の持ち時間である「質疑応答の時間」についても8割の委員が「良い」「適切」とみっていますが、「悪い」と答えた委員は20%いました。その指摘は「あと2～3分あるとよかった」「全体で10分ほしかった」など、もっと踏み込んだ内容の質問をしたかったようだ。

Q4.審査団体数（5～6団体）



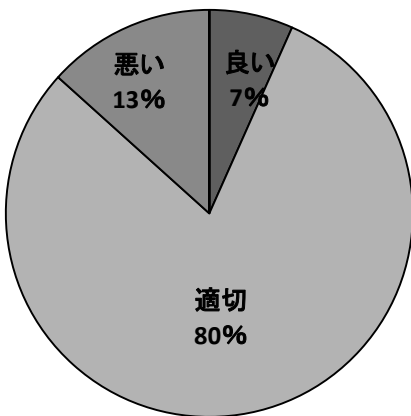
Q5.審査項目



コメント

- ・プレゼンの良否があってもよい
- ・見直し、わかりづらい
- ・もう少しシンプルに

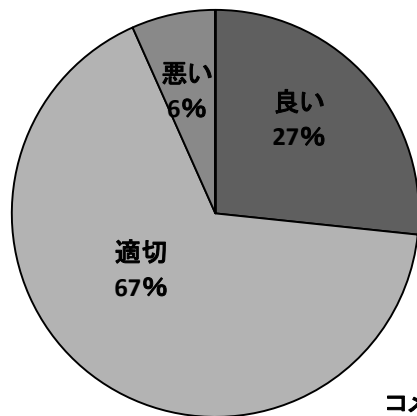
Q6.配点



コメント

- ・見直し、わかりづらい

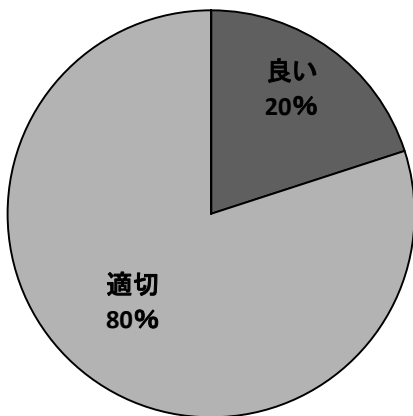
Q7.審査委員の人数



コメント

- ・多い

## Q8.本選出場団体の選抜方法



### Q4～Q8

3ヶ所の審査会場では、それぞれ5～6団体を審査しました。その審査件数について「良い」「適切」を含むと、93%にのぼり、おおむね妥当でした(未回答7%)。

審査のポイントには①フィールドワークの手法②モデルの独自性、地域社会や経済への波及効果③モデルの普及の可能性④地域活性化の程度が中心でしたが、その「審査項目」について、「良い」と答えた委員が27%、「適切」と判断したのが40%、「悪い」が33%でした。悪い点を解消するには「プレゼンの良否があつてよかった」「審査項目をもう少しシンプルにした方が良い」という指摘がありました。

配点についても「良い」と「適切」を挙げたのは87%と高い評価でしたが、13%の委員は「わかりづらいので見直してはいかが」と問いかけています。

審査に当たる人数(1会場6人)については、6%の委員が多いと感じており「悪い」と答えています。そのほかの委員は「良い」「適切」としています。

16団体の審査にはいずれも多角的な視点とそれぞれの評価点に統計的な処理をした結果、7団体を本選に上げることになりました。この選抜方法は「良い」(20%)「適切」(80%)で全員の委員が合意しています。

## Q9.コンペティションの改善点や気になった点がありましたら教えてください

- ・フィールドワークはどちらかというとプロセス重視の提案内容の優劣を反映しにくい。
- ・発表、プレゼンに関する評価項目があつてよい。
- ・学生たちがどんな役割を演じたのか判りづらかつた。
- ・質問はもう少ししたかつたが、時間配分は概ね適切。

- ・学生の準備の状況もあるかと思いますが、資料は事前に配布してほしい。

- ・学生に単に効果や具体的な取り組みが発表されると解りやすいと思います。
- ・テーマの主体(店や事業者など)の立場での報告内容があるとよい。

- ・パソコンの不具合で時間が延長したのは、残念でした。物理的なものの障害は、なるべく事前に解決できればと思いました。

- ・分科会のやり方をもっとしっかりレクチャーしないと×
- ・時間や司会があまりにもひどい(学生とはいえ)
- ・何年生かも言わせた方がよい
- ・会場からも質問が出た・あいまい
- ・時間がおした場合の対応が×

- ・審査のコメントを書く時間が少ないため、3-5分は欲しい
- ・閉会式があるのであれば、予選会の結果は同日内に行う方がよいのではないか！
- ・アイデアはよいのに、プレゼン資料の作り方に課題のあるプレゼンのブラッシュアップのため。

- ・どこまでのクオリティを求めるのか、迷う点もあります。
- ・How to等の実現可能性をどこまで重視するのか、アイデアの斬新さ、プロセスの充実度にプライオリティを置くのか？4つの切り口で配点に厚薄はありますが、点の刻みも含め、やや凝りすぎの感があり、バラつきが大きくなるのではと感じました。

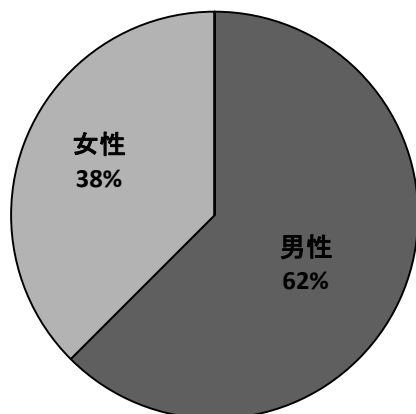
- ・審査にかかる時間が少ない

## Q10.参加した感想や希望などをご自由にお書きください

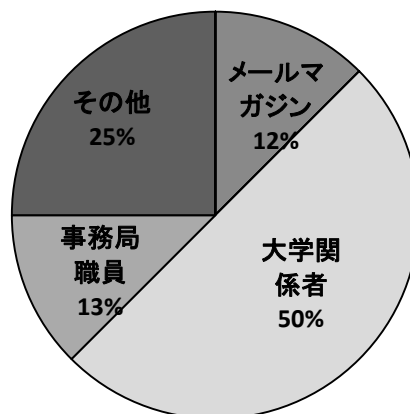
<ul style="list-style-type: none"><li>・非常に良い取り組みであると感じましたので、是非継続的に取り組んで頂ければと思います。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・いわゆるPDCAサイクルに沿ってなくても構わないが、自分たちが考えたことを実践する、その結果を検証する、という思考と伝える能力のトレーニングが必要。</li><li>・フィールドワークの評価軸(プロセス)は、PDCAのC以降ができてなくても良いとするか、議論が必要。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・論理的な思考とプレゼン能力が重要なことがよくわかった。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・どうしても商店街の活性化系は、イベントにかたよってしまう。</li><li>・他の視点での提案が欲しい。特に商店街は、後継者が不足しているため、2代目育成や後継者育成の取り組みを考える必要がある。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・実務者として(行政職員)として大変興味深く、有益な提言を聴けたと思う。</li><li>・審査結果が、プレゼンのうまいへたによるところになっていて、学生の取り組みそのものの評価がどうされているのか、審査規準の取り方は、もう少し検討された方が良いかもしれません。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・企画で終わっている発表者と実践している発表者とは、大きな差がでてしまうので、応募条件として少なくとも実践に向けて、関係部署とやりとりをしていることを課してはいかがでしょうか。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・学生が現場に出て、地域の課題に正面から向き合っている報告に感動しました。行政の業務の参考になり、新たなアイデアを得ることができました。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・事務局の方、学生の方、本当にご苦労様でした。</li><li>・第1回の予選が無事に終わってよかったと思います。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・今回おこったことをしっかりマニュアル化すること</li><li>・審査の基準についても的確な指示がなかった</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・学生にとっても活動の発表の場があることは「はげみ」になると感じました。</li><li>・良い企画に参加させて頂きありがとうございます。</li><li>・可能であれば、プレゼン資料の作り方などを指導する企画もあれば、大学ごとの発表内容にバラツキは少なくなるかとも思いました。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ここまで学生が地域に入って活動→提案している事が素晴らしく、大々的に対外PRすべきだと思います。もっと知らしめましょう！</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>・学生が積極的に地域に出ていることに感動しました。</li></ul>

# 予選 見学者 アンケート 回答者数=8

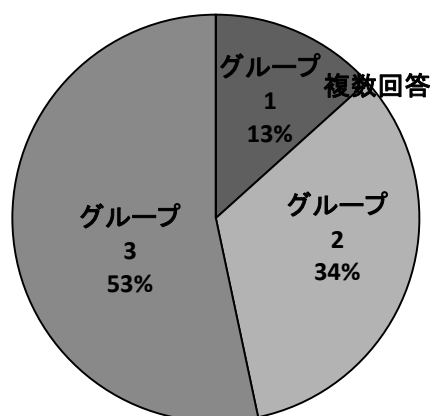
## Q1.性別について



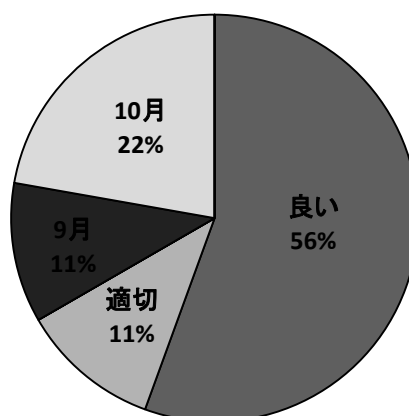
## Q2.コンペを知った経緯



## Q3.見学したグループ



## Q4.予選開催時期 11/8(土)



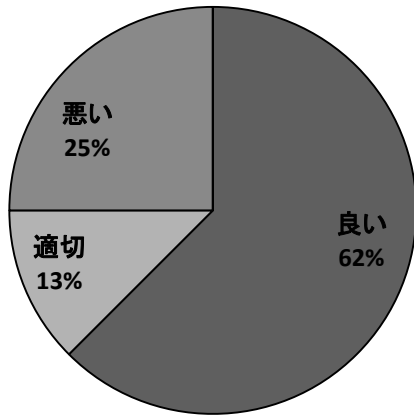
## Q1～Q4

予選にはエントリー団体関係者以外の大学教職員や行政の職員、企業の方々が28人見学しました。アンケートを回収したのは28.6%。コンペを知ったきっかけは、大学関係者から聞いた人が50%と最も多く、メールマガジンと主催事務局からの情報がほぼ同数の12～13%でした。

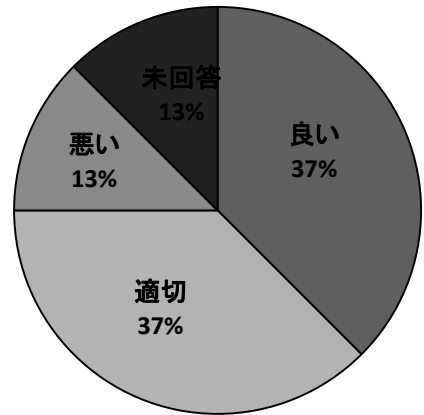
これらの人たちの9割近くが2～3会場を移動して複数のプレゼンを見学しており、関心度の高さが分かりました。

また、11月8日に開催した時期が適切であったかどうかを問うと、67%の人たちが「良い」「適切」と答えています。しかし、「10月」を希望したのは22%、「9月」を挙げた人が11%あり、時期の変更を望む人が33%いました。

Q5.発表時間 10分間



Q6.質疑応答時間 5分間



コメント  
・短すぎる  
・長くしてほしいです

#### Q5～Q6

学生のプレゼン時間の10分は、「良い」「適切」と答えた人が75%でおおむね評価を得ていますが、25%の人たちが「悪い」と答えています。「短すぎる、もっと長くしてほしい」という希望が目立ちました。

また、プレゼン後の審査委員の質問時間5分間については「良い」「適切」と答えた人が74%で、「悪い」と指摘した13%とは開きが目立ちました。

## Q7.興味のあるテーマや分野がありましたら教えてください

「まちの賑わい創出」「まちの活性化」など学生、大学が主体となったまちづくりの効果など
沿線で行えるテーマが多く、電鉄会社の支援により、多摩の可能性が非常に高まると思います。
障がい者雇用について、世代間交流について
新分野の商品開発
ベッドタウンからの脱却
多摩地域(多摩市を中心的に捉えて)への学生の定住・居着きへの提案課題解決。農業分野への大学、大学生、市民の参加・参画。学生企業・創業の促進や可能性。 質問、恵泉、国士館、医療学院大学、中央、電通大などは応募がなかったのでしょうか。それとも声をかけていないのでしょうか(何かの機会でご教えていただければ)。

## Q8.コンペティションの改善点や気になった点がありましたら教えてください

審査基準が、明確だと思います。アイデアなのか、実現可能性なのか、経営的な部分なのか、評価ポイントを教えてあげると、学生も考えやすいかと思います。
従前のお知らせに、発表形体や発表時間、質疑応答、テーマなどが記載されておらず、今日は非常に戸惑いました。もう少し、事前に情報を提供して頂けると助かります。

## Q9.参加した感想や希望などをご自由にお書きください

学生らしいアイデアによる提案は、行政の参考となる。今後も継続していただき、たくさんの提案をしていただきたい
学生が、純粋な気持ちで、多摩の未来を想像しており、印象的でした。
非常に自分のためになったコンペティションになったのでよかった。
他の大学の生の研究をみれて、楽しかったですし、勉強になりました
様々な発表があり、興味をもちました。
支障がなければ、学生が配布している資料を後日、PDFでもなんでもいいので、いただければ幸いです。全力で発表している学生が居るのに、チャイムがなかったり、パソコン、プロジェクターの不具合が多く、非常に残念であった。



# 第 3 章

## 本選 多摩の大学生まちづくりコンペティション

日時 平成 26 年 12 月 20 日 (土) 13 : 00~16 : 30

会場 中央大学 多摩キャンパス 3 号館文学部総合棟

## 本選プログラム

---

### 開会式 23号館2階（206号教室）

- 13:00 開会の挨拶 小川哲生 公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩会長
- 13:05 審査委員の紹介

### 本選審査会 前半（206号教室）

- 13:15 発表・質疑応答①
- 13:35 発表・質疑応答②
- 13:55 発表・質疑応答③
- 14:15 発表・質疑応答④

### 休憩

- 14:35 15分間の休憩

### 本選審査会 後半（206号教室）

- 14:50 発表・質疑応答⑤
- 15:10 発表・質疑応答⑥
- 15:30 発表・質疑応答⑦

### 審査委員会

- 16:00 審査委員会 30分間の休憩  
\* 点数を集計し、審査委員会で賞を決定します。

### 閉会式（206号教室）

- 16:30 講評 細野助博 多摩の大学生まちづくりコンペティション審査委員長
- 16:35 表彰式（本選出場者個別記念撮影）
- 16:45 閉会の挨拶  
竹内俊夫 公益財団法人東京市町村自治調査会理事長

### 懇親会 22号館地下1階（食堂）

- 17:00 主催者挨拶  
小川哲生 公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩会長
- 17:05 乾杯  
友山宏済 日本経済新聞社多摩支局長
- 17:30 審査委員の言葉
- 18:15 閉会の辞  
浅井揚三 公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩常務理事

## 本選出場 7 団体

エントリーNo.4	法政大学	八王子駅南口“繋がる”プロジェクト
エントリーNo.5	明星大学	三多摩綜合食品卸売市場と周辺地域のネットワーク構築
エントリーNo.8	多摩大学	諏訪小学校と地域の連携づくり
エントリーNo.9	多摩大学	緑を通じて世代を繋ぐ グリーンライフ・プロジェクト
エントリーNo.10	明治大学	多摩センターを拠点とした住宅衛星都市からの脱却
エントリーNo.13	首都大学東京	行政と地域事業者参加で取り組む地域ブランディング
エントリーNo.19	実践女子大学	トンネル美術館



本選出場 7 団体は、  
11 月 8 日に行われ  
た予選において、16  
団体のうち上位団  
体として選出され  
ました。

## 本選審査委員

審査委員長

細野 助博

日本計画行政学会 会長・中央大学大学院公共政策研究科 委員長

審査委員

木下 斉

一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス 代表理事

佐藤 浩二

多摩信用金庫 会長

澤岡 詩野

公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 主任研究員

諏訪 玲子

株式会社エンパブリック 取締役COO

竹内 俊夫

公益財団法人東京市町村自治調査会 理事長

友山 宏済

日本経済新聞社多摩 支局長

成瀬 直人

株式会社いなげや 代表取締役社長

村山 正道

株式会社立飛ホールディングス 代表取締役社長

山本 護

京王電鉄株式会社 常務取締役

\* 敬称略。審査委員長以下は五十音順



本選の審査委員会は、多摩地域の行政・企業のトップ、まちづくりの専門家、大学教授で構成され、7団体の審査を行いました。審査会では、モデル普及可能性、地域活性化の具体的効果、プレゼンテーションの表現力等を主な評価項目とし、総合的な視点から受賞団体の選考を行いました。

# 開会式

## エントリー団体の抽選会



当日は、本選出場者、審査委員、見学者を合わせて、140名の方にご参加いただきました。本選出場者は、開会式の前に、発表の順番を決める抽選を行いました。



## 開会式



ネットワーク多摩会長 小川哲生

主催者であるネットワーク多摩会長小川哲生の挨拶により、第1回多摩の大学生まちづくりコンペティション本選が開会しました。

## 本選審査



エントリーNo. 9 多摩大学



エントリーNo. 5 明星大学



エントリーNo. 10 明治大学



佐藤浩二 審査委員



澤岡詩野 審査委員



木下斉 審査委員

発表時間は10分間。質疑応答は5分間です。審査委員からは、それぞれ専門的な立場から実現可能性や継続性、資金面等について、具体的な質問が上がりました。

## 閉会式

### 講評 細野助博 審査委員長

審査委員の先生方には長時間厳正な審査をありがとうございました。学生もありがとうございました。まちづくりとは何か。審査委員に講評をいただきます。まちづくりには大きな機転が重要。どういうまちにしたいのか。これは今日で終わりではない。この発表を踏まえて、まず1つはどのようなビジョンでどういうまちにしていきたいかを考えてほしい。2点目は学生にはロジックが大事で、どのような形で成り立っているかを考えてほしい。3つ目として、戦略と実行。それを実現するには、限られた人、時間、金の中でどう優先順位をつけていくのが良いかを考えてほしい。そして、それを評価して、フィードバックする。まちづくりにハッピーエンドはない。エンドレス。ネットワーク多摩は多摩に対してエンドレスラブになってほしい。今回は行政とのコラボレーションはあったが、企業とのコラボレーションを今後は考えてほしい。また、学生のみなさんはもっと暴れてもよい。トンネル美術館の話もあったが、あの穴を破ってしまうぐらいに。

学生なので鳥の目でロジック、戦略を考える。また自分たちのフィールドはどういうところなのかも考えてみる。まちづくりはビジネスで、大事なはずっと続けていくこと、それをどう進化させていくかということになる。エンドレスラブを持ち続けて取り組んでもらいたい。

### 表彰式

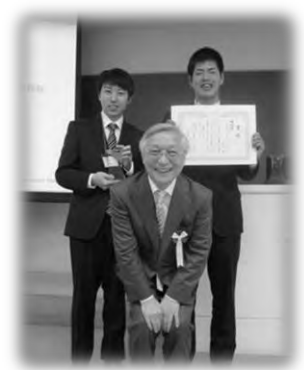


エントリーNo.8 多摩大学



エントリーNo.19

実践女子大学



エントリーNo.4

法政大学

最優秀賞は、エントリーNo.8 多摩大学『諏訪小学校と地域の連携づくり』。優秀賞は、エントリーNo.4 法政大学『八王子駅南口“繋がる”プロジェクト』、エントリーNo.19 実践女子大学『トンネル美術館』が受賞しました。

## 閉会の挨拶 竹内俊夫 公益財団法人東京市町村自治調査会 理事長

自治調査会は東京都の39市町村で構成して、各自治体の安定のために調査研究を行っていて、市長会長をやっているのが、理事長をしている。また細野先生から審査委員で参加するように言われ出席している。多摩は東京都下で大きな県に匹敵する人口を擁している。われわれはその首長として活性化が必要だと取り組んでいる。都下の人口は来年、減少に入る。個々では増えているところはあるが、来年がピーク。青梅市は平成17年にピークですでに3千人減っている。これを止めるのは難しい。それを少しでも押しとどめる必要があり、全体としては都心回帰の傾向がある。大学などもそうになっている。中心市街地がどこも衰退しており、地域の活性化は大きな課題。多摩地域は自然環境に恵まれており、大学、公共機関も多い。さらには地域に歴史があり、今までの文化に恵まれ、研究機関などもあり、資源に恵まれている。400万人の住宅ストックもある。しかし、活力をさらにもってこれからの時代に臨むことが課題になっている。今回のまちづくりコンペでは多くの学生に参加をしてもらい、素晴らしいことだと思う。学生のみなさんは多摩地域についていろいろ考え、活性化についてまとめて実践していただく、いろいろな面から取り組んでアイデアを出していただくことでこれからも積極的に応募して貴重な考えを勉強していただき、行政、企業、商店街などがそれを実際にやっていくことができれば、地域の活力が上がり、人口減少社会に臨んでいけると思う。素晴らしい発表をありがとうございました。来年もコンペは実施されるということなので、引き続き取り組んでいただき、将来は多摩のために働いていただければと思う。最後にネットワーク多摩に感謝を申し上げてあいさつとさせていただきます。



竹内俊夫 審査委員



## 懇親会の様子

### 審査委員の講評



成瀬直人 審査委員



村山正道 審査委員



山本護 審査委員



諏訪玲子 審査委員



木下斉 審査委員



澤岡詩野 審査委員

懇親会では、審査委員より学生へ向けた講評が行われました。



友山宏済 審査委員

日本経済新聞社多摩支局長の友山様より乾杯のご挨拶をいただきました。



ネットワーク多摩常務理事  
浅井揚三

懇親会では、エントリー団体、審査委員、見学者、ネットワーク多摩加盟機関の関係者の交流の場となりました。



## 第 4 章

### 本選発表概要・プレゼンテーション

多摩の大学生まちづくりコンペティション

# 最優秀賞

エントリーNO.8  
多摩大学梅澤ゼミ

## 諏訪小学校と地域の連携づくり

### メンバー

代表者 3年 若林拓実  
4年 瀧沢佑太  
3年 石井湧大  
2年 斎藤宣明 西山光希 後藤勇紀

### 指導教員

多摩大学教授 梅澤佳子

## 発表概要

---

### 1. 活動の目的

多摩市は学校・保護者・地域のそれぞれの強化を図り、三者連携をすることによって子どもたちの育成を目指し取り組みを行っている。私たちは三者連携を促進し、地域と児童や保護者が世代間交流するためにはどのような仕組みが望ましいのかを考えた。多摩市内の小学校は、他市では考えられない広々とした敷地を持ち、学内に農園や学校林を持っている。このような豊かな自然環境を活かし、地域と学校の連携を深めることができないかと考えたのである。しかし、児童の教育活動の場を地域に開放することは軽率にはできないこと、慎重な取り組みが必要であることがわかった。

### 2. 活動内容

2011年、我々は先ず、小学校の農園活動等を手伝いながら学び、今後の方向性を模索していくことにし、「特色のある教育活動」として農業活動が盛んであり、文科省が推進する小学校長期自然体験活動の開発事業「多摩の自然学校」を行っている多摩市立諏訪小学校に企画書を持参して連携のお願いにあがり活動がスタートした。

2012年度は、豊かな自然環境にある多摩市内小学校の環境学習を地域に繋げたい、児童が地域と交流する機会を増やしたいという思いで、農はじめのお手伝い（雑草抜き、畝づくり等）や青少協主催夏休みのラジオ体操、地域清掃への参加を行いながら、児童の活動と小学校の農園活動を学ばせていただいた。その中で、我々は、キャリア教育の一環とした6年生の野菜バザーが小学校正門前で実施されていることや、小学校正門は、町外れという場所柄、野菜の購買者は、主に保護者であるということを知り、野菜バザーを学外で開催することを小学校に企画提案した。その後、学校側の了承を得て、冬の野菜バザーを諏訪名店街で実施した。

2013年度は、年度始めに6年生担任の先生より「永山駅周辺で野菜バザーを実施したい。」という希望をいただいた。これこそ我々PJ活動であると思い、企画書を作成し、電鉄各社、警察署、新都市センター開発（株）、多摩市立永山公民館、諏訪名店街等交渉に歩いた。しかしながら、金銭の受け渡しがあることから、諏訪名店街、永山公民館以外は協力を得る事は出来なかった。そこで夏の野菜バザーは、前回同様、諏訪名店街で実施することにしたが、少しでも良いものにしたい思い、一般の事業者がマーケットを出店するイベント内での実施を提案し6年生と行った。秋になり、登校途中、駅改札口で梨の販売を行っているのを目撃した。別の日には菓子パンの販売も行われていた。それを目にして永山駅周辺での野菜バザーを諦め切れず、再度交渉に出向き、冬は、多摩信用金庫多摩センター支店にご協力いただけることになったが、小学生にとって遠いということで諦めた。その内に、色々な所から新都市センター開発(株)に我々の活動が伝わり、永山公民館のご支援もあり遂にグリナード永山広場での野菜バザーを実現させることができました。

2014年度は、6年生担任が新任教員に代わったが、野菜バザーは引き継がれた。販売する野菜の量も格段に増え、当日の売り方にも児童の工夫に変化がみられ、我々もやりがいを感じている。

### 3. 活動成果

これまでの活動成果は、多くのつながりが生まれたことだ。野菜バザーを通して地域の

方々に児童の教育活動を広く知ってもらうことが出来た。「多摩市公民館通信」や多摩市農産物応援サイト「アグリアグリ」に諏訪小野菜バザーに関する記事を掲載していただき、広く情報が発信された。野菜を買っていただいたお客様からは、激励の絵手紙をいただいた。児童手作りのレシートの連絡先（小学校）に住民から連絡が届いた。野菜バザーを心待ちにする住民の方々からの声も届くようになった。多摩大学地域プロジェクト発表祭で大学生の発表に交じって6年生が「野菜バザー」の成果を発表した。新都市センター開発（株）より、『「野菜バザー」がこれからの「住民共生事業」の参考になる活動であった。これからも協力していきたい。』と仰っていただいた。

今年度のゴールは、児童の職業教育・キャリア教育「野菜バザー」の仕組み（マニュアル）を完成させ、小学校地域連携コーディネータの方へ引継ぎを行うところまでとしている。これまでご指導、ご協力を頂いた多くの関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

## 諏訪小学校と地域の連携づくり

多摩大学経営情報学部梅澤ゼミ  
 瀧沢佑汰 (4年)  
 ◎若林拓実 石井湧大 (3年)  
 後藤勇紀 斎藤宣明 (2年)  
 西山光希 (〃)  
 指導教員 梅澤佳子

## 諏訪地区の特色

- ・1971年、多摩ニュータウンで最も早く、第一次入居が開始。建物の老朽化が課題。
- ・マンモス団地が立ち並ぶ。
- ・古い都営団地が多い。
- ・再開発「Brillia 多摩ニュータウン」が話題。
- ・高齢化、少子化が進むが、再開発で児童数は微増している。



## ゼミプロジェクトと本プロジェクトの思い

〔梅澤ゼミプロジェクトの思い〕

- ▶ よい余暇は、人々を幸せにする。
- ▶ よいデザイン (= 仕組み) は、人々を幸せにする。
- ▶ 多世代交流
- ▶ 人と人がつながる仕組みづくり。

〔本プロジェクトの思い〕

- ▶ 豊かな自然環境にある多摩市内小学校の環境学習を地域につなげたい。
- ▶ 児童が地域と交流する機会を増やしたい。

## 多摩市立諏訪小学校の特色

1. プラスバンド活動を通して、豊かな情操・望ましい人間関係を築く。
2. 通常学級と特別支援学級との交流活動・共同学習
3. 農園、花壇などで計画的な栽培活動を行い、自然との関わり、調理、農作物の販売などのキャリア教育につながる学習

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
人数	40人	30人	15人	15人	17人	16人
なかよし学級	4人	11人	10名	9名	12名	8名

全校児童数：187名

教員数：24名

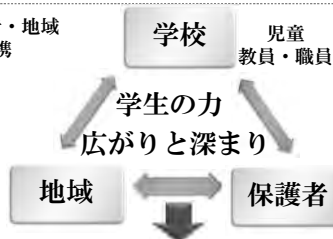
職員数：3名

教育行動指導職員：11名

※通常学級と特別支援学級 (= なかよし学級)

## 本プロジェクトの連携図

学校・保護者・地域  
三者連携



小学校の農園活動を通じての連携

## 農園活動で重要な活動「農はじめ」

野菜の苗を植えるための準備  
 雑草抜き、うね作り、肥料やり等土作り

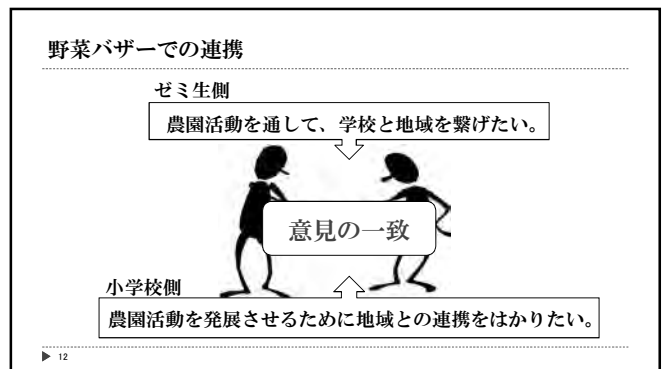
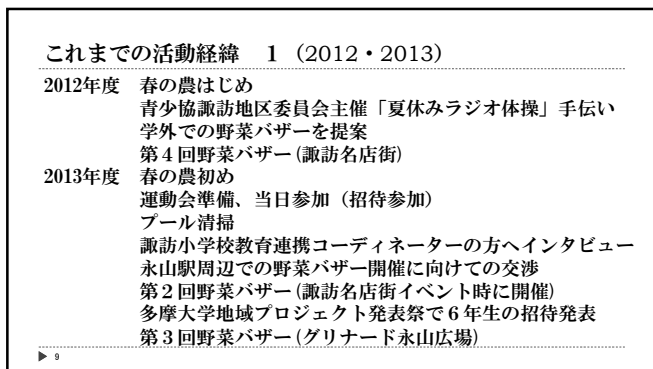
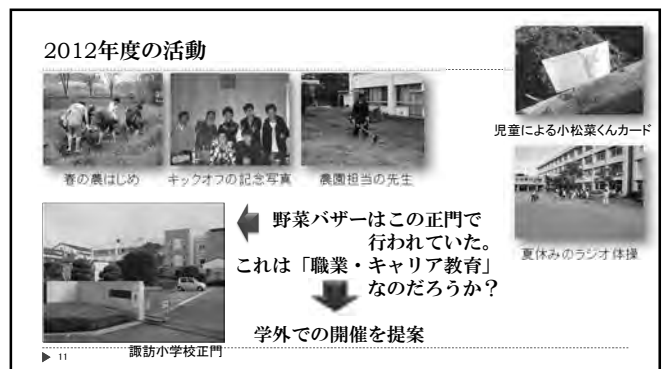
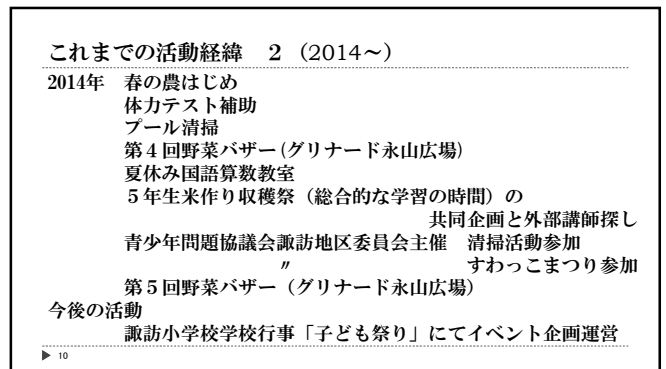
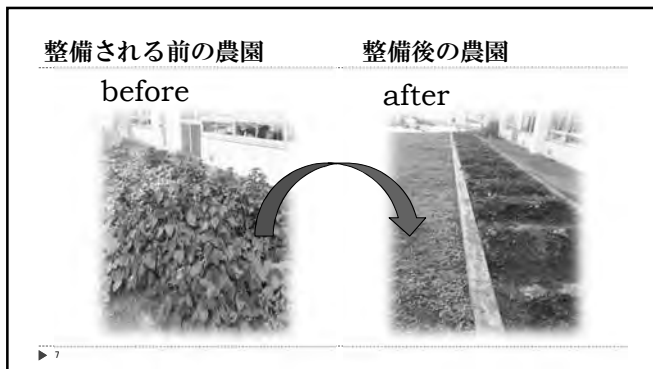


先ずは雑草取りから

われわれが農はじめを手伝うことで、野菜を栽培するスペースが広がり、今まで農園を使っていなかった先生方も教育活動に農園を使うようになった。



根がはっついて大変な作業



## 野菜バザーの目的

〔学校側〕 児童の金銭教育・職業教育

→売って手に入れたお金の使い道を考える

自分たちで作った野菜を売る喜び、手応え

→人の役に立つ・笑顔を与える



〔学生側〕

・諏訪小の農園活動を広く知ってもらおう。

・児童の野菜バザーを応援してもらい、小学校と地域の関係が深まる。



▶ 13

## 野菜バザー、新たな挑戦

6年生担任の一言  
「永山駅周辺で野菜バザーを行いたい」

これこそ我々の仕事である！



▶ 16 商店街会長から児童に挨拶



農園の様子

## 第1回 野菜バザー

開催場所：諏訪名店街

開催日：2013年1月9日(水)

野菜バザー開催に向けて、諏訪名店街へ交渉

趣旨は賛成だが、八百屋の営業妨害になるのではないか。

名店街の会議を経て、開催が実現。

空き店舗のシャッター前。  
テーブルは商店街の備品を  
貸していただいた。



空き店舗シャッター前

▶ 14

## プロジェクトは暗礁に乗り上げる！

- ・新都山センター開発株式会社
- ・京王
- ・小田急
- ・多摩
- ・多摩市役所道路課



小学校の教育活動でも、金銭の受け渡しに関わる活動は許可できない。

- ・諏訪名店街…○
- ・多摩市立永山公民館…○

▶ 17

## 2013年度の活動

- ・春の農はじめ
- ・運動会の事前準備、当日の手伝い
- ・体力テストの手伝い
- ・ブル清掃
- ・第2回野菜バザー開催
- ・教育連携コーディネーターへのインタビュー調査
- ・冬野菜栽培に向けて、秋の雑草取り
- ・第3回野菜バザーの開催



運動会下校バトロール

運動会では地域の方々と

清掃したブル

▶ 15

## 第2回 野菜バザー

開催場所：諏訪名店街

開催日：2013年7月5日(金)

「東北復興応援&サマ

12分で  
完売!!



商店街イベントの告知チラシに「諏訪小学校野菜バザー」を掲載



販売風景

▶ 18

## 第2回野菜バザーの反省点

1. 野菜を購入した方の多くが、保護者となってしまった。
2. 地域と小学校をつなぐことが出来なかった。
3. 小学校側が希望した駅前商店街ではなかった。



反省を生かし、第3回冬の野菜バザーの準備へ

▶ 19

## 「つながり」の大切さ

様々な企業、地域住民から新都市センター開発へ  
問い合わせの連絡が…、  
さらに、永山公民館の職員の方がお願いに。  
自分たちの後押しを

まさに「つながり」

永山「グリナード広場」での開催が実現

▶ 22

## 大学へ登校中の永山駅にて…



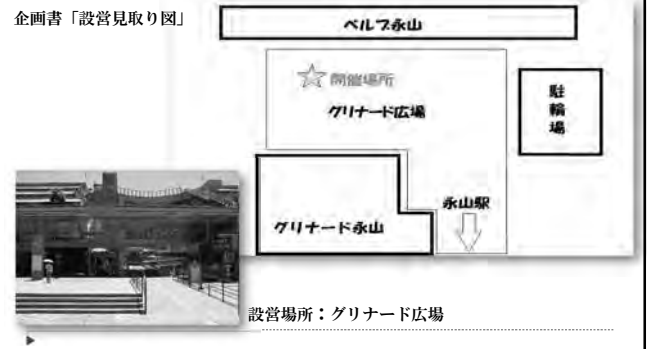
小田急線永山駅のスペースでは、  
黒川の梨の販売が行われていた。



別の日には菓子パンの販売も…

▶ 20

企画書「設営見取り図」



設営場所：グリナード広場

▶

## 駅周辺での開催を諦めきれず、もう一度交渉

さらに「多摩信用金庫」へ！

多摩信用金庫多摩センター支店と永山公民館は、  
協力いただけることに！

**しかし、多摩センターは遠い…**

児童の活動範囲としては、適切でない。

▶ 21

## 第3回 野菜バザー

開催地：永山グリナード広場  
開催日：2014年1月9日（木）



児童の報告資料  
多摩市農産物応援サイト「アグリアグリ」より

▶ 24

野菜バザーを終えた  
子どもたちの教室では...



6年生担任から送られてきた、  
その後の教育活動の様子。

前回は赤字、今回は黒字と着実に成果が上がっていた！

第4回野菜バザー



開催場所：永山グリナード広場  
開催日：2014年7月2日(水)



- ・集客人数約70人
- ・約25分で完売

野菜バザーの様子

プロジェクトの活動がもたらした広がり



2013年・2014年12月  
多摩大学地域プロジェクト発表祭で  
諏訪小学校6年生が野菜バザーの成果を発表(2013年)  
5年生がお米作りについて発表(2014年)

2014年 2月  
小学校の要請により、大学内でキャリア教育の  
講義を実施  
※これは、これまでのつながりによる学校間  
連携で、ゼミ生はサポートのみ。  
しかし、我々の活動が生んだ学校間連携である。

地域清掃、すわっこまつり



地域清掃  
開催場所：諏訪小学校近辺  
開催日：11月23日(日)



すわっこまつりにて子供の補助を行う学生

すわっこまつり  
開催場所：諏訪小学校  
開催日11月29日(土)

諏訪小学校周辺の地域を清掃

本年度(2014)の活動

- ・春の農初め
- ・体力テスト補助
- ・プール清掃
- ・第4回野菜バザー
- ・夏休み国算教室の学習補助
- ・お米の籾摺り体験学習補助
- ・地域清掃
- ・青少協主催すわっこまつり
- ・第5回野菜バザー



農初め



プール始めの清掃



第4回野菜バザー

第5回 野菜バザー



開催場所：永山グリナード広場  
開催日：2014年12月10日(水)  
集客人数：約100名

今期は収穫量が多く、  
40分かいて販売した。



野菜バザーの様子

諏訪小学校教育連携コーディネーターの  
方と共に準備を行った。

## 完成させた野菜バザーの仕組み



▶ 31



初回の企画書

第2回の企画書

▶ 34

## 今後予定している活動

- ・ 5年生のお米の収穫祭のお手伝い
- ・ 諏訪小学校行事「こどもまつり」でのイベント主催 (エスニックスポーツのイベントを企画中)
- ・ 地域連携による野菜バザーの仕組みをまとめる
- ・ 来春の農はじめをおやじの会の方々と連携して行う (次の展開)

▶ 32

## 3年間の野菜バザーの成果

1. 多摩市公民館通信や多摩市農産物応援サイト「アグリアグリ」で児童の野菜バザーを紹介、掲載していただいた。
2. 野菜バザーが地元住民に知られるようになり、開催を待ち望んで下さるようになった。
3. 児童の職業教育「野菜バザー」仕組みを完成させた。



地域の方からの激励の絵手紙

▶ 35

## 新都市センター開発(株)からのアドバイス

1. 企画書だけでは内容が不十分であった。  
 ➡ 野菜バザー開催へ良い返事が出来なかった原因。読んだ瞬間にどのような内容か理解できる企画書を作成することが重要。  
 「企画書は、一人歩きするもの」誰もが説明なしに理解できる企画書を目指せ！
2. 「地域交流、賑わいができ子供たちの為にもなった。これからの“住民共生事業”の参考になる活動だ。これからも協力していきたい」

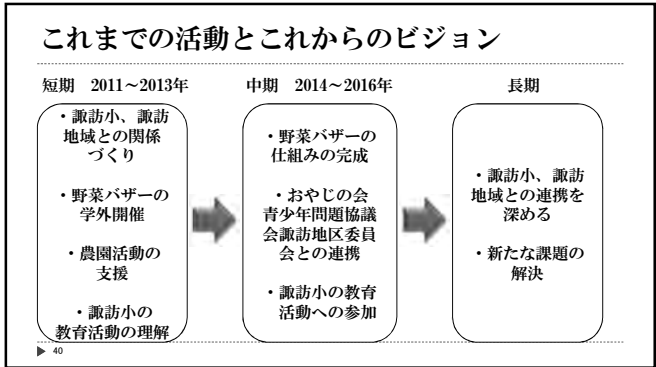
▶ 33

## お世話になった方々から頂戴したお言葉

よく話を聞いてくれた。  
 一番嬉しかったのはPJメンバーの皆さんの活動が素敵で、多摩大学地域PJ発表祭の発表では、一緒に作り上げてきたので思いが伝わってきた。3年間を通して本当に素敵な経験をする事ができた。  
 (諏訪小学校農園担当教員)

世の中では一つの取り組みに対して、すぐに成果が求められたりするが、地域の土台づくりや、人と人との関係づくり、異業種の関係づくりなど、地道に積み重ねてこそできてくる「つながり」の大切さを感じたPJだった。  
 その小さな架け橋を担えたことを嬉しく思う。(永山公民館職員)

▶ 36



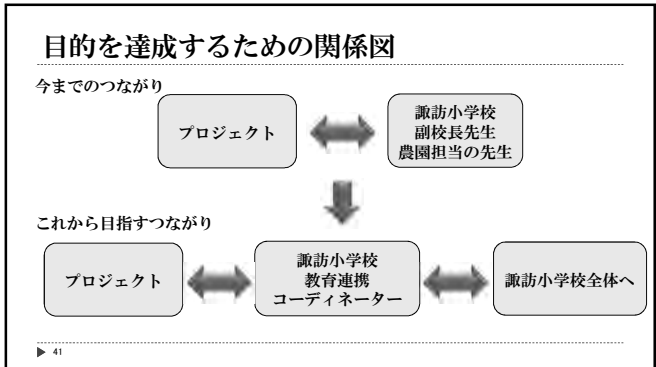
### エコプロダクツ2014

「大学・教育機関コーナー」にて多摩市教育委員会 ESD の連携団体として梅澤ゼミナールの地域活動を展示紹介して頂きました。

12月11日(木)～13日(土)  
東京ビッグサイトにて開催

展示パネル、配布資料

▶ 38



### 感想&これからの目標

気恥ずかしかったり、嫌々行っていたら気持ちは伝わらず、人を動かすことは出来ない。  
人を動かすには「つながり」から生まれるハートが大切。  
(プロジェクトメンバー 3・4年)

青少協諏訪地区委員会主催の行事に積極的に参加して、イベント・活動を理解し、来年は、諏訪小学校と地域をつなげる我々ならではの企画を考えたい。  
(プロジェクトを継承する現2年メンバー)

▶ 39

### 謝辞

主な連携先・ご協力いただきました皆様

1. 多摩市立諏訪小学校
2. 多摩市諏訪名店街
3. 多摩市永山公民館
4. 多摩市教育委員会 諏訪小学校教育支援コーディネーター
5. 多摩市教育委員会
6. 新都市センター開発株式会社
7. 多摩信用金庫

(敬称略)

本プロジェクトにご協力、ご指導いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

▶ 42



夏休みのプール清掃の後、畑の様子をみるプロジェクトメンバー

ご清聴いただき、ありがとうございました。

## 質疑応答

Q. 非常に緻密に着々とプロジェクトを進めていて素晴らしいと思った。児童の職業教育という観点では、小学生が関わることで、どのように小学生の気持ちや考え方が変わったかというのがあるかと思うが、それはどうか。

A. 最初はやりたくないという子が多かったが、自分から雑草抜きなどをやるようになった。大学生が見せて、そこから動けるようになったという発表があった。野菜バザーをどのようにしたいかということを考え、レシートがほしいという案が出た。そこに小学校の電話番号が記載されていて、それを見た購入者からおいしかったという電話があったという。

## 本選審査委員のコメント

進化する活動である。汗をかいて何とか成功しようとする努力は評価できる。活動を分析し、その効果を論文化すること。

実践的で、少ないながらもお金を取り扱いながら教育に踏み込んでいるのが良い。よいプログラムを広げ、生産量も多くする、加工するなどで付加価値をあげる工夫を。

農業以外の職業教育へも波及の可能性を検討してほしい。

地道に地域をつなぐプロジェクトで素晴らしいと思います。高齢化の進む中で地域の高齢者をまきこむ事も視野に入れて展開して頂きたいと感じました。

あきらめずに交渉する姿勢は素晴らしいと思います。学校と地域の連携はどこでも話題としてあがってきていることで、その1つの可能性を示していると思います。次への普及という視点では、学生の成長がどうか、保護者の声、地域の方々にとっての「農はじめ」が持つ意味をさらに深めていけると立派なモデルになってくると思います。学校の体質的な課題は？そこへのアプローチをもっと示してほしい。

フィードバックしながら改善を重ねているのが良くわかった。主体である生徒の姿、変化が見えないが、学校と地域の結びつきは大変良いこと。

長い期間、地域に関わった姿勢は貴重。子供の変化についてもっと言及すべき。

農園活動を通じて小学生の子供たちがどのように変わって(意識、行動等)いったのか発表に入れたほうが良かった。

小学校との連携が身近で現実的と感じた。

子供たちへの成長にはとても良かったと思われる(教育面では○)。まちづくりへの貢献度は効果が見られない、もう少し広がりを持たせてほしかった。つながりの太さを作ることは出来たと思う。

# 優秀賞

エントリーNO.4

法政大学 現代福祉学部 福祉コミュニティ学科 水野ゼミ

## 八王子駅南口 “繋がる”

## プロジェクト

### メンバー

代表者 4年 瀬戸宏昭

4年

伊藤祥希 伊藤大貴 大江達也 佐々木啓太 佐藤高德 霜崎侑哉 鈴木綾香  
瀬戸口夏生 田中博久 橋本恒平 三浦翔平 吉川育実

3年

秋野諭 猪熊銀二 奥山麻美 堺光弘 澤田裕貴 鈴木麗奈 田中豪 中江巧  
山元潤平

2年

飯島隆斗 石川紅葉 黒岩育也 竹内広行 陳玉瓊 西松大輝 前田梨紗  
水沼真由美

### 指導教員

法政大学教授 水野雅男

## 発表概要

---

### ■はじめに

法政大学現代福祉学部水野ゼミは、八王子駅南口での活動を継続的に行ってきた。2012年、大学コンソーシアム八王子にて商店街の活性化のための企画「とちの木マルシェ」を提案した。次年度はその企画の実現に向け、商店街のイベント「ハニーズガーデン」に参加、南口商店街の利用実態調査を行った。

今回の発表は、こういった今までの取り組みのうえでのものとなっている。

### ■活動の目的

これまでのゼミ活動の成果を踏まえ、ベッドタウンとしての一面を持っている八王子駅南口周辺地域（子安町）住民の居場所作りを通して、well-being（誰もが健康で幸せな暮らし）コミュニティの実現を目指すことを目的としている。

### ■活動内容

本年度はリタイアした男性たちが地域から孤立しているであろうという仮説のもと、彼らの「居場所」を作ることを目標に活動を行った。ここでいう「居場所」とは、地域の人達の憩いの場となるような場のことで、「コミュニティカフェ」という形をとる。

「コミュニティカフェ」を地域に居場所のないリタイア世代の男性と協力して運営を行っていくために以下の活動を行った。

- ①「リタイア世代の男性の地域からの孤立」課題の把握。
- ②自主運営に携わる地域のキーパーソンの発掘。
- ③活用可能な地域資源（商店や空き店舗）の把握。

### ■活動記録

#### 6月

子安町に住む人たちの「たまり場」の把握を行った。調査の結果から、商店街という場に「居場所」を作ることが出来ないか、検討を進めることとなった。

#### 7月

子安町の住人とワークショップを行うとともにヒアリング調査を行った。この調査から「リタイア世代の男性の地域からの孤立」という課題を把握した。

#### 8月

運営に携わる地域の「キーパーソン」を探し出すため、懇談会を二回行った。

「コミュニティカフェ起業を志願している石川敏行さん」と出会うことが出来、活動の賛同を得ることが出来た。

#### 9月～11月

南口のハロウィンイベントである「ハニーズガーデン」にて、社会実験「繋がるカフェ&マルシェ」の企画を計画した。企画の目的としては、引き続き核となるキーパーソンを探ること、子安町住民の地域に対する思いを把握すること。子安地域に企画の広報のため、ポスティングを約 2700 件行った。

11月には「出張版つながるカフェ」を六本杉公園にて二回行い、地域住民の生活に即した意見を聞いた。

この2つの企画で得た地域住民の意見としては以下のことが挙げられる。

- ・町内会活動してないと交流の機会が皆無
- ・子安町には交流する場がない(60代男性／40代女性)
- ・定年退職後は地域に対して何かしなければと思うようになった(60代男性)
- ・地域に貢献できる場が望まれる(50代女性)
- ・年配になったら同世代の繋がりや付き合いがあったほうが良い(30代女性)
- ・居場所や地域の情報がほしい(年齢不明女性)

このように子安町には地域とのつながりを作る「居場所」のニーズがあることがわかった。

今回の社会実験では、コミュニティカフェをやる意義の明確化、私たちの活動の認知を広げるいい機会となった。

## 12月

南口商店街にある「みづき」にて、店主の川幡さんご夫妻、出張カフェでつながりが出来た依田さん、石川さんと今後に向けた懇談会を行った。

本懇談会では、

- ①リタイア世代を家から引っ張り出すような仕組みづくりの検討
  - ②居酒屋の空間の場の提供
- について行った。

懇談会から「場所」「キーパーソン」、必要な要素が揃い、来年度の実現が現実的なものとなった。

## ■今後の活動

コミュニティカフェの開業は2015年5月を目指し準備を進めていく。準備としては、石川さん、依田さん、川幡さんご夫妻と複数回のワークショップを行い、具体的なコミュニティカフェの内容について検討を進めていく。

### 大学の関わり方

- ①企画協力
  - ②広報活動
  - ③空間リノベーション支援
- などで協力することを考えている。

他大学との連携も考えており、例えば空間リノベの際に、造形大学に依頼するなど、が考えられる。

### 水野ゼミの関わり方

水野ゼミとしては卒論を通して、子安町を多面的に研究していき、その情報の提供をすることでの協力を考えている。研究成果をコミュニティカフェ事業化の際、活用していただく。

私達のゼミは、この試みを長期的に行うことで、商店街の活性化、コミュニティの活性

化に繋がり、「Well-being コミュニティ」誰もが健康で幸せな暮らしができるコミュニティを八王子駅南口子安町地域に実現できると確信している。

### ■謝辞

本プロジェクトを進めるにあたり適切な助言を賜り、協力して下さったうさぎや株式会社八王子店 小俣能範さん、有限責任事業組合 TRICKY 中村文子さんに感謝いたします。また、今後の活動にあたり繋がりをもたせていただいた、石川敏行さん、依田久志さん、「みづき」川端御夫妻、そして貴重なお時間を割いて快くインタビューを受けてくださった子安町の住民の皆様心から感謝します。本当にありがとうございました。

### ■活動の様子



# 八王子駅南口 “繋がる”プロジェクト

法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科  
水野雅男研究室

リタイアした男性の  
顔が見えない  
コミュニティでの無縁化

Step 0-1&2 昨年までの取り組み

Step-01  
八王子駅南口  
とちの木マルシェ  
市政提言  
2012年12月

Step-02  
八王子駅南口  
ハニーズガーデン  
利用実態調査  
2013年10月



リタイアした男性たちの居場所  
コミュニティカフェの創出  
“Well-being Community”  
実現化へ



Step 1-1 徹底した現場調査

現地踏査 6月  
子安町全域の「たまり場」把握



Step 1-2 **徹底した現場調査**

子安町関係者へのヒアリング調査 7月  
リタイア層の無縁化の問題を把握



Step 2-2 **街の声を聞く**

繋がるカフェ&マルシェ営業 10月26日  
子安町住民などの意見聴取



Step 1-2 **徹底した現場調査**

地域内活動団体との懇談 8月  
コミュニティカフェ起業志願者と遭遇



Step 2-3 **街の声を聞く**

出前「繋がるカフェ」  
子安町六本杉公園で開催 11月2回



Step 2-1 **街の声を聞く**

繋がるカフェ&マルシェ  
企画・広報

子安町2,700軒にチラシ  
ポスティング



**街の声には・・・**

- ・町内会活動してないと交流の機会が皆無
- ・子安町には交流する場がない(60代男性/40代女性)
- ・定年退職後は地域に対して何かしなければと思うようになった(60代男性)
- ・地域に貢献できる場が望まれる(50代女性)
- ・年配になったら同世代の繋がりや付き合いがあったほうが良い(30代女性)
- ・居場所や地域の情報がほしい(年齢不明女性)

## 場とヒト探し

Step  
3-1

コミュニティカフェ事業化懇談会 12月8日

コミュニティカフェ  
を是非ともやって  
みたい！

リタイア男性は  
家に引き籠もり  
がち

来春仕事をやめ  
たら同年代向け  
たまり場をやる

この居酒屋空間  
を使ってもらいた  
い！



## 事業化に向けて

Step  
3-2

コミュニティカフェ 2015年5月開業

場の確保  
居酒屋をリ  
ノベーション

コミュ  
ニティ  
カフェ

ヒト確保  
リタイア  
男性3人  
での協働

法政大学+他大学等

企画・広報  
協力

空間リノベ  
支援

卒業研究  
成果の活用

#### 4 法政大学 八王子駅南口“繋がる”プロジェクト

##### 質疑応答

Q. ぎくしゃくしたことはなかったのか。

A. 一番躓いたのは、一本杉公園みどりの会に参加した時に、なんのために参加するのか、学生はだめだと言われたことがあり、連携できるか不安だった。実際に何度も行く事で信頼を得られた。つらかったが、思い返してみると楽しい経験だと感じている。子供たちにウッドクラフトを配布したが、本当に子どもたちが喜ぶのかが心配で、なんで削っているのかと思っていた。しかし、子どもたちの笑顔を見ることでこんなに喜んでもらえるのであればアルバイトではなく、こっちをやるといふ学生もいた。つらい経験もあって、最終的に楽しい経験になったかと思う。

Q. 利益を求めない地域貢献ができるということを主張しているが、利益を生み出すことができない地域貢献ともいえる。ただなら良いが、金払ってまでやってもらいたくないというものになる。経済性の部分については考えたか。

A. プログラムを実施するときに、参加者からお金を取るかというのを議論した。子供まつりの時は50円もらっているが、学びの場として地域に出ているという感覚もあり、お金がほしいからというよりは、お金が出ない程度の地域貢献、出ないからこそその地域貢献もあるのかと考えている。

##### 本選審査委員のコメント

実験から実業へ、シンクタンク機能、連携のハブになる。ニーズを調べないと実業へと移行しない。カフェオープンの実業計画は？
事業はやる人たちの思うようにやるのではなく、ターゲットでのサービスのあり方から考えるべき、コミュニティカフェよりスタバに人が集まるリアルと向き合うべき。
なぜ地域とのかかわりがないのか、多角的な研究がほしい。
コミュニティカフェの運営を経済的に成立させることは難しいのが実状ですが…この居酒屋の経営者は、コミュニティカフェで生計を立てていく事を考えているのでしょうか？または、この前提条件なのか、趣味なのかで、事業の組み立ても大きく変わってくるのではないかと思います。
リタイア男性をどう外に引き出すのか、その仕掛けについていろいろと試行錯誤していただけると、より具体的な今後の取り組みのポイントが見えてくると思います。また、well-beingコミュニティという言葉に頼らず、自分たちの言葉で、どういう暮らしを実現したいのか考えてみるとよいのではないかと思います。課題は社会全体の課題なので、ぜひがんばってください。
コミュニティカフェ実現に向けた着実な活動の様子が良く判った。
伝えたいことを絞った簡素なレジュメが良い。カフェを来年に開業するというが、継続性、資金、収支はどうなのか。もし赤字が出た場合にどのように補填するのか、その辺の説明をもう少し詳しくしてほしい。
2015年5月に開業予定のコミュニティカフェのオープン後の活動状況を報告してもらえるとありがたいです。
コミュニティカフェの発展に「ボランティア」も加えては！コミュニティカフェに関わる人は良いが、そこに関われない人達をどうするか？
とても小さなマーケットを検証しながら広がりを見つけてきているのは評価できる。また、他の地域についても具体化できる可能性はあると思う。元気な老人たちをさらに元気にしてほしい。全く外に出ない人をどう外に出すかは課題。

# 優秀賞

エントリーNO.19

実践女子大学 和モダン

## トンネル美術館

日野駅周辺『賑わいのあるまちづくり』プロジェクト

### メンバー

代表者 3年 小川華歩

2年 伊集院実梨

### 指導教員

実践女子大学教授 塚原肇

## 発表概要

---

### 1. 発端

2012年7月、日野市役所から駅周辺の活性化について学生と何かできないか、という依頼を受ける。

### 2. 提案

依頼を受けた本学の学生が、日野市の歴史や立地などの特徴から「和モダン」というコンセプトを導き出す。コンセプトは以下の7案。

- ・ 和装お掃除隊
- ・ デザインのれん
- ・ トンネル美術館
- ・ ステンドクラスの街灯
- ・ 居心地良い喫煙所
- ・ コンテナショップ
- ・ 空き店舗利用の駐輪場

このうち、2013年度は「和装お掃除隊」、「デザインのれん」の製作活動を行い実現させている。2014年から「トンネル美術館」のプロジェクトを行っており、現在も活動中である。今回のコンペティションでは、この「トンネル美術館」について発表した。

#### 3-1. 活動

コンセプトは「日野駅周辺に和モダンの風景をつくる」と決定し、初年度は和服を着ての駅の清掃と商店会の暖簾の製作をしました。現在はトンネル美術館の活動を行っている。

#### 3-2. 活動体制

今まで日野市は、何かプロジェクトを始める際、大学や市役所、市民が協議の場を設け調整していたが、それまで行ってきた「和装掃除隊」と「デザインのれん」の活動が好評だったため、新たな体制として、日野市役所と実践女子大学が相互協力・連携に関する包括協定を結び、「賑わいのあるまちづくり」プロジェクト（通称ひのプロ）の実行委員会を立ち上げた。その結果、行政・大学・市民が協力して活動を展開できるようになった。

#### 3-3 新体制

ひのプロの組織は、日野の商品開発や拠点整備、広報などの部会がある。そのうち私たちの団体、和モダンは和モダン部会として参加をしている。

### 4 トンネル美術館

#### 4-1. トンネルの概要・展開

対象となるトンネルは JR 日野駅にある実践女子大学方面の高架下にある。このトンネルは車道をはさんで両側に歩道があるつくりで、壁面には高さ 2 m 以上の二種類の穴が開いているのが特徴。また、昼間でも薄暗く、シールや落書きがある。そこで私たちは、このトンネルの特徴を活かし、壁面の穴を市民の方や学生 の作品を展示するスペースにすることを考えた。明るく開放的な空間を作ることを目標とし、「日野駅周辺に和モダンの風景をつくる」というプロジェクト全体のコンセプトに沿った美術館のデザインをすることとした。



対象の JR 日野駅高架下のトンネル

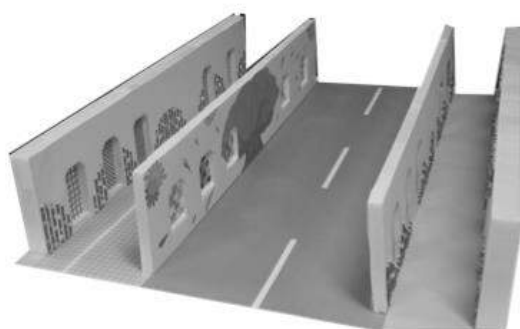
#### 4-2. チーム編成

チームは文学部美学美術史学科と生活科学部生活環境学科から集まった有志 13 名で構成されている。目標を達成するべく、美学美術史学科は日野の歴史や特徴、シンボルの調査を、生活環境学科は CAD や 1/30 模型の作成を主に担当した。

#### 4-3. 活動内容

最低月 1 回はどちらかのキャンパスでミーティングを行っている。夏休みも利用し、2 人 1 組ないしは 3 人 1 組になって 5 つのデザイン案を考え、9 月には模型まで完成させた。どの作品も和モダンをベースに日野市の特徴や自然をもりこんだデザインになった。

#### トンネルデザイン案 1/30 模型



デザイン案 1 例



壁面



展示風景



壁に埋め込んだベンチ



格子

#### 4-4. フィールドワーク

フィールドワークとしては「ひのプロ」主催の各種イベント時に、コンセプトやモックアップのプレゼンテーションを行い、商店会や市民の方から意見を収集している。10月には出来上がったデザインをもって日野市役所で職員の方を前にプレゼンテーションを行い、市長をはじめ、職員から貴重なご意見ご感想を頂くことが出来た。先月は学祭にあわせて、市民の方向けに模型やパネルを展示し、投票を行った。

#### 4-5. 波及効果

現段階で期待している波及効果と運営方法は、トンネル内に展示スペースやベンチを置くことによって人々の流れをつくりだすことを狙いとしている。展示作品については、日野市の各団体や教育機関に協力していただき作品を展示しようと考えている。日野市民の作品を展示することによって、例えば、作品をつくった子供の親族の方がトンネル美術館に訪れ、そこから駅周辺の商店を利用して帰り、周りの人にトンネル美術館の話題を提供することもあるかもしれない。初めは学生が主体となり運営するが、いつかは作品展示が地域に定着した恒例の行事となり、市民が主体となり運営し、「市民のトンネル美術館」という意識につながることを期待する。

#### 4-6. 今後の予定

今年度は今ある5案の中から1案へ絞り込む。絞り込む方法としては投票を考えている。学祭時も投票をしたが、これからまたいくつかの場所で町の人に参加していただき投票により決めようと考えている。来年はその1案をさらにブラッシュアップし最終デザインを完成させ、学生でできる範囲の施工と運営計画をして、2016年の専門家による施工と開館を目指す。

#### 5. 結び

このように私たちの活動はまだまだ終わっていない。これからまた多くの課題が出てくると予想される。たとえば、展示期間やトンネル内の装飾部品の安全性、さらに予算の関係などの課題があると考えます。そのときは今まで同様、仲間や市民の方、市役所、場合によっては警察や専門家と話し合いながら、解決していこうと思う。完成したトンネルを利用する人々に、関心や感動を与えられるよう、これからまた活動していきたいと思う。

# トンネル美術館

日野駅周辺「賑のあるまちづくり」プロジェクトより



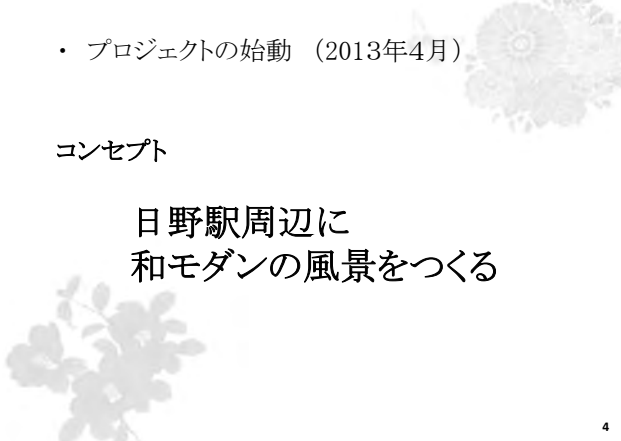
実践女子大学  
生活科学部生活環境学科  
文学部美学美術史学科

1

・ プロジェクトの始動 (2013年4月)

コンセプト

## 日野駅周辺に 和モダンの風景をつくる



4

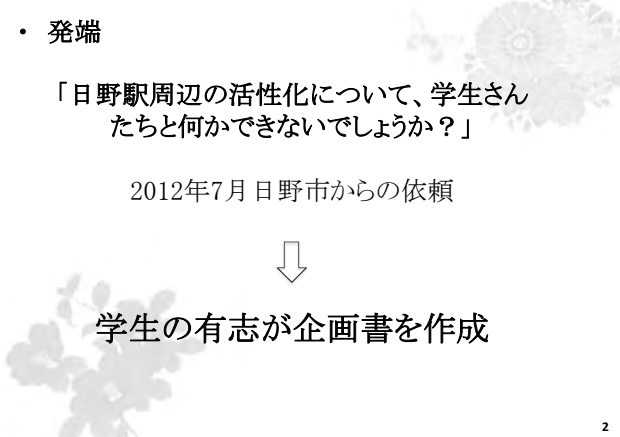
・ 発端

「日野駅周辺の活性化について、学生さんたちと何かできないでしょうか？」

2012年7月 日野市からの依頼

↓

学生の有志が企画書を作成




2


・ プロジェクトの始動 (2013年年度)

- 和装女子大生による「お掃除隊」の実行
- 商店会用のデザインのれんの制作

1. 日野駅周辺のお掃除2013年6月




2. 商店会にお披露目2013年10月



5

・ プレゼンテーション

2012年12月 学生による「和モダン」をコンセプトとした7つの提案

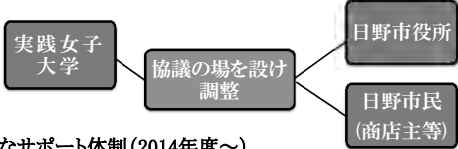


- 和装お掃除隊
- デザインのれん
- トンネル美術館
- スタンドグラスの街灯
- 居心地の良い喫煙所
- コンテナショップ
- 空き店舗利用の駐輪場

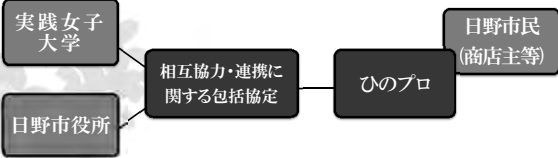
3

・ サポート体制

今まで

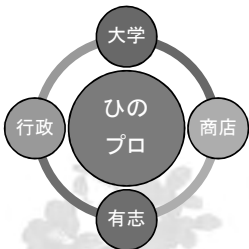


新たなサポート体制(2014年度～)



6

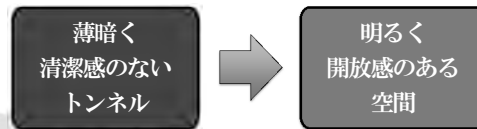
・ひのプロの組織(2014)



- <部会>
- ・フード開発部会  
→ 地元の食材を利用した新しいメニュー開発 (食生活学科)
  - ・拠点整備と運営部会  
→ 共通で使える部屋の改修および活用法 (生活環境学科)
  - ・和モダン部会  
→ トンネル美術館の提案 (美学美術史学科および生活環境学科)
  - ・調査と広報部会  
→ 関連領域の情報収集および広報 (有志)

目標

「日野駅周辺に和モダンの風景をつくる」  
をコンセプトにJR中央線日野駅高架下の  
トンネルをデザインすること

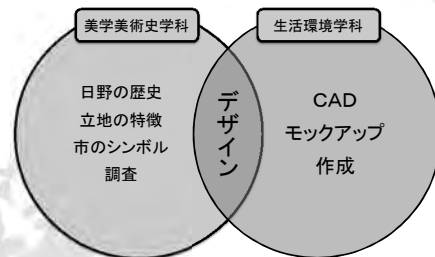


トンネル美術館の概要



目標達成に向けた役割分担

チームは文学部美学美術史学科と生活科学部生活環境学科の有志で構成



・現状

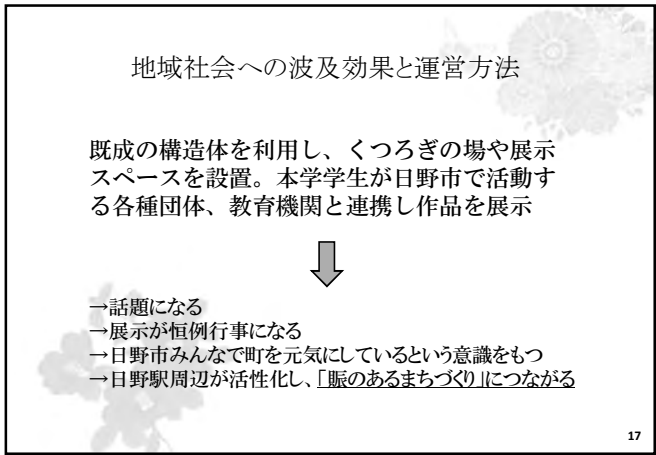
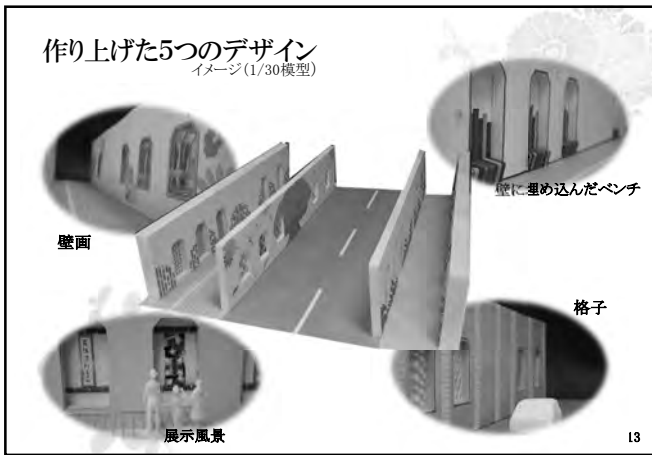



活動: コンセプト決定

コンセプト: 「和モダン」+「女子大生の考えるかわいい」




コンセプト検討会2014年5月





トンネル美術館  
ご静聴ありがとうございました



実践女子大学  
生活科学部生活環境学科  
文学部美学美術史学科

## 質疑応答

Q. トンネル美術館のプラン、レジュメがあるが、構造は変わらないのか。実際に壁に絵をかけることになるのか。維持管理はどうするのか。

A. 構造は変わらない。実際に壁にかけることになる。トンネルに穴が開いている。もともと改札を作る予定だったが、今は穴のままとなっており、どうせスペースがあるのであれば展示スペースにしてはどうかということになった。維持管理は学生でできることは学生でやっていきたい。

## 本選審査委員のコメント

実現のための財政的裏付け。まちの死角の減少の工夫としてとても良かった。
学祭の度に毎年作り変えていくという後輩への引継ぎの要素が欲しい。
時間とともに劣化することへどう対応するか対策が必要。
JRとの連携はしているのか？展示スペースにするというのであれば、コミュニティカフェなどにあるレンタルスペースのようにして、事業運営にかかわる費用にあててもよいと思います。大学がメンテナンスにかかわるのではなく、住民がそこに主体的な担い手となる働きかけをしていくことが大事なのではないかと考えます。
美術館をどう地域のハブ的役割にしていくか？展示と住民の日常をどうつなげるのか、誰の参画をどう促していくのか？展示だけではなく、そこにある暮らしにもう少し焦点をあてていくと、具体的な運営体制なども見えてくると思います。
きれいなトンネルが実現しそうで良かった。
プロジェクトが具体的なだけに非常にわかりやすかった。多摩には多摩美術、武蔵野美術などの大学もあるので、声をかけてみたらどうか。
地域の活性化に向けての「日野らしさ×壁画」のプランAが個人的には好きです。実践レベルの高い発表でした。
暗いトンネルをアート空間に！発想が良く、どこでも実現できる低コストで！
日野市からの要望もあり、スムーズな展開になったと思われるが、波及効果は疑問。専門家がプロジェクトに入ると経済的合理性が求められる。プレゼンは全体的によくまとまっていた。



# 奨励賞

エントリーNO.5

明星大学経営学部 谷井ゼミナール

## 三多摩綜合食品卸売市場と 周辺地域のネットワーク構築

### メンバー

代表者 3年 高野 清貴

荒井弓実 五十嵐直也 石崎啓介 井上昂祐 大越克俊 岡本恵実 熊谷和樹 菌堯之  
田口真一 土手内秀晃 宮臺真希 向林望 森田雄貴 山科天音

### 指導教員

明星大学准教授 谷井良

## 発表概要

---

明星大学経営学部・谷井ゼミナールでは、三多摩総合食品卸売市場と周辺地域のネットワーク構築に取り組みました。私たち谷井ゼミナールでは、この活性化プロジェクトを行うにあたり、A班・B班・C班（各5人）に分かれて活動しました。それぞれの班が企画を考えた上でテストマーケティングを実施し、活性化案の提案を行いました。

三多摩総合食品卸売市場は民営市場として昭和32年12月に昭島市武蔵野で開設しました。青果や鮮魚、干物、食肉、食品調理器具などの幅広い商品を取り扱っています。私たちが市場の現状分析を試みたところ、以下の課題が見つかりました。

- ①小売店の減少などによる専門業者の減少
- ②大型スーパー等の競合他社増加による一般顧客の減少
- ③来客者の多くが40代後半～60代という顧客の高齢化
- ④市場内の安全面や衛生面
- ⑤世代交代が上手くなされていないことによる空き店舗の増加

これらの課題を解決するために、3つの企画を考えそれぞれテストマーケティングを行いました。各班の企画およびテストマーケティングの概要は以下のとおりです。

### （A班企画 縁日イベント）

縁日イベントを開催することで三多摩総合食品卸売市場に一般顧客を増加させて活性化を図る企画です。



目的：

縁日イベントを通して周辺地域に居住するファミリー層との繋がりを築き、一般顧客の増加を目指すとともに、市場の従業員のモチベーションを上げて活気を取り戻すことを目的としています。

テストマーケティング：

ターゲットを市場から徒歩 15 分圏内のマンションに住む 4,111 世帯（武蔵野・つつじが丘・大神町・宮沢町・中神町在住者 3 世帯家族）に設定しました。集客のため、ターゲットである世帯に 4,000 枚のビラをポスティングしました。

縁日イベントは、缶当て、ヨーヨー釣り、スーパーボールすくい、宝探し、輪投げの 5 種類を実施しました。市場内で 1 円以上購入して頂き、そのレシートを受付に渡して、アンケートに回答してもらうことによって縁日イベントに参加することができ、縁日を楽しむことができます。

#### 結果・反省点：

アンケートを行った結果、顧客満足度で高い評価を得ることができました。また、小さい子供だけでなく、高齢者のおじいちゃん・おばあちゃんにも昔を懐かしみながら楽しんでもらえました。

#### 今後の展開：

市場の方の反響が良かった為、今後も話し合いをして定期的に季節や時期にあったイベントを行いターゲットである徒歩 15 分圏内の家族の定着を狙います。

#### （B 班企画 タウンミーティング）

タウンミーティングを開催することで三多摩総合食品卸売市場の課題を抽出し、解決方法を考えるとともに、周辺の金融機関、行政、住民との関係づくりを図る企画です。



#### 目的：

周辺団体とのネットワーク構築を進めるとともに、顧客の生の意見を市場の人に知ってもらい、市場全体の改善・向上につなげて来場者数を上げることを目的としています。

#### テストマーケティング：

タウンミーティングに参加してもらうために企業・金融機関・行政に直接足を運びました。また、一般消費者の声も大切だと考え、市場周辺の人に市場に関するインタビューを行い、協力してくれた方にタウンミーティングについて説明して参加を募りました。前日に参加可能者に連絡を取り、出欠の再確認を行い、当日の人数不足によるリスク管理を行いました。

当日は司会進行1人、進行補佐2人、記録係2人で運営。タウンミーティングには市場関係者、一般消費者、行政関係者、金融機関関係者、企業関係者に参加してもらい、市場で出た課題などに対してブレストなどの手法を用いながら議論しました。

#### 結果・反省点：

今後の市場のあり方や改善策を検討することができました。例として、端材を使った料理店や市場クローズ時間帯の駐車場空きスペースの貸し出しなどがあります。

反省点は一般消費者を集めることが難しく、一般消費者の参加者が当初予定よりも少ない人数になってしまったことです。今後の課題であると認識しています。

#### 今後の展開：

次回のタウンミーティング開催に向けて春を目途に市場の方と話し合い、市場内の課題解決と一般消費者の集客を図っていきたいと思います。

一般消費者と行政・金融機関などの専門知識を持った人と2つのグループに分け、参加者によって内容の異なるタウンミーティングを開催していきます。

#### (C班企画 趣味フェス)

同じ趣味をもった人たちの交流会である趣味フェスを開催することで三多摩総合食品卸売市場と市場と縁のない若者との新しい関係づくりを図る企画です。



#### 目的：

若者×市場、若者×趣味、市場×趣味を合わせることで市場内に賑わいのある活気を取り戻し、市場の方のやる気を取り戻すことを目的としています。

テストマーケティング：

現在、三多摩綜合食品卸売市場の利用者の多くは業者です。そのため新たな新規顧客の獲得が三多摩綜合食品卸売市場の課題であり、新規顧客として若者に焦点を当ててみました。

集客方法として若者が SNS を使用する頻度の高い Facebook を活用し、若者に合わせた集客方法を行いました。

当日は、JR 青梅線昭島駅に集合し、参加者メンバーとスタッフで三多摩綜合食品卸売市場へ移動しました。自己紹介後、グループに分かれ、市場内で食品を買い出してもらいました。その後、立川の昭和記念公園に移動しバーベキューを行いました。グループは少人数制にすることで市場の方も参加者に関わりやすく、参加者同士、話しやすいように雰囲気づくりを心掛けました。

結果・反省点：

この趣味フェスを開催することによって、市場を若者に知って利用してもらえる機会づくりと同じ趣味の若者で交流する場を提供することができました。

市場で働いている方には「私たちの代で店を閉める」と言った声もありましたが、この趣味フェスを行うことによって今までにはない活気のある市場にすることができたため考え直すといった声を聞くことができました。

課題として、昭島駅から市場、市場から昭和記念公園の移動距離が多いため、あまり移動しなくても良い工夫が必要だと感じました。

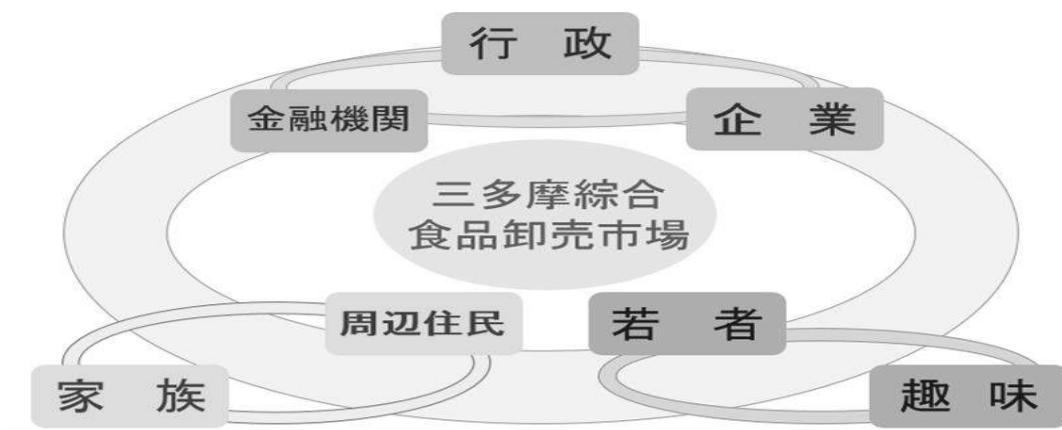
今後の展開：

今後もその時々にあった趣味フェスを開催し若者のコミュニティーツールとして活用して頂き、市場と近い関係を築いていきたいと思えます。

イベントの運営は、市場の方で行ない、今後、試行錯誤しながら最善のオペレーションなどを設定し、定期的なイベント開催を目指しています。

上記3つのテストマーケティングを行った結果、それぞれ以下のように三多摩綜合食品卸売市場と周辺地域とのネットワークを構築することができました。

- ①A班の縁日イベント⇒周辺住民とその家族とのネットワーク
- ②B班のタウンミーティング⇒行政・金融機関・企業とのネットワーク
- ③C班の趣味フェス⇒趣味を通じて若者とのネットワーク



このネットワークをこれからも深め強くしていくために、三多摩綜合食品卸売市場に対し、今回、私たちが行ったテストマーケティングについての開催方法や当日の進行方法、その他、注意点・反省点などをまとめたレポートを提出し、プレゼンテーションを行いました。

<参考資料>

- 三多摩綜合食品卸売市場 HP (<http://www.santama.jp/>)
- 昭島市公式 HP (<http://www.city.akishima.lg.jp/>)
- 農林水産省 HP (<http://www.maff.go.jp/j/shokusan/sijyo/info/index.html>)
- ワールドカフェネット (<http://world-cafe.net/about-wc.html>)

## 三多摩綜合食品卸売市場と 周辺地域のネットワーク構築

明星大学経営学部経営学科  
谷井ゼミナール

1

## 市場の概要

**開設** 株式会社組織の民営市場として  
昭和32年12月10日開設

**出店数** 50店舗 (空店舗 19店舗) **従業員数** 約200名

**アクセス** 中神駅よりタクシーで8分  
昭島駅よりバスで15分 徒歩では約25分

**取扱品目** 青果・鮮魚・干物・乾物・茶・佃煮・漬物  
冷凍食品・練製品・食肉・鶏肉  
食品厨房器具・・・etc.

4

## 目次

- はじめに
- 市場の概要
- 三多摩綜合食品卸売市場の課題
- アプローチ例
- 縁日イベントの詳細
- タウンミーティングの詳細
- 趣味フェスの詳細
- まとめ

2

## 市場の概要



## はじめに

### 三多摩綜合食品卸売市場の活性化プロジェクト

東京都昭島市にある三多摩綜合食品卸売市場を3チーム(各5人)に分かれ、三多摩綜合食品卸売市場活性化へ向けてテストマーケティングを実施し活性化案の提案を行った。

縁日  
イベント

タウン  
ミーティング

趣味フェス

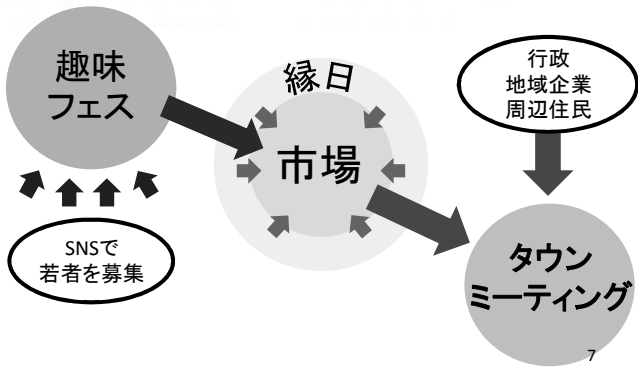
3

## 課題

- 大型スーパー等の競合他社の影響による一般顧客の減少
- 市場の来客者調査を行った結果40代後半～60代の顧客が多いため現状維持では長期的な経営が困難
- 安全面、衛生面で様々な問題
- 世代交代がされず、増える空店舗
- 交通ルート変化による専門業者の減少

6

## アプローチ方法



## タウンミーティング

### 目的

「消費者の声を届けるため  
定期的に開催してもらう」

タウンミーティングを開催し  
多くの機関、行政の方々に協力を得ることで  
多角的な意見を引き出す。

「タウンミーティング開催のマニュアルの作成」

今後、市場の方が定期的に開催するために  
集客方法や開催までの流れをわかり易くしたマニュアルを作成し、  
提供する。



10

## 縁日イベント

### 目的

『地域の輪を広げ、輪を深める』

来場一般顧客増と売り上げ増加による  
市場や地域の活性化

家族どうしの輪を広げ  
家族内での輪を広げる



8

## タウンミーティング

### 実施内容

異なる立場の人達が  
平等に意見交換をできる場を提供。  
市場の関係者や、周辺地域在住の人で、  
自由に意見交換を行い  
今後の市場のあり方や、改善策を出す。



11

## 縁日イベント

### 実施内容

- ① イベント内容  
市場内の空きスペースを  
利用し縁日を開催
- ② 新規顧客開拓  
ビラ4,000枚を  
ポスティング
- ③ 来場者にアンケートの実施



9

## 趣味フェス

### 目的

「市場×趣味×交流会で作る  
新たな価値創造」

### 実施内容

三多摩総合食品卸売市場を  
活用し、シーズン毎に  
異なる趣味のテーマを設け  
若者の交流会を行う。



12

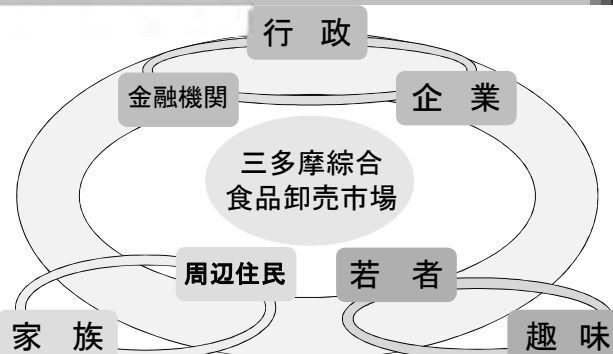
## 趣味フェス

### 特徴

- 三多摩綜合食品卸売市場の食品や商品を若者が初めてイベントで利用することで市場を身近に感じることができる。
- SNSを利用した、三多摩綜合食品卸売市場と当イベントの広報により、同じ趣味を持つ若者同士のコミュニティツールになる。

13

## まとめ



14

発表は以上になります  
ご清聴ありがとうございました

15

質疑応答

Q. 汗をかいている様子がよくわかった。私もここには行ったことがあり、活性化が必要なところで良いところに目をつけたと考えている。私も市場内の温度差があると感じている。その温度差については、関わって変わったと思うか。

A. 提案に行ったときは学生の力はいらないと言われたこともあった。タウンミーティングではいろいろな人が集まって話さざるをえない状況だったので話が出た。また縁日イベントではいつもにはない賑わいが出て、市場もまだまだいけるという声をもらった。

Q. 今後の集客方法など、マニュアルを作成し、自立してやっていける状況になったのか。

A. 実際に縁日イベントは継続して実施されている。その他のものについては大学がサポートしながら動いている。

Q. 大変難しい課題に取り組んでいると思った。市場自体が持って果たせなくてはいけない機能が果たせなくなっている。それが課題として挙げられているが、どうして課題になっていると思うか。

A. 市場の従業員の高齢化、お得意さんのお高齢化で、業者の数が減って売り上げが減っている。また高齢化で私たちの代で終わろうという声があった。

Q. 市場そのものが全体としてその機能を果たせるような環境ではなくなってきたのではないか。その点はどう感じたか。今回の活性化イベントでそれに対応できるのか。

A. 私達も自分たちが関わっても継続的な発展は難しいという話があったが、タウンミーティングで一緒になって活性化していこうという声を聞いた。課題は多いが、私たちの企画を通して市場の活性化につなげたいと考えている。

本選審査委員のコメント

市場の一般顧客が「お年寄り」が多いのはどういう理由か？若者の参加は増えたのか？商店街と同じ状況にあると考えて良いか？成果の具体的事例(客足、客層の変化)。参加主体を網羅して欲しい。
市場の各店の経営力不足を全て高齢化のせいにはせず、買いたくない状況を変える。新規参入は小売・卸ではなく、加工、飲食にすべき。
課題が生じている現状の原因について、もう少し検証が必要ではないか。
“市場”をこの時代に残さなければいけない意義をどう感じているのか？知りたいと思いました。スーパーに果たせて、市場に果たせないこと、その逆の部分を見つけるともっと活性化につながると感じます。
単発的に人が集まるという意味では効果がある一方で、市場の本業部分の本質的な課題は何か、そこに向けて本当に取り組むべき事は何か、という点について、もっと深い考察を期待します。また、3つの取り組みの連携はどの程度行われたか、そこに向けての視点・工夫を聞きたかったです。
市場のサイドの取り組みの変化で、対応可能なのかの検証もしてほしい。難しいテーマへの挑戦に。
三多摩綜合食品卸売市場を選んだ着眼は良い。卸売市場と地域の活性化の関連性についてももう少し説明がほしい。
民間、行政の協力を得た中でのタウンミーティングの企画、開催は評価できる。今後は、継続した活動が課題である。
一般顧客の集客増の思索の中に、家庭の主婦をターゲットとする内容が無いのは？
市場活性化に対して、色々なアプローチを考えているのはおもしろかった。来場者は一時的に増えていると思うが、市場本来の目的の活性化へのアプローチがない。プレゼンはわかりやすくて良かった。

# 奨励賞

エントリーNO.9

多摩大学経営情報学部 梅澤ホームゼミナール

## みどりを通じて世代をつなぐ グリーンライフ・プロジェクト

### メンバー

代表者 4年 高橋草太  
4年 酒井駿 菅寛貴 中村郁也 松田祐貴  
3年 小野元寛 常田恭右  
2年 氏家侑也 井上滉大

### 指導教員

多摩大学教授 梅澤佳子

## 発表概要

---

### 1. 本プロジェクトの目的

多摩市の特徴である豊かなみどりを活用し、以下3つの目的を活動の指針にしている。

- ① 「世代を超えた世代間交流（3世代交流）」
- ② 「人と人を結びつける仕組みづくり」
- ③ 「多くの方がみどりと関わる仕組みづくり」

### 2. 活動の背景

#### （1）多摩ニュータウンの現状と課題

我々が活動している多摩ニュータウンは、戦後の一極集中に伴う住宅不足という課題解決のため開発されたベッドタウンであり、開発から既に40年以上が経過している。現在、多摩市が抱える問題は「高齢化」と「交流の希薄化によるコミュニティの弱体化」である。集合住宅が多いことから、子どもが大人になった時、2世帯以上で暮らすことが難しい為、独立し別世帯とならざるを得ない。近年ではひとり暮らしのお年寄りが増え、コミュニティの重要性が高まっている。しかしながら、共助・互助しなければ生きていけなかった農業中心の地域社会と異なり、現代は、地域コミュニティが生産活動に直結しない。昔のような農村型のコミュニティが今求められているわけではない。これからのコミュニティのデザインはどうあるべきなのだろうか。我々は、この問いに対して答えを模索すべく活動を行っている。

#### （2）多摩市のみどりの現状

多摩市には、「多摩ニュータウン開発時に新たに創出されたみどり」と「昔ながらの多摩丘陵の里山の風景を感じさせるみどり」の2種類のみどりがある。多摩市民のみどりに対する満足度は、27年連続90%以上と他市に例を見ない非常に高い数値である（※多摩市HP調べ）。また、多摩市以外の方々にとっても、遠出をしなくてもみどりに触れることができる場所として重要な価値を持っている。

### 3. プロジェクト発足の経緯

我々は、「みんなの菜園PJ」の活動を通して、多摩の豊富な「みどり」を活かしたコミュニティデザインを提案した。菜園は、花々や野菜を育てるために毎日面倒を見なければならぬ。それを地域コミュニティ全体で取り組むことで、地域の方々が顔を合わせる機会が増え、日常的なつながりが生まれるのではないかと考えた。そこで菜園スペースとして利用できる場を探していくうちに、「ベルブ永山の屋上緑化スペース」が手付かずになっているという情報を得た。2011年度には、屋上緑化スペースをお借りして、“菜園を用いた日常的なつながり”を作るための活動を行ってきたが、屋上緑化スペースは一般利用者に常時開放している場所ではなく、日常的なつながりを作ることが難しいと判断し、活動を断念した。2012年度からは、グリーンライフ・プロジェクトと名前を改め、活動の場を多摩市のみどりの拠点である「グリーンライブセンター（以下GLCと省略）」へと移し、地域の活動を知ると共に、日常的なつながりを模索していった。

### 4. 2012～2014年度の活動報告

2012年度からは、5つの事業を中心に行っている。まず、1つ目は、「ガーデンシティ多摩センターこどもまつり」（5月）である。竹細工を作製し、親子でみどりに親しんでもら

うことを目的としており、GLC、一本杉公園みどりの会と連携し、準備段階から企画・運営を行なっている。竹細工に加え、ウッドクラフトの作製・配布と、竹水鉄砲の作製・竹水鉄砲を用いた射的ゲームコーナーの設置を行っている。2つ目は、「多摩センターハロウィン in グリーンライフ P J」(10月)である GLC の知名度向上と参加者の日常的な利用を目的としている。今後は「GLC に日常的に足を運んでもらう」という目的を三者(GLC、恵泉女学園大学、G L P J)で共有すると共に、目的に適した企画を展開する。3つ目は、「ウッドクラフト講座」である。世代間交流、市民のみどりに対する興味関心づくりを目的としている。また、講師の方のウッドクラフトに関する知識や技術の継承も目的とし、将来的には自分たちで企画・運営を行い、多摩の子どもたちをも巻き込んで一緒に活躍する体制を目指している。4つ目は、「ミニ・ウッドクラフト講座」である。「諏訪名店街東北復興&サマーセール」、「ひじり館夏祭り」など地域の祭り等で講座を開催している。子どもたちに手作りの楽しさを伝えることと、ウッドクラフト講座の認知度の向上、本講座の経験をウッドクラフト講座の将来的な企画・運営に活かしていくことを目的としている。

#### 5. 学生の役割と可能性

学生の活動は、企業の地域貢献活動やプロのコミュニティデザイナーと比べると知識も浅く、資金面や継続性を考えても活動に限界がある。だが、これまでの活動から、学生ならではの強みがあることが分かった。今回のヒアリングでは、地域の方々から、学生はニュートラルな立場で活動でき、利益を求めない、そのため信頼され、人と人との架け橋になれるという言葉がいただいた。学びの一環として、行政などをはじめとする様々な機関と連携することもできる。さらに、「学生にしかできないコミュニティデザインがある。」という言葉も頂いた。

#### 6. 参考文献・参考資料

山崎亮『コミュニティデザインの時代 自分たちで「まち」をつくる』

中公新書 2012年

山崎亮『コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる』学芸出版 2012年

紫牟田伸子+編集部『クリエイティブ・コミュニティ・デザイン』フィルムアート出版 2012年

藻谷浩介『藻谷浩介対話集 しなやかな日本列島のつくりかた』新潮社 2014年

多摩市「みどりのルネッサンス」

#### 参考ホームページ

平成 25 年「みどり率」の調査結果

<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2014/09/60o9t300.html>

多摩市のみどりの基本計画

<https://www.city.tama.lg.jp/plan/946/017327.html>

多摩市公式ホームページ：市政情報、多摩市行財政再構築プラン

<http://www.city.tama.lg.jp/shisei.html>

<http://www.city.tama.lg.jp/plan/14946/saikouchiku/>

一本杉公園みどりの会ホームページ

<http://www.tama-gv.org/ipponsugi/index.html>

総務省統計局 (2013.12.11)

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001116910>

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001105789>

<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001085811>

築山崇「世代間交流による相互扶助活動の活性化と福祉コミュニティ形成に関する実証的研究」 ニッセイ財団 (2010)

<http://www.nihonseimei-zaidan.or.jp/shiryoshitsu/index.html>

朝日新聞「認知症 300 万人時代を生きる」(2013 年 1 月 1 日 12 版 朝刊)

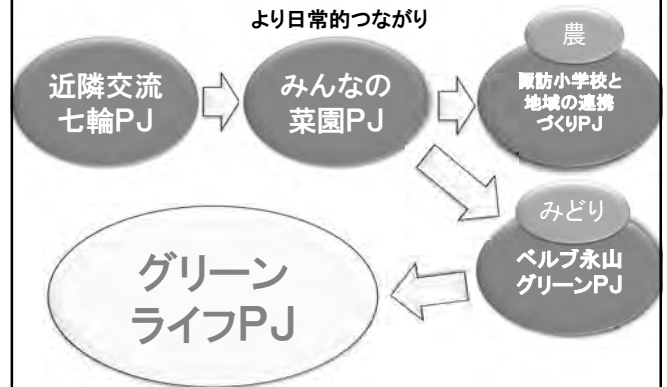
第1回まちづくりコンペティション2014本選  
エントリーナンバーNo. 9

## みどりを通じて世代をつなぐ - グリーンライフ・プロジェクト -

多摩大学経営情報学部 梅澤ゼミ

PJメンバー：◎高橋草太・酒井駿・菅寛貴（4年）  
中村郁也・松田祐貴（〃）  
小野元寛・常田恭右（3年）  
井上滉大・氏家侑也（2年）  
指導教員：梅澤佳子

## PJ発足の経緯

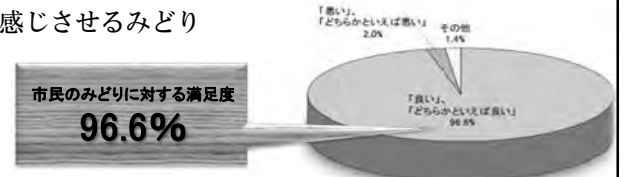


## 目次

- 多摩市の特徴
- PJ発足の経緯
- 多摩市のみどりの特徴
- 多摩市立グリーンライブセンター
- これまでの活動
- 活動の目的
- グリーンライブセンターで実施した主なプログラム
- 我々の活動に対する地域の方々の声
- 活動を通して明らかになった学生の役割と可能性
- 本プロジェクトの効果
- 活動計画
- 活動の流れ
- 学生の感想
- 参考文献・参考資料

## 多摩市みどりの特徴

- \* 新たに創出されたみどり
- \* 昔ながらの多摩丘陵の里山の風景を感じさせるみどり



しかし、みどりの保全是（出典：平成23年度の多摩市政世論調査-H23(多摩市)）  
財政を圧迫しており、  
管理の難しさも課題となっている。

## 多摩市の特徴

\* 戦後の一極集中に伴う住宅不足という課題解決のため、開発されたベッドタウン。既に40年が経過。



抱える問題点

- \* 第一取得者の高齢化
- \* 近隣交流の希薄化
- \* 地域の担い手の発掘と次世代への引き継ぎ

## 多摩市立グリーンライブセンター



## 2011年度の活動

永山公民館の屋上緑化スペースを使い  
バルブ永山を市民の交流の場にする



▲朝顔のネット張り



▲朝顔の配布



▲保育室  
夏のプールを花で飾る

## グリーンライブセンターと協働して 実施した主なプログラム



ガーデンシティ  
多摩センター  
こどもまつり  
親子で竹馬づくり



ウッドクラフト講座



多摩センター  
ハロウィンin  
グリーンライブ  
プロジェクト



## 2012年度の活動

一緒にプログラムを開催できる  
体制をつくりあげた



▲自作ウッドクラフト配布

ガーデンシティ多摩センター  
こどもまつり  
-親子で竹馬づくり-

竹細工を製作し、親子でみどりに親しんで  
頂くプログラム



▲竹ほつくりの制作風景



▲自作竹水鉄砲による射的ゲーム

目的:みどりへの気づきと世代間交流

## 活動の目的

多摩市の特徴である豊かなみどりを活用

1.世代を超えた地域交流(3世代交流)

2.人と人をつなげる仕組みづくり

3.多くの方がみどりと関わる仕組みづくり

多摩センター ハロウィン in  
グリーンライフ・プロジェクト

グリーンライブセンター  
恵泉女学園大学(恵話会、KEES)  
グリーンライフ・プロジェクトの  
三者共同企画



▲お化け退治ボーリング



▲GLCにて、恵泉女学園との集合写真

目的:参加者のGLCの日常的な利用の促進



▲お菓子配布の様子

### ウッドクラフト講座

グリーンライフセンターで  
行われている人気の講座



▲講座のポスター



▲参加者が作製したクラフト




▲講座の様子


目的:みどりへの興味・関心づくり  
技術の継承

### ミニ・ウッドクラフト講座


「諏訪名店街東北復興&サマーセール」  
「ひじり館夏祭り」などで実施した講座  
参加者に簡単なウッドクラフトの作製を  
楽しんで頂くプログラム



▲団地内のポスター

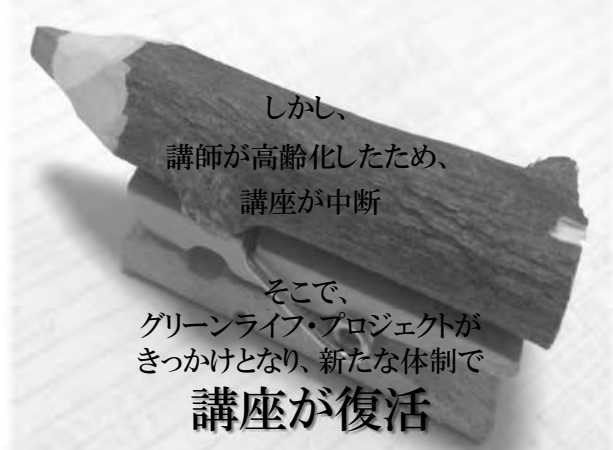


▲ミニ・ウッドクラフト講座の様子①



▲ミニ・ウッドクラフト講座の様子②

目的:子どもたちに手作りの楽しさを伝える

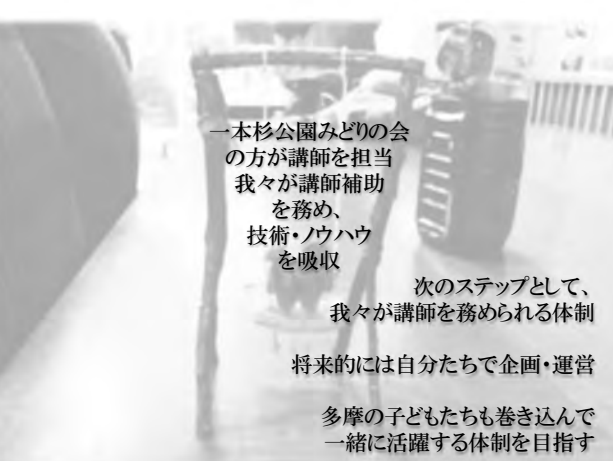


しかし、  
講師が高齢化したため、  
講座が中断

そこで、  
グリーンライフ・プロジェクトが  
きっかけとなり、新たな体制で  
講座が復活

### 我々の活動に対する地域の方々の声

- \* 学生では継続が難しいと考えていたが、予想以上に活動している
- \* 学生にしかできないコミュニティデザインがある  
(多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局長:赤羽 誠)
- \* みどりの会からすれば、孫や子どもと話している感覚であり、学生にとっても70代の人と話す機会は無いだらうから、新しい繋がりが出来ていることはお互いにとって良いこと  
(ウッドクラフト講座講師:佐藤 堅太郎)
- \* 企画をしたい時はその地域の活動や思いを知ること、相手の気持ちを理解することが大事  
(恵泉女学園大学職員:長谷川 陽子)  
(内 敬称略)



一本杉公園みどりの会  
の方が講師を担当  
我々が講師補助  
を務め、  
技術・ノウハウ  
を吸収

次のステップとして、  
我々が講師を務められる体制

将来的には自分たちで企画・運営  
多摩の子どもたちも巻き込んで  
一緒に活躍する体制を目指す

### 活動を通して明らかになった 学生の役割と可能性

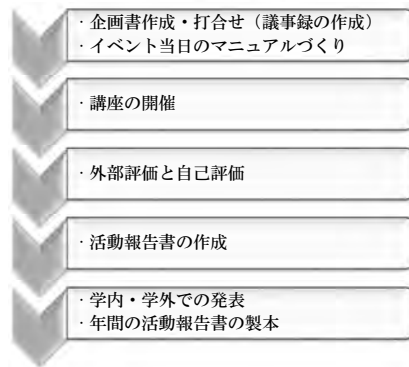
- \* 学生が大人の本気を引き出している
- \* 利益を求めない地域貢献ができる
- \* 学生というニュートラルな立場は、  
地域の方々から信頼され、人と人との架け橋になれる

『学生にしかできない  
コミュニティデザインがある』  
(多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局長:赤羽 誠)

## 本プロジェクトの効果

- \* 学生が子ども達の手本となる
- \* 世代間交流を通じた地域の担い手の育成
- \* 市民による自発的な多摩のみどりへの関わり
- \* グリーンライブセンターの日常的利用者の増加
- \* 地域活動への積極的参画人口の増加  
- 子どもたちの親世代が地域活動に参加し易くなる

## 活動の流れ



## 活動計画

### 短期計画 (2011～2014年)

地域のコミュニティを、みどりを通して繋げたいという思いが、連携団体の方々に理解され、イベントなどの活動を共同で開催できる体制を完成させた。

### 中・長期計画 (2015年～)

来年度はグリーンライブセンター開館25周年記念であり、三者連携も5年目となる。みどりの中核であるグリーンライブセンターと更に連携を深め、多くの方々に、みどりの関わりを豊かにしてもらえるような仕組みをつくる。

## 学生の感想

相手の信頼を得るためには、相手と何度も顔を合わせ、相手が何を求めているのかを考えることが重要であるということ学んだ。  
(プロジェクトメンバー1年)

多くの人と地域の問題を解決していくに当たって、コミュニティの重要性に気づいた。地域の方々と深く交流することで自身のスキルアップに繋がわり、コミュニティの重要性や技術継承がいかに大切かを学びました。  
(プロジェクトメンバー3年)

コミュニティデザインの大切さが少しずつ分かるようになりました。コミュニティづくりは、言葉では簡単に言えるが実際にやってみると大変だということ学びました。  
(プロジェクトメンバー2年)

## 広がる地域のネットワーク



## 参考文献・参考資料

- 山崎亮『コミュニティ・デザインの時代 自分たちで「まち」をつくる』中公新書 2012年  
山崎亮『コミュニティ・デザイン 人がつながるしくみをつくる』学芸出版 2012年  
柴田田仲子+編集部『クリエイティブ・コミュニティ・デザイン』フィルムアート出版 2012年  
藻谷浩介『藻谷浩介対話集 しなやかな日本列島のつくりかた』新潮社 2014年  
多摩市 みどりのルネッサンス  
築山崇 (2010)  
「世代間交流による相互扶助活動の活性化と福祉コミュニティ形成に関する実証的研究」  
参考ホームページ  
平成25年「みどり率」の調査結果  
<http://www.metro.tokyo.jp/INET/CHOUSA/2014/09/60e9t300.html>  
多摩市のみどりの基本計画  
<https://www.city.tama.lg.jp/plan/946/017327.html>  
多摩市公式ホームページ：姿勢情報、多摩市行財政再構築プラン  
<http://www.city.tama.lg.jp/shisei.html>  
<http://www.city.tama.lg.jp/plan/14946/saikouchiku/>  
一本杉公園みどりの会ホームページ  
<http://www.tama-gv.org/ipponsugi/index.html>  
総務省統計局 (2013.12.11)  
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001116910>  
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001105789>  
<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?lid=000001085811>

## 連携団体

### 〔市民団体〕

多摩グリーンボランティア森木会  
多摩市グリーンボランティア連絡会  
一本杉公園みどりの会  
一本杉炭やき倶楽部  
多摩市諏訪名店街

### 〔行政〕

多摩市立グリーンライブセンター  
多摩市永山公民館  
多摩市コミュニティセンターひじり館

### 〔学校〕

恵泉女学園大学  
- 恵泉地域言語活動研究会(恵話会:恵泉お話を語る会)  
" (KEES:恵泉英語教育研究会)

## ご清聴ありがとうございました



エコプロダクツ2014  
「大学・教育機関コーナー」にて  
活動が展示紹介されました

多摩市教育委員会作成  
ユネスコ「ESD Tama Consortium」で  
ゼミ活動を紹介していただきました。

## 9 多摩大学 緑を通じて世代を繋ぐ グリーンライフプロジェクト

### 質疑応答

Q. 研究テーマが企業退職をした人がどう地域に暮らしを見つけていくかということになる。教えてもらいたいの、地域で孤立化した男性をどのような場に引き込むかが大きなテーマだと思うが、居酒屋をリノベーションしたコミュニティカフェをするというが、地域の男性はどのような場を求めているのか、それをどう反映していくのか。

A. 検討段階ではあるが、野菜ソムリエをやっていて、農業に関心があると聞いている。その方面から取り組むもある。また、映画を上映したいという声もあり、そこに興味をもってもらってきってもらうという仕掛けも考えている。60代男性をターゲットにしているが、そこに限定するのではなくしていきたいと考えている。

Q. wellbeingコミュニティの実現のために大切なポイントは何か。

A. どんな人でもそこにいるだけで幸せを感じることができるというもの。これは来年以降に進めていこうと考えている。60代男性がターゲットだが、多世代の人たちが来る仕組みが重要だと考えている。それが地域に広がってネットワークができることで実現できると考えている。

### 本選審査委員のコメント

地に足が着いているプロジェクト。学びとビジネスの調和がないと、継続と進化は困難かな。
ネットにおけるフリーミアムモデルなど、お金を取ることのモデルが多様にあることと向き合うべき。
学生でなければ出来ないモデルを確立すべきではないか。
日常的な交流に着眼している点が素晴らしいと感じています。持続的なものと考えた時に、学生さん達がいなくても住民間の日常的交流が継続し展開していくモデルを次の段階として考えていかなければならない様に思います。
活動の背景にある地域の課題は何か？何の課題を解決するためのプロジェクトなのか？という点ももう少し明確になると良いと思います。ミニウッドクラフト講座を通じて、誰と誰の交流を生むのか、その交流が持つ意味、地域の中に起こす影響をどうはかるのか、「つなげる」の意味をもっと深く掘り下げてもらうと、さらなる発展が見えると思います。
地域コミュニティの姿の見えるプレゼンがほしい。
説明が早口だったので、頭に入りづらかった。レジュメを見る限り有意義なことをしているが、それが伝わりにくい。もう少し論点を絞って見たらどうか。
活動の最終目標が良く見えなかった。
プレゼンテーション評価！正にテーマ健康なので緑は良い、水は？
街のコミュニティの活性化としては成果も見られPDCAのサイクルもうまく回りそう。目的に対してシンプルなアプローチは良かった。プレゼンもきちんとまとまっていてわかりやすかった。

# 奨励賞

エントリーNO.10

明治大学

## 多摩センターを拠点とした 住宅衛星都市からの脱却

メンバー

代表者 山田康平

指導教員

明治大学特任教授 木村乃

## 発表概要

### ●多摩の抱える課題

- ①学生の不満
- ②雇用の創出

#### ① 学生の不満

多摩地域は自然が豊かで資源に恵まれている反面、新宿や渋谷、丸の内などの都心とは距離がある。多摩に通う大学生 91 人にアンケートをしたところ、91 人中 66 人は多摩という地域に何かしらの不満を持っており、不満を持っていないと答えたのは 91 人中 25 人だった。多摩に対しての不満として集中したのが、地理的な問題でした。

- ・都心の大学生に比べて、自分たちの活動の幅が狭い。
- ・もっと活動の場が近くに欲しい。
- ・新宿が遠い。交通の便が悪い。

などの意見が主に出ました。そこで、多摩の大学生が多摩で活躍できる場を創出することが大事だと考えました。



図1 多摩の大学生の声(一部)

#### ② 雇用の創出

一方で、多摩地域の特性上、次のような課題があります。多摩は日本でも有数の住宅衛星都市（ベッドタウン）です。住宅衛星都市の課題として少子高齢化や人口減少、企業誘致や雇用の創出、施設の老朽化、急速な高齢化などの問題が挙げられます。その中でも企業誘致や雇用の創出は住宅衛星都市が抱える大きな問題の1つです。多摩地区は、京王多摩センターや立川、八王子など一部の地域は発展しているが、それらの地域はあくまでも多摩地域においては一部であって、まだまだ企業誘致や雇用の創出の必要性があります。多摩信用金庫、サイバーシルクロード八王子などの提供する事業支援サービスも充実しているが、この部分が地域経済を支えることもあり、地域全体でさらに力を入れていく必要があります。つまり多摩地域において中小企業支援をさらに促進していくべきではないのかということです。

そこで中小企業支援の施策であるエコノミックガーデニングに注目した。

▶エコノミックガーデニングとは・・・

米国コロラド州リトルトン市で初めて実施された施策で、15年間で雇用を2倍、税収を3倍にした地域経済活性化施策です。地域経済全体で中小企業が育ちやすい環境を創り出すという考え方です。企業誘致よりも地元の中小企業を大切に育てて、中小企業の発達によって地域経済も発展させていく考え方です。具体的な施策としては勉強会の実施や中小企業のネットワーク構築、マーケティングや経営戦略情報支援などが挙げられます。



図2 エコノミックガーデニング (EG) とは イメージ図

調べてみたところ、多摩には多摩エコノミックガーデニング推進委員会というものが存在し、勉強会を中心に活動をされていました。勉強会に関しては県外からの参加者もいました。しかし、団体関係者の方に聞いたところ、実践的な部分まではなかなか実行できていない面が課題だとわかりました。というのも社会人のメンバーが多数を占めていたためです。そこで（時間的に）実際に動けるメンバーがいれば活動がさらに横展開でき、活動として広がっていたのではないかと考えました。

そこで多摩の大学生と多摩の中小企業支援を掛け合わせる提案しました。

それが「多摩 EG 学生委員会」です。

この「多摩 EG 学生委員会」によって、さらに多摩地域に活力を与えることができると想定されます。

「多摩 EG 学生委員会」の役割

- ① 勉強会の実施
- ② 中小企業支援施策の実施

中小企業支援施策の例としては課題解決プログラムなどがあげられます。

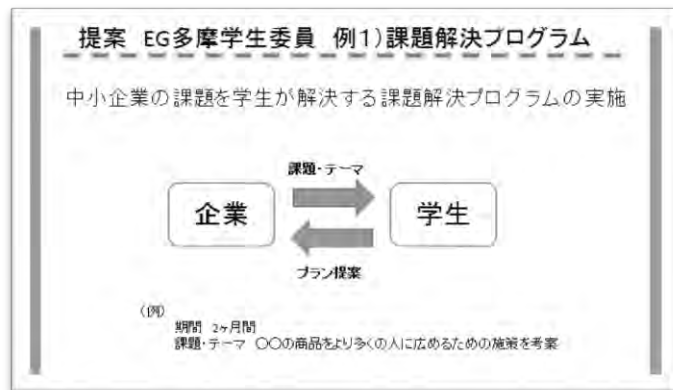


図3 施策例

ここで一つ大事なポイントは中小企業とは何を指すかということです。ここでは、一般的な中小企業だけではなく、個人事業主やアーティスト、クリエイター、未来形で中小企業になりうる人材（例 学生や主婦等）も中小企業に入っていると考えます。

そこで、創造文化都市構想を紹介します。

▶創造文化都市構想とは・・・

文化や芸術、創造産業の力（創造力）をエンジンにして都市を再生するという構想です。ここでの創造産業は映画や音楽、工芸、デザイン、建築、メディアアート、ファッション、ゲームなども含みます。日本では金沢や横浜が創造都市の代表例です。

「多摩 EG 学生委員会」は一般的に言われている中小企業支援をはじめとして、このような部分にも関わっていき、事業を支援していく活動（例:アーティストの発表の場を創出したり、個人事業主への支援プログラムなど）をすることで、地域全体の中小企業を発展させて、結果的に地域全体の経済を促進することにつながるのではないかと考えています。創造文化都市構想は日本各地で進められていますが、なかなか成果を出していません。中でも住宅衛星都市での成功事例はほとんどありません。それは住宅衛星都市内にある企業の規模や数の問題もありますが、地元の企業をうまく巻き込むことができていないことが実現されていない理由の1つだと考えられます。一方で、住宅衛星都市と創造文化都市構想は相性が非常に良いです。なぜなら、文化（芸術や演劇など）は周辺の地域住民の力が大きく影響してくるからです。住宅衛星都市で創造文化都市構想を実現することができれば、創造に関わる活動も活発になり、その地域の周辺に住んでいる住民たちの市民満足度向上にもつながる期待がされる。というのも、自宅から近いところで、魅力的なイベントが開催されるからです。創造都市構想とエコノミックガーデニングの考え方を掛け合わせることで、住宅衛星都市内でも効果があるのではないかと考え、この案を提案いたしました。一般的な中小企業支援ではあまり焦点が当たっていないと思われる部分にもアプローチすることができ、効果があるのではないかと考えていますし、それが住宅衛星都市からの脱却の一步につながればと思っています。

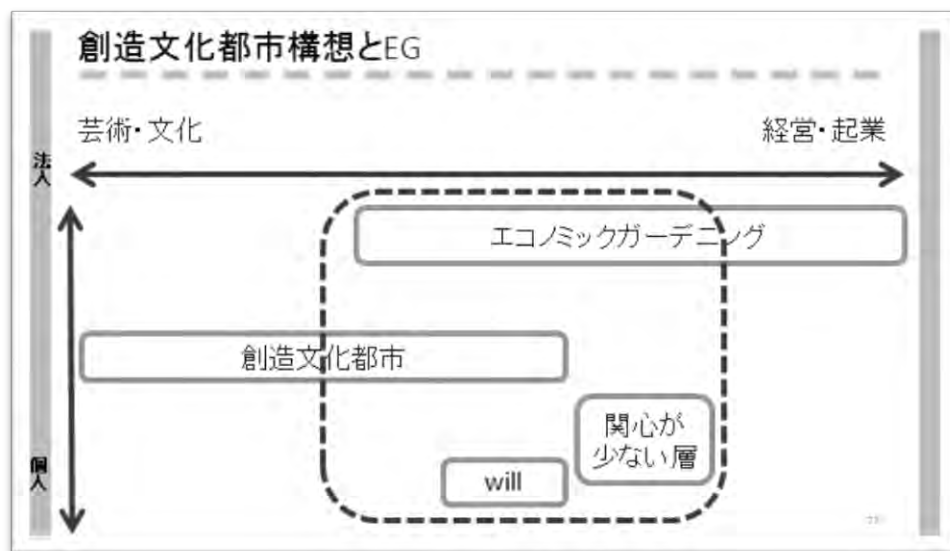


図4 提案イメージ

形や名称などの変更があるかもしれませんが、調査やフィールドワークなども踏まえたうえで、2015年から本格的に活動していく予定です。

(終)

## ◆参考文献

- 中牧弘允・佐々木雅幸・総合研究開発機構編著（2008）『価値を創る都市へ』 NTT 出版  
 小林潔司・朝倉康夫・山崎朗編著（2005）『これからの都市・地域政策』 中央経済社  
 フロリダ,リチャード（2010）『クリエイティブ都市経済論』 小長谷一之訳,日本評論社  
 山本尚史（2010）『地域を救うエコノミックガーデニング』 新建新聞社



## 大学生の声(一部)

(6月18日～6月27日実施アンケート 場所 明治大学 n=123)

多かった回答

- ・何か実績を残したい。
- ・就職活動前に学生時代ががんばったことを作りたい。
- ・何でもいいから楽しいことをやってみたい。
- ・サークルなどではなく学生団体やインターンに力を入れたい。



学生団体

長期インターン

NPO

一般社団法人



多摩の大学生の不満

# 多摩センターを拠点とした 住宅衛星都市からの脱却

明治大学商学部商学科4年 山田康平  
明治大学商学部商学科3年 前田洋輔

## 本日の流れ

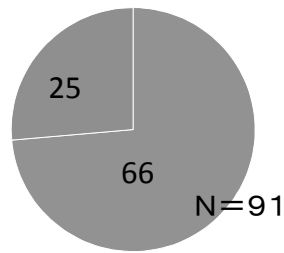
1. 導入
2. 提案概要
3. 対象地域の現状
4. 提案詳細①
5. 提案詳細②
6. まとめ

## 多摩の大学生の声(一部)

実施場所 各大学正門付近やWEB等(6月3日~11月28日)

多摩に通う大学生91人

- ・都心の大学生に比べて、活動の幅が狭い。
- ・もっと活動の場が近くにほしい。
- ・新宿が遠い。交通の便が悪い。
- ・立川があるから満足。
- ・交通費の出費が本当に多い。
- ・学生団体などが少ない。
- ・へんび、何もない。
- ・自然が多くて好き。
- ・モノレールが高い。
- ・家とアルバイト先の往復の日々。
- ・通学だけで恐ろしく時間がかかる。



不満がある=青 不満がない=赤

## 提案概要

# 大学生主体の エコミックガーデニング委員会

## 多摩の大学生の不満

## エコミックガーデニング(EG)とは 概要



米国コロラド州リトルトン市で初めて実施

15年間で雇用を2倍、税収を3倍に

現在では、全米の多くの都市に広がる

### 地域経済活性化施策

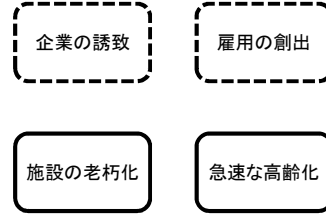
エコミックガーデニング(EG)とは イメージ



企業誘致く地域の中小企業の成長  
「ガーデニング」  
⇒ **中小企業を育てる**

<http://free-photos-is02.gatag.net/images/16f01a201311051200.jpg> (フリー素材集植物より使用)

ベッドタウン(住宅衛星都市)多摩 抱える問題点



エコミックガーデニング(EG)とは 実施自治体例

<実施自治体例>

徳島県鳴門市

静岡県藤枝市

京都府京都市

ベッドタウン(住宅衛星都市)多摩 多摩地域の現状

- ・多摩信用金庫
- ・ビジネススクエア多摩
- ・インキュベーションマネージャーとして施設の運営及び創業・経営相談
- ・たましんブルームセンター
- ・多摩CBネットワーク
- ・たましん事業支援センター(愛称: Winセンター)
  - ・課題解決プラットフォームTAMA
  - ・Winラウンジ・会議室を無料貸し出し

- ・サイバーシルクロード八王子
- ・ビジネスお助け隊(プロ集団)
- ・本気の創業塾
- ・マネジメントカフェ

エコミックガーデニング(EG)とは 実施自治体例

静岡県藤枝市



中小企業診断士の方を招いて講演会・勉強会



異業種メジャーデベューラボ



クラウドファンディングの応援

藤枝エコミックガーデニングFacebookより(最終確認日12月15日)

ベッドタウン(住宅衛星都市)多摩 多摩地域の現状

多摩エコミックガーデニング推進委員会

ベッドタウン(住宅衛星都市)多摩 多摩地域の現状

主体的に動く人材

実践的な取り組み

提案 EG多摩学生委員

学生 × 中小企業支援

提案 EG多摩学生委員

大学生主体の  
エコノミックガーデニング委員会

提案 EG多摩学生委員

山田君。

そもそも中小企業支援って  
どの地域でも力を入れてやっているよ...

提案 EG多摩学生委員

大学生(明治大学が主)

- ・何か実績を残したい。
- ・就職活動前に学生時代ががんばったことを作りたい。
- ・何でもいいから楽しいことをやってみたい。
- ・サークルなどではなく学生団体やインターンに力を入れたい。

中央大学 明星大学

- ・都心の大学生に比べて、活動の幅が狭まってしまう。
- ・もっと活動の場が近くにほしい。
- ・新宿が遠い。交通の便が悪い。
- ・(活動していると)交通費の出費が本当に多い。
- ・学生団体などが少ない。
- ・へんび
- ・何も無い。

提案 EG多摩学生委員

学生 × 中小企業支援

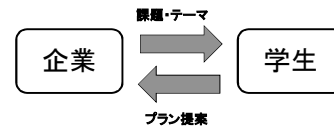
提案 EG多摩学生委員

## 学生主体に 組織された委員会

たましん事業センター  
多摩信用金庫  
ネットワーク多摩

提案 EG多摩学生委員 例1)課題解決プログラム

中小企業の課題を学生が解決する課題解決プログラムの実施



(例)

期間 2ヶ月間

課題・テーマ ○○の商品をより多くの人に広めるための施策を考案

提案 EG多摩学生委員



提案 EG多摩学生委員 例1)課題解決プログラム②

With 大企業

With 地方自治体

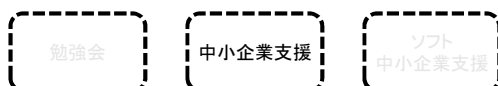


引用元 <http://nikkeinews.wix.com/nccc>

<http://www.miraijichitai.com/>

(最終確認日12月16日(水))

提案 EG多摩学生委員



提案 EG多摩学生委員 例2)映像資料提供サービス①

大学生による中小企業対象の経営戦略情報やマーケティングに関する学術情報映像資料の作成および配信

中小企業 : オンラインの視聴が可能→時間の確保  
学生 : 学習・研究の整理 実績を残せる

提案 EG多摩学生委員 例2)映像資料提供サービス②

最新の学術マーケティング講座



創造文化都市構想とは 金沢の事例



金沢美術工芸大学



金沢21世紀美術館



金沢市民芸術村

工芸を継承・発展させる人材を育成し、地元の産業界との連携を強化している。

2004年にオープン、工芸作品も積極的に収集しており、伝統に革新を加え、新たな文化の創造と発信の拠点として、来館者は年間150万人を超えている。

元紡績工場の倉庫群を改修。市民の芸術活動のために自由に利用できる創造空間として「1日24時間、1年365日」開放されている。

提案 EG多摩学生委員

学生 × 中小企業支援

創造文化都市構想とは 横浜の事例①

- ◆アーティストやクリエイターの滞在、制作、発表場所の創出。
- ◆市所有の物件をアートや創造産業の拠点として活用し、周辺地域の将来的な価値上昇、経済活性、コミュニティ形成。



横浜創造都市センター(旧第一銀行横浜支店)

<http://yokohama-sozokaiwai.jp/>より引用 (最終確認日12月17日)

創造文化都市構想とは 概要

創造文化都市構想とは

文化や芸術、創造産業の力(創造力)をエンジンにして都市を再生するという構想

創造産業(クリエイティブ産業)＝映画・音楽・工芸・芸術・デザイン・建築・メディアアート・ファッション・ゲーム等

創造文化都市構想とは 横浜の事例②

地元企業 × デザイナー



<http://yokohama-sozokaiwai.jp/>より (最終確認日12月17日)

創造文化都市構想とは

横浜の事例③



Art Rink in 横浜赤レンガ倉庫



横浜JAZZ PROMENADE



黄金バザール(アートのフェスティバル)

<http://yokohama-sozokaiwai.jp/>より (最終確認日12月17日)

提案 EG多摩学生委員

創造都市構想 × エコノミックガーデニング

⇒ ベッドタウン 多摩で

創造文化都市構想とは

概要②



市民生活向上



街の活気



活躍の場を創出

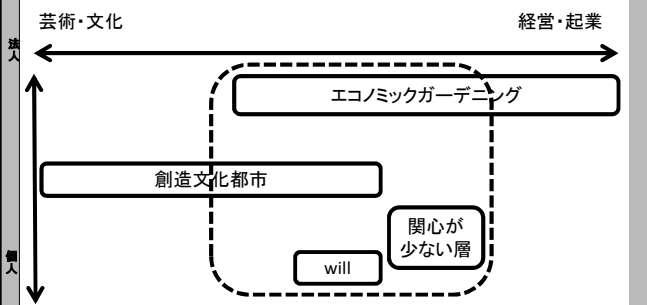
提案 EG多摩学生委員 概要

勉強会

中小企業支援

ソフト  
中小企業支援

創造文化都市構想とEG



提案 EG多摩学生委員 例3) 本格スキル教室

業務やビジネスにつながるレベルのスキルが身につく教室を開催

現在は市民の教養を深める趣味程度のもが多い

⇒ **仕事でも使えるスキルを身につける上級コースを用意**

(HP作成 Facebook運用 イラスト講座 絵画レッスン 写真教室など)

ベッドタウン(住宅衛星都市)多摩 市民サービス施設①



多摩市立複合文化施設  
【バルテノン多摩】

1987年に開館の複合文化施設。ホールや展示室、会議室・アトリエなどを備え音楽・演劇・映画・ワークショップ・美術展・歴史ミュージアムなど、様々な催し物や展示も開催。

市民向けの教室なども実施  
→地元企業とのコラボ実績あり



多摩市立図書館(本館)

平成20年3月に市役所となりから旧西落合中学校跡地に移転。

平日にも関わらず多くの人が利用  
→平均滞在人数 89.5人  
平日14時前後使用人数(個人調べ)



たま・まち交流館

まちそだて支援のためのコミュニティスペース。  
会議、講演会、教室、作品発表の場として貸しスペースとしての利用可能。

階段に無料展示スペースあり

まとめ①

ベッドタウンからの脱却  
そしてその先へ向けて

<キーワード>  
EG × 学生 × 創造都市

ベッドタウン(住宅衛星都市)多摩 市民サービス施設③

- ・平日、休日ともに多数の市民がいる
- ・ポスターやチラシなどの効果⇒広報力
- ・施設や設備の充実

まとめ②

大学生主体の  
エコノミックガーデニング委員会

ベッドタウン(住宅衛星都市)多摩 市民サービス施設③

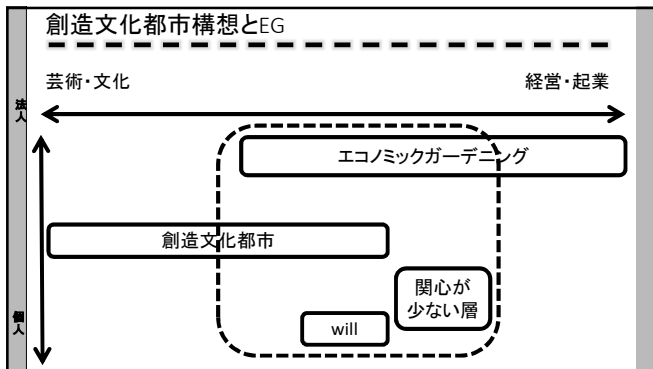
“市民向け講座や施設の充実”という強み  
+さらなる市民サービスの充実

まとめ③

勉強会

中小企業支援

ソフト  
中小企業支援



提案 EG多摩学生委員

学生主体に  
組織された委員会

たましん事業センター  
多摩信用金庫  
ネットワーク多摩

まとめ④

ベッドタウンだったからこそその強みを活かしたまちづくりを！

市民向けサービスと中小企業支援を混ぜ合わせることで、多摩独自の創造文化都市へ！街の活気にもつながる！

運営の主体は学生にすることで経費削減、継続力を生むと同時に、ニーズも満たす！何よりも学生のパワーに期待！！



参考文献

中牧弘允・佐々木雅幸・総合研究開発機構編著(2008)『価値を創る都市へ』NTT出版

フロリダ,リチャード(2010)『クリエイティブ都市経済論』小長谷一之訳,日本評論社

山本尚史(2010)『地域を救うエコノミックガーデニング』新建新聞社

塩沢由典・小長谷一之編著(2007)『創造都市への戦略』晃洋書房

佐々木雅幸・水内俊雄編著(2009)『創造都市と社会包摂』水曜社



## 補足資料

### ベッドタウン(住宅衛星都市)多摩 多摩の街並み

#### 多摩センター周辺の文化・商業施設

- ・パルテノン多摩
- ・多摩美術大学美術館
- ・サンリオピューロランド
- ・多摩カリヨン館
- ・ココリア多摩センター
- ・丘の上プラザ
- ・丘の上パティオ
- ・ライオンズ・エルモール
- ・クロスガーデン多摩
- ・京王多摩センターSC など (赤字は2006年以後)

### エコミックガーデニング(EG)とは



引用元 エコミックガーデニング鳴門 <http://www.eg-naruto.jp/about/> (最終確認日 12月16日(火))

### ベッドタウン(住宅衛星都市)多摩 多摩地域の現状

#### ◆サイバーシルクロード



### ベッドタウン(住宅衛星都市)多摩 業務核都市

#### 業務核都市基本構想

東京圏における住宅問題、職住遠隔化等の大都市問題の解決を図るため、東京都区部以外の地域で相当程度広範囲の地域の中心となるべき都市(業務核都市)を業務機能をはじめとした諸機能の集積の核として重点的に育成整備し、東京都区部への一極依存型構造をバランスのとれた地域構造に改善していく必要があります。このため「首都圏基本計画(第4次)(昭和61年6月決定)」において、業務核都市の整備の考え方が示され、昭和63年に制定された多極分散型国土形成促進法において業務核都市制度が定められ、これらに基づく支援措置等により、業務核都市の育成・整備が進められてきました。

⇒多摩センター周辺を企業の集積地に

引用元 国文省 業務核都市 <http://www.mlit.go.jp/crd/daisei/gyoumukaku/> (最終確認日12月15日(月))

### 提案 EG多摩学生委員 例2)映像資料提供サービス③

#### 例)日経新聞学生解説

日経新聞様と共同で  
3か月間 毎日学生が1記事ずつ紹介・解説  
または市民を参加型討論をしたものを映像配信





## たま・まち交流館

まちそだて 支援のために多摩センター駅にオープンされたコミュニティスペース。運営は新都市センター開発㈱で会議、講演会、教室、作品発表の場として貸しスペースとしての利用可能。



- ・固定された団体の利用が多い
- ・多摩ニュータウンに関する資料を閲覧できる
- ・東京都観光案内窓口に指定
- ・貸し会議室の予約はほとんど埋まっている。
- ・階段に無料展示スペースあり

## 多摩市立複合文化施設[パルテノン多摩]

1987年に開館した「パルテノン多摩」は特徴的な外観を誇る複合文化施設。ホールや展示室、会議室・アトリエ・和室などを備えています。音楽・演劇・映画・ワークショップ・美術展・歴史ミュージアム・自動演奏楽器など、様々な催し物や展示も開催。

- ・市民向けの教室なども実施  
→地元企業とのコラボ実績あり

- ・会議室も平日・休日ともに多くの利用されている  
→ただし、平日の夜は比較的空いている。

- ・料金は広さにも寄るが3時間で4000円程度。



## 多摩アカデミーヒルズ

多彩なスペースを持つ総合施設。宿泊・研修や会議・スポーツ・レストランなどを完備。地域大学や多摩市をはじめとした行政、近隣住民とともに、教育・研究・文化振興の拠点として活用。

- ・生涯学習や各種シンポジウム等の会場としての利用

- ・地域の大学間連携の拠点  
→各種講義やイベント等の会場としての利用  
→各種教室も開催（絵画、バレエ等）

- ・桜美林大学の学生もかかわっている  
→例 学芸員として

- ・一般の企業も多数利用している



## 多摩市立図書館(本館)

平成20年3月に市役所となりから旧西落合中学校跡地に移転。  
1階は開架スペース、2階は閲覧室・学習室等、3・4階は閉架書庫。



- ・平日にも関わらず多くの人が利用  
→平均滞在人数 89.5人  
(平日14時前後個人調べ)

- 一日あたりの平均利用人数(推定)  
少なくとも150人~300人

- ・イベントのチラシやポスターも多数掲示  
例)パルテノン多摩のイベント 唐木田バザー等

## 多摩美術大学美術館

キャンバス移転に伴い移動。一般にも開かれた多摩美術大学の大学付属施設。



- ・多数の展示が行われている。
- ・公開講座・学生パフォーマンスも実施

質疑応答

Q. 先に最後のPPTを見せたら良かったと思う。エコミックガーデニングと創造文化都市をうまくつなげるというのがやりたいことということなのか。そして、それをつなげるのが学生の強みということか。

A. このような取り組みを行っているが、そこで止まっているその先の露出する場を増やすなどの企画ができるのは学生だと考えている。

Q. 支援するところはたくさんある。みなさんの観点をもってビジネスを起こすのも良いと思う。

A. 大学院に進学しても多摩にかかわっていきたい。

本選審査委員のコメント

学生は支援でなくて、創業して欲しい。理論は勉強をしっかりと行って欲しい。
まずはプランではなく、やってみてから発表をしましょう。
大学での研究をどう企業経営の課題解決につなげるのかが課題ではないか。
学生＝“つなぎ手”として、実際に動きを創り上げて頂きたいと感じました。頑張ってください!!仲間を見つけてまずは動いてみてください。
自分たちが持つ資源は何か、中小企業が持つ課題は何か、具体的に周りの方にどんどんヒアリングをして、どこに焦点を合わせていくのか、その絞込みをしていかないと、具体的な支援が得られにくいかなと思います。アーティストに焦点をあてるなら、中小企業のデザインに関する課題を取り上げるなど、何と何をつなげるのか明確にもらえるるとより良いかと思います。
提案は良いが、少しでも実践したものを発表してほしい。
支援機関は多摩には多くある。それらの課題と違いを説明してくれれば良かった。説明したつもりかもしれないが、わかりづらかった。
考え方や発想は良いのだが、実践レベルでの活動内容が不足しているのが残念である。
声が大き過ぎる。時間の配分？
エコミックガーデニングの発想は良い。中小企業の支援の具体的な施策が見えない。熱いプレゼンは良かったが、もう少し踏み込んでほしかった。創造文化都市構想とエコミックガーデンの結びつきが見えないのでプレゼンとして難解になってしまった。

# 奨励賞

エントリーNO.13

首都大学東京大学院

## 行政と地域事業者参加で 取り組む地域ブランディング

### メンバー

代表者 平田徳恵

李鏞遠 山本大地

### 指導教員

首都大学東京教授 川原晋

## 発表概要

近年、地域活性化を念頭に地域ブランディングに取り組む例が増えている。地域ブランドは「地域資源の価値が地域内の生活者、関連組織に共有され、それが地域外へ発信され、定着することによって構築される」<sup>1)</sup>とされ、地域ブランディングは地域の観光振興に向けてこのような地域ブランドに取り組む一連の活動をさす。

企業ブランディングの一般的手順としては、まず企業内のブランド推進主体が売り出したいモノや価値を確定し従業員へのインターナルブランディング<sup>注1</sup>が行われる。その応用による地域ブランディングも、行政や事業者組織等により売り出したいモノや価値を確定、地域内・外への啓蒙・普及活動(図1)が進められる。しかしながら地域の場合、ブランド推進主体が行政や観光事業者など多主体に渡るにも関わらず、ブランドコンセプト決定に多主体間での協議や合意形成はほぼ行われていない。結果、地域関係者へのインターナルブランディング(共有)の効果は薄いものとなる。また従来のまちづくりでは、地域外への発信といった④エクスターナルブランディングの視点からはほとんど取り組まれていない。

そこで本研究では、行政や地域の観光事業者等の多主体からなる地域ブランディング研究会による地域ブランディング導入手法の開発と検証を行う。研究手法は、地域ブランディングワークショップ(以下WS)<sup>注2</sup>を計画・実施し、WS成果物を地域内観光施設の会議に適用し効果を検証する。

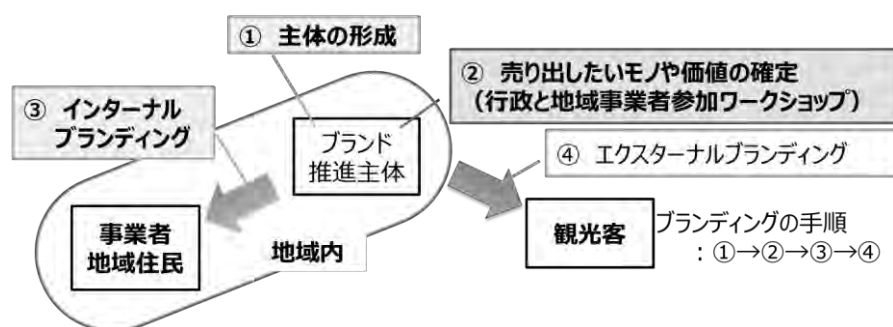


図1 地域ブランディングの手順の概念図

研究対象地(図2)は東京都あきる野市<sup>注3</sup>である。調査により市の中心を流れる秋川は穏やかで川岸にアクセスし易く川沿いにキャンプ場やBBQ場、流域圏に鍾乳洞などが有り、かつては林業が栄え、和紙の産地であり、明治初期には五日市憲法草案が作られたこと等が分かった。また湧水を使用した酒造や醤油醸造所もある。森林レンジャーや地域のファンクラブ「秋川溪谷くらぶ(AKC)」の活動も存在する。そこでこのAKCを母体とし秋川溪谷ブランディング研究会(AKB研)を立上げ、WSを開催することとした。

表1にWS作業の流れを、図3に作業フローとWS成果物である地域ブランディングツールの関係を示した。はじめに、地域ブランディングは総合的かつ持続的に行うことが重要という視点から、ブランディング対象とする地域資源を、一般的に注力されがちな特産物だけでなく環境や交流<sup>注4</sup>までとする概念(図4)<sup>6)</sup>を示した。初回WSで地域を統合的にブランディングする為にこれらを束ねる地域理念をライフスタイル(以下、秋川溪谷LS)から

組み立てるべきと合意され、第2回は秋川渓谷LSを作成するWSをデザインし実施(写真1)した。

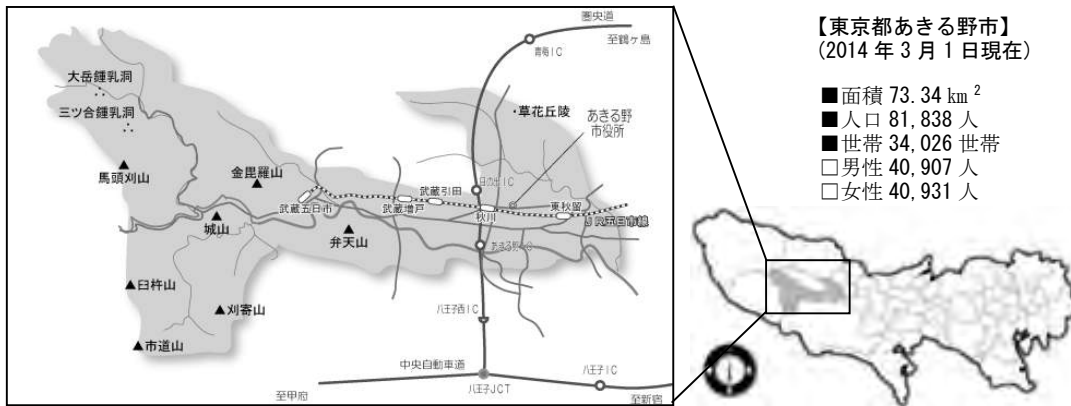


図2 研究対象地「あきる野市」の概要(あきる野市HPより)

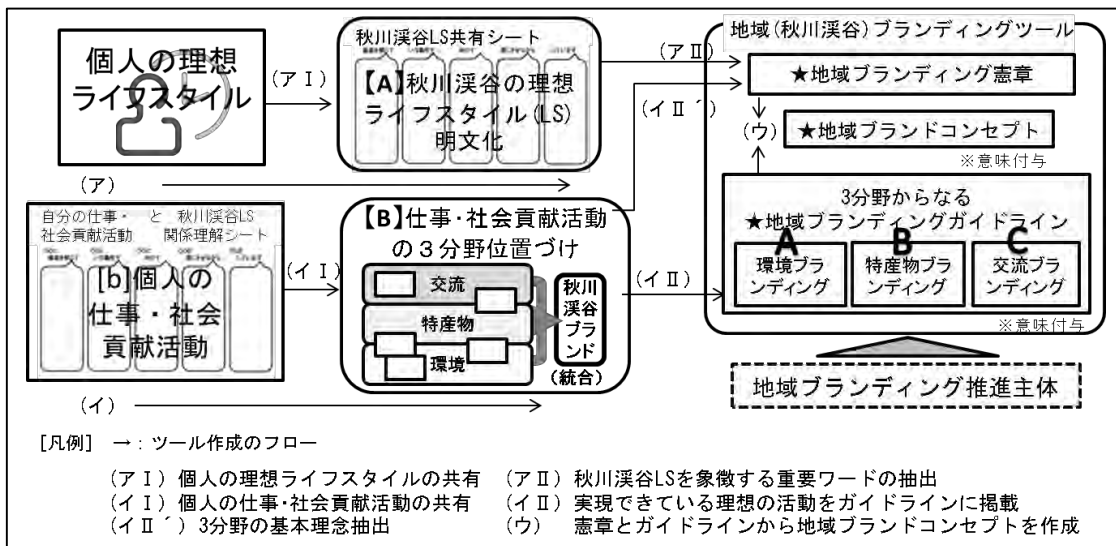


図3 地域ブランディングワークショップの作業フローとワークショップの成果物(地域ブランディングツール)の関係概念図

表1 秋川渓谷ブランディング研究会ワークショップ作業の流れと実際の内容

実際のWSでの作業の流れ			事務局側の作業の流れ		
回	開催日	主な議題とWS作業	メンバーの主な重要発言やキーワード等	※WSのデザイン ・WS用作成資料等	行政側と事務局
				※AKB研究会進め方検討WS	会議
第1回	2013/7/29 19:00から 約2H	・AKB研での地域ブランディングの考え方 ・スケジュールの確認 ・AKB研WSの進め方議論	・地域で行うノウハウがなかったのでは? ・京都には既にイメージが束ねられた(京都という)言葉がある ・理想のライフスタイルのイメージから思想を構築 ・ソフトとハードでは売り方が違う	・秋川渓谷地図 ・地域ブランディング資料 ・AKBの地域ブランディング作業表	2013/4/22 2013/6/24
				▶※個人の秋川渓谷ライフスタイルを考えるWS	
第2回	2013/8/23 19:00から 約2H	・理念の元となる秋川渓谷ライフスタイル(AK-LS)作成 ・個人の一日の理想LSを考える ・個人の理想のLSを全体で共有する	・朝5時起床にての自分時間 ・自然に合わせた生活リズム ・インスピレーション・創作活動 ・日常的な庭先BBQ ・手軽な田舎暮らし・素朴さ ・東京の清涼飲料水・童心に戻りたい人 ・ゆったりした川の流れ、時間の流れ	・個人ライフスタイルワークシート01 ・ロールプレイ用生活者アクター表 ・時間縦軸メンバー共有ワークシート02 ・個人の仕事・活動ホームワークシート03	2013/8/23
				▶※LS共有と個人の仕事・活動分野位置づけWS	
第3回	2013/10/7 19:00から 約2H	・【A】秋川渓谷ライフスタイル(5W1H)を共有する ・【B】個人の仕事・活動のブランディング分野位置づけ	・盆栽的小宇宙 ・一つの生物として生きる ・人間らしい生き方・東京でできる田舎暮らし ・リセット・不満がない、あたりまえの暮らし ・隠れ家・宝物を探しに来る場所・キワ ・カスタマイズの「もてなし」	・【A】LS共有5W1Hワークシート ・【B】個人の仕事・活動(5W1H)シート ・【B】仕事活動位置づけ共有大型シート ・コアイメージ写真ホームワーク	2013/10/7
				▶※秋川渓谷ブランディング上位理念の確認WS	
第4回	2013/11/11 19:00から 約2H	★秋川渓谷ブランディング憲章案確認 ・秋川渓谷コア資源イメージのポジショニング確認	・都会との距離感、都会の人がゆったりできる場所が身近にあること ・立ち返るモノがあるといい ・誰が持っていても使えるルールブック ・温故知新・冒険心	・秋川渓谷ブランディング憲章作成概念図 ・秋川渓谷資源リスト ・コア資源イメージポジショニング確認シート	2013/11/11
				▶※秋川渓谷ブランディングGL項目作成WS	
第5回	2013/12/16 19:00から 約2H	・秋川渓谷ブランディング憲章案意見交換 ★秋川渓谷ブランディングガイドライン(以下GL)作成作業	・環境・特産物・交流という分類の有効性 ・外向けというより内向けのツール ・五日市憲法草案を作るに至った経緯が大切 ・地元の本で作ったランドマークが必要 ・あきる野のBBQは結あり(普通と違う)	・秋川渓谷ブランディング憲章(Ver0.5) ・AKB憲章づくり概念図や美の基準など参考資料 ・GLページひな形シート	2013/12/13 2013/12/16
				▶※秋川渓谷ブランディングGL内容検討WS	
第6回	2014/1/23 19:00から 約2H	・秋川渓谷ブランディングGL試用報告 ・秋川渓谷ブランディングGLテスト試用 ・秋川渓谷ブランディング憲章とGL運用イメージ確認	・ガイドラインは誘導、メリットがないと使おうとは思わない。 ・議論できる仕組みが必要 ・檜原村日出町まで一体となる広げ方も考える必要あり、発表会や公開シンポジウム等 ・観光は横ツナギの産業 ・フィーリングの組み合わせ、それがブランドイメージ	・地域内事業者での試用報告資料と画像 ・秋川渓谷ブランディング憲章+コンセプトイメージ+GL(Ver0.6) ・GL試用シート ・GLページひな形シート	
				▶※秋川渓谷ブランディングGL模擬運用WS	
第7回	2014/2/20 19:00から 約2H	★秋川渓谷ブランドコンセプト案の確認 ・秋川渓谷ブランディング憲章とGL運用テスト: 模擬協議会	・地元のおばちゃんのおそば打ち講師との交流 ・あきる野市の解説員の活躍の場 ・仕事だけではなく、生活の中で友人などに伝える際に使えるモノ ・奥多摩と統一して語られてしまう。高尾とも差別化できる言葉の必要性。	・秋川渓谷ブランディング憲章+コンセプトイメージ+GL(Ver0.7) ・模擬協議会用計画案 ・アンケート	

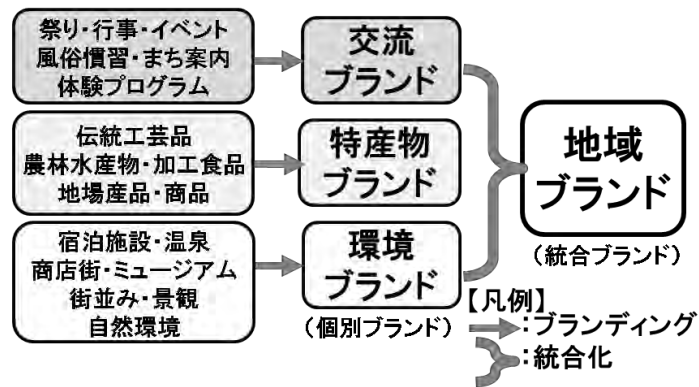


図4 地域ブランディングの対象とする3分野の個別ブランド



写真1 第2回ワークショップの様子（於：あきる野市地域活性化協働センター会議室）

図3(ア)と(イ)の作業フローにより、理想のLSと仕事や活動が結びつくような地域づくりを目指し、地域の基本理念を憲章(図5)としてまとめ、この憲章を実際の活動につなげる為の具体的なアイデア・ヒント集であるガイドライン(以下GL)とコンセプトを作成した。この作業過程で、地域のイメージは地域資源により得られる「気持ち」とセットで<sup>註5</sup>語られた。そこでGLには地域側の視点から来訪者に感じてもらいたい気持ちという意味を付与し資源のブランディングアイデアを記載した。GLは3分野の資源と意味<sup>註6</sup>を結び付け、ブランドコンセプトは意味を付与した資源(図6)によって表すものとなった。

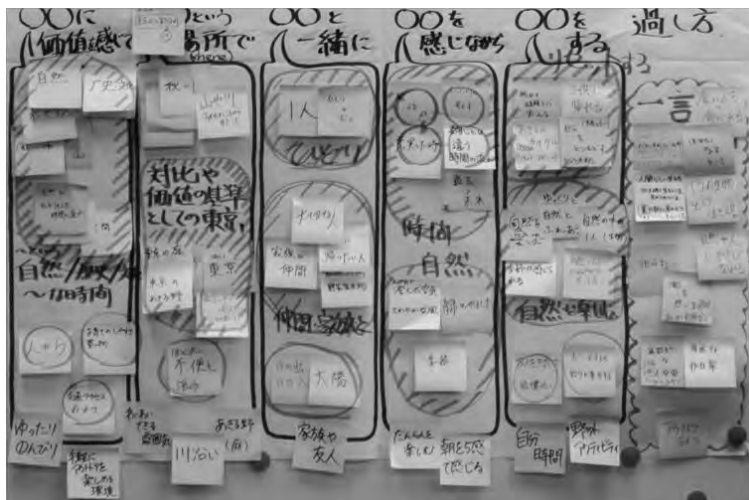


写真2 第3回WSで実際に作業をした秋川溪谷理想のライフスタイル共有シート

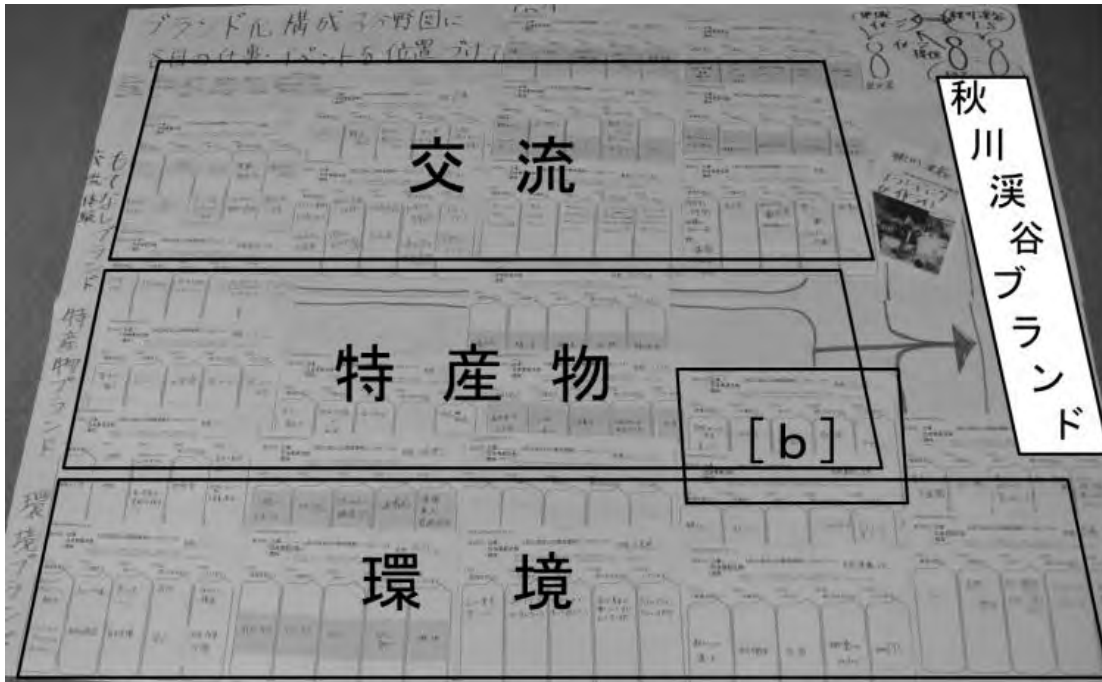


写真3 自分の仕事・社会貢献活動を記入した用紙を環境・特産物・交流3分野へ位置付けながら共有した大型シート

### 秋川渓谷ブランディング憲章(案)

**【秋川渓谷ブランディング憲章の作成目的】**

- (1)秋川渓谷ブランディング憲章は、今後作成する「秋川渓谷ブランディングガイドライン」の理念にあたるものとして策定します。
- (2)秋川渓谷を舞台とする観光やまちづくりの推進のための大きな方向性を明文化して、皆で常に意識し、地域ブランディングの取組みを考える際の拠りどころになるものをめざします。(ガイドラインを作成する際の拠り所にもなります。)
- (3)秋川渓谷地域内の観光に関わる事業者や組織から秋川渓谷への観光者までの、秋川渓谷地域の内部と外部の双方に向けて、秋川渓谷ブランディングの取組みをアピールするためのものとして作成します。

あきる野市は、東京都心から約一時間という立地にもかかわらず、奥深い山や上流の川といった豊かな自然環境を有する地域です。そして、そのイメージを「秋川渓谷」という言葉で表現してきました。

この「都心に近い大自然がある地域」ということが、この地で多様な仕事の仕方を可能としつつ自然と共に暮らすという独自のライフスタイルを生み出してきました。また、手軽にこの自然やライフスタイルを味わうことが出来る場として、多くの観光者が訪れているのではないかと考えます。

この地に多くの人を惹きつける自然の恵み、そこで培われた歴史、文化、ゆったりとした時間の流れは、この地に関わる多くの人々が、長い年月をかけて大切に守り育ててきたものです。

私たちは先人より受け継いだこの秋川渓谷の暮らしに誇りを持っています。そして、ここでのライフスタイルの一端を観光者が体験することで、ファンが増えてくれること、さらには、この地で暮らす人が増えていくことが願いです。

私たちは、今後も、この地の環境を大切にしながら住み続け、また、この地の環境を活かして仕事をしていくために、改めて秋川渓谷の価値を再確認し、多くの関係者がこれを共有し、まとめたイメージを発信することが大切であると考えました。これが「秋川渓谷ブランディング協議会(仮称)」として、秋川渓谷をブランド化する取組み＝秋川渓谷ブランディングです。

秋川渓谷の価値は大きく3つの側面から語ることが出来ましょう。第一に、豊かな自然と都心と近接する立地が生む「環境・空間・立地」です。第二に、この環境と密接な関係を持って生まれている様々な「特産物」です。第三に、これら秋川渓谷ならではの環境・空間と特産物を活かした「もてなし・体験・交流」です。

私たちは、この三つの側面において秋川渓谷らしさを高め、そのイメージを統合していく取組みを進めるにあたり、その拠り所すべき大切にしたいことを「秋川渓谷ブランディング憲章」として宣言します。

**(環境・空間・立地について)**

- 一、秋川渓谷の自然、歴史、文化の価値の再発見に努め、その価値を守りながら活用することに努めます。
- 一、四季の移り変わり、一日の時間の移り変わりを感じながら過ごせる、ゆっくりとした時間の流れが感じられる快適な環境づくり、自然と向き合える機会の提供に努めます。
- 一、自然の豊かさの価値と、都心から近いことを活かした都市的価値の両方を意識しながら進めます。

**(特産物について)**

- 一、誰もが信頼し安心して手に取ることのできる産物づくりを続けることに努めます。
- 一、秋川渓谷地域の自然、歴史、文化とのつながりを意識した特産物の伝え方や、新しい特産物づくりを進めます。

**(もてなし・体験・交流について)**

- 一、来訪者の声に耳を傾け、秋川渓谷の自然、歴史、文化を活かした体験を通して、地域内外の交流が生まれる機会づくりを進めます。
- 一、秋川渓谷の価値の本質を大切にしつつ、いつも新しい発見がある取組みに努めます。

※この後、次の項目が続く予定です。  
 ◇秋川渓谷ブランディングガイドライン(具体的なアイデア・ヒント集)  
 ◇運用指針(運用方法)

図5 秋川渓谷ブランディング憲章(案)

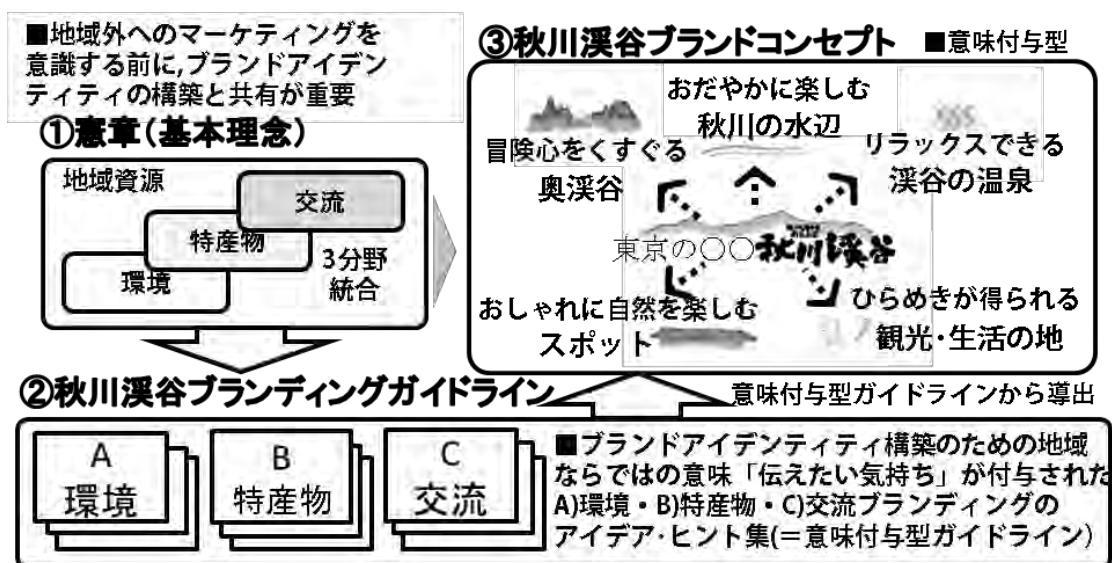


図6 ①憲章と②意味付与型の地域ブランディングガイドラインおよび③秋川渓谷ブランドコンセプトの関係と作成手順モデル



写真3 社員参加型の新規事業企画ワークショップの様子

(左:2014年1月/右:2月開催 於:首都大学東京プロジェクト棟会議室)

表2 社員参加型WS後のアンケート質問項目と5段階評価の回答数(n=10)

No.	質問	回答数						
		5	4	3	2	1		
①	これまで、御社がある野市にあることを意識していましたか？	4	1	1	4	0		
②	これまで、地域とつながる必要性をどのくらい意識していましたか？	2	5	2	1	0		
③	これまで、地域とのつながり方として、どのような取り組みをしてきましたか。または、検討されたことがありますか。できるだけ具体的にあげて下さい。	(記述式)						
④	今回のワークショップを通して、地域ブランディングの視点の必要性を感じましたか？	6	4	0	0	0		
⑤	「気持ち」とセットで、御社の資源の活かし方や事業企画を考えるというワークショップ作業は有効と思われましたか？	8	2	0	0	0		
⑥	A:環境のブランディングやB:特産物のブランディング、C:交流ブランディングのイメージが持てましたか。また、それぞれのブランディングに対する必要性をどの程度感じましたか。合わせて、環境・特産物・交流ブランディングを3分野セットで進めていくことに対して、イメージが持てましたか。同じく必要性についてはいかがでしょうか。	イメージが持てたか	環境	4	4	2	0	0
			特産物	4	2	2	2	0
			交流	3	3	3	1	0
			3分野統合	2	3	4	1	0
		必要性を感じたか	環境	4	5	1	0	0
特産物	4	5	1	0	0			
交流	6	4	0	0	0			
3分野統合	4	5	1	0	0			
⑦	地域ブランディングの視点からのこのような発想を社員にも伝えるべきだと思いますか？	7	3	0	0	0		

研究対象地の観光施設において社員参加型の新規事業企画WS<sup>注7</sup>を開催(写真3)、本研

究の成果物である地域ブランディングツールを試用した。2ヶ月に渡る2回のWS後に参加者に対しアンケート（表2）を実施、ツールの有効性の確認を行った。

地域ブランディングツールを作成する段階では、地域（人、行政、事業者）が地域の視点で観光を考えるには、地域のライフスタイルと多様な資源を統合化した憲章やガイドラインを積みあげ、コアとなるコンセプトを導き出すという検討プロセスが一つのモデルとなる可能性があること、また、体験したときの気持ちなどの意味を付与した地域資源の示し方は、一級の観光資源がない地域においても応用可能な地域ブランドの構築手法であるという可能性を見出すことができた。また、地域で活動中の事業者参加によるWSが、ブランド推進主体の予備軍の形成に一役担えたといえる。

作成したツールを試用した新規事業企画WSにおいては、地域資源を環境・特産物・交流で捉え3分野セットで意味（気持ち）からブランディングを考える方法が有効であることがわかった。一企業に対するインターナルブランディングの実現が出来たこと、さらに新規事業が具体的な企画として実現する可能性も伺え、このような方法によって企画された事業が実際に展開されることが地域貢献につながるものと考えられる。

今後、地域内での公共事業や地域内事業者の新規事業企画の際に、地域で作り上げた地域ブランディングツールを用いての検討や更新を継続的に行うことが、地域内での共有を進め、さらに具体的な事業への展開へつながるものとする。

## 注釈

- 注1 参考文献3)、4)では、ブランド化の推進主体による消費者に向けた External Branding と従業員に向けた Internal Branding が必要であるとしている。企業ブランディング手法においても消費者にブランドイメージを打ち出していく前段階として社内でのイメージ共有が必要であり、観光まちづくりを進めていくうえで、地域においても、地域外に向けてブランドイメージを発信する前に、地域内住民が地域イメージを共有することが必要となるといえる。
- 注2 近年、都市計画やまちづくりにおける協議や合意形成のための住民主体のワークショップは、一般的なものとなっているといえる。
- 注3 参考文献5)では、東京の人口の重心近くの三鷹駅や調布 IC から約1時間でアクセスでき、都心に最も近い山間部を持つ市とされている。地理的特徴として、自然の豊かさと都市的な利便性を合わせ持つといえる。2012年4月よりあきる野市の地域資源調査を行った。
- 注4 ここでの交流は、地域環境から生み出される地域の第1次・第2次産業による特産物や地域の環境を使用して行われる生活者の活動（もてなし）に来訪者の活動（体験）が加わることで起こるものとする。
- 注5 例えば、秋川渓谷で得られる「冒険心」など。
- 注6 本研究においては、参考文献7)のシート構成を参考にし、見開き左頁にパタンとなるキーワードと現状のポテンシャルや課題、右頁にめざしたい展開の仕方やアイデアの具体例を、写真や説明文などを用いて掲載した。
- 注7 具体的には、参加者を2班に分け、展開したい新規事業案を班ごとに異なるテーマに沿って検討した。

## 参考文献

- 1) 敷田麻実・内田純一・森重昌之(編著)：観光の地域ブランディングー交流によるまちづくりのしくみ, 学芸出版社, 2009. 8
- 2) 日本建築学会：まちづくりデザインのプロセス, 丸善株式会社, 2004. 12
- 3) 中嶋聞多：地元の人にとって「譲れぬ一線」は何かの議論をー地域ブランディングというアプローチ【後編】, 日経ビジネス 2011. 5
- 4) 株式会社博報堂ブランドコンサルティング：図解でわかるブランドマネジメント[新版], 日本能率協会マネジメントセンター, 2009. 4
- 5) 東京都あきる野市：観光推進プランあきる野ふるさとプラン, 2011. 6
- 6) 平田徳恵・岡村祐・川原晋：景観色彩ガイドラインの活用による地域ブランディングの可能性ー特定色を指定する「意味付与型」の表現方法に着目してー日本建築学会 計画系論文集 第78巻 第685号, pp. 663-671, 2013. 3
- 7) 真鶴町：まちづくり条例 美の基準 Design Code(第3版), 2007. 3
- 8) 青木幸弘：ブランド研究における近年の展開 ー価値と関係性の問題を中心にー, 商学論究, 58(4)： pp. 43-68, 2011
- 9) 木下勇：ワークショップー住民主体のまちづくりへの方法論, 学芸出版社, 2007. 1
- 10) 佐藤滋・志村秀明・内田奈芳美・饗庭伸・川原晋・真野洋介・有賀隆：まちづくりデザインゲーム, 学芸出版社, 2005. 3
- 11) 田中道雄・白石善章・濱田恵三(編著)：地域ブランド論, 同文館出版(株), 2012. 6
- 12) 地域デザイン学会編・原田保(編著), 地域デザイン叢書①地域デザイン戦略総論ーコンテンツデザインからコンテキストデザインへー, 芙蓉書房出版, 2013. 1
- 13) 和田充夫他(著), 電通 abic project 編：地域ブランド・マネジメント, 有斐閣, 2009. 6
- 14) David A. Aaker and Erich A. Joachimstaler (2000), “Brand Leadership” 阿久津聡訳：ブランド・リーダーシップ「見えない企業資産」の構築, ダイヤモンド社, 2000. 10

## 行政と地域事業者参加で取り組む 地域ブランディング

— 東京都あきる野市におけるワークショップを通して —



首都大学東京 都市環境科学研究科  
観光科学域 川原晋研究室  
平田徳恵・山本大地・李繡蓮

### 1-1. 研究の背景と目的

近年、交流人口拡大や地域活性化を念頭に、  
地域ブランディングの取り組みが各地で行われている。



#### ■ 言葉の定義

「**地域ブランド**」：  
地域資源の価値が地域内の生活者、関連組織に共有され、それが  
地域外へ発信され、定着することによって構築されるもの（敷田他,2009）

「**地域ブランディング**」：  
観光まちづくりに向けて地域ブランドに取り組む一連の活動

➡ 一般的には、**企業ブランディング手法**が応用されている

### 発表内容

- I 研究プロジェクトの背景と目的, 研究方法
- II 研究対象地の概要と  
地域ブランディング研究会の立上げ
- III 秋川渓谷ブランディングワークショップの流れと成果  
(計7回のWSプログラム作成と実施)
- IV 地域内観光施設の社員参加型ワークショップでの試用  
(新規事業企画会議での地域ブランディングツール適用)
- V まとめ  
ブランド推進主体の育成、3分野セットで進める  
地域ブランディング導入方法の有効性



#### 企業ブランディングの場合,

※企業ブランドにおいて、重点がおかれるのは②と④

- ① 企業内のブランド推進主体に、コンサルタント等が関与、
- ② 売り出したいモノや価値を確定、コンセプトを作成、
- ③ インターナルブランディング：従業員への啓蒙
- ④ エクスターナルブランディング：消費者へブランド発信

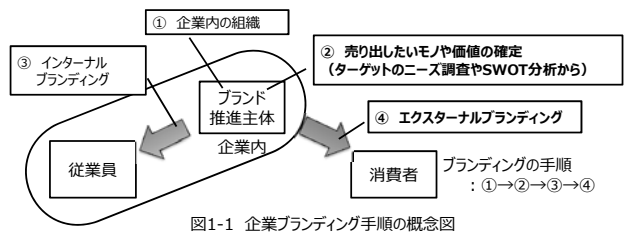


図1-1 企業ブランディング手順の概念図

## I 研究の背景と目的、研究方法



#### 地域ブランディングの場合、これを応用し同様の手順で進められる。

- ① 行政の発意を受けコンサルタント等が関与、
- ② 地域資源の発掘とターゲット調査等からブランドコンセプト決定
- ③ インターナルブランディング：地域への啓蒙
- ④ エクスターナルブランディング：地域外への普及・発信

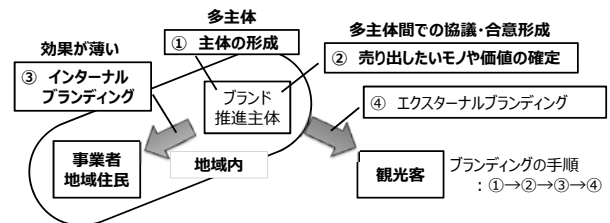


図1-2 地域ブランディング手順の概念図



### Ⅲ 秋川渓谷ブランディング ワークショップの流れと成果



表1 秋川渓谷ブランディング研究会WSの流れと実際の内容

実際のWSでの作業の流れ			事務局側の作業
開催日	主な議題とWS作業	メンバーの主な重要発言やキーワード等	WSのデザイン ・WS用作成資料等
2013/7/29 第1回 19:00 から 約2H	・AKB研での地域ブランディングの考え方 ・スケジュールの確認 ・AKB研WSの進め方議論	・地域で行うノウハウがなかったのでは？ ・京都には既にイメージが束ねられた(京都という)言葉がある ・理想のライフスタイルのイメージから思想を構築 ・ソフトとハードでは売り方が違う	※AKB研究会進め方検討WS ・秋川渓谷地図 ・地域ブランディング資料 ・AKBの地域ブランディング件
2013/8/23 第2回 19:00 から 約2H	・理念の元となる秋川渓谷ライフスタイル(AK-LS)作成 ・個人の一日の理想LSを考える ・個人の理想のLSを全体で共有する	・朝5時起床にての自分時間 ・自然に合わせた生活リズム ・インスピレーション・創作活動 ・日常的な庭先BBQ ・手軽な田舎暮らし・素朴さ ・東京の清涼飲料水・童心に戻りたい人 ・ゆったりとした川の流れ、時間の流れ	※個人の秋川渓谷ライフスタイル ・個人ライフスタイルワークシート ・ロールプレイ用生活者アクト ・時間縦軸メンバー共有ワークシート ・個人の仕事・活動ホームシート03
2013/10/7 第3回 19:00 から	・[A]秋川渓谷ライフスタイル(SW1H)を共有する ・[B]個人の仕事・活動のブランディング分	・盆栽の小宇宙 ・一つの生物として生きる ・人間らしい生き方・東京でできる田舎暮らし ・リセット・不満がない、あたりまえの暮らし ・おれ家・宝物を渡しに来る場所・きつ	※LS共有と個人の仕事・活動分 ・[A]LS共有SW1Hワークシート ・個人の仕事・活動(SW1H)シート ・[B]仕事活動位置づけ共有シート

1: 背景と目的 2: 対象地概要と組織立上げ 3: 地域Branding-WS流れと成果 4: 地域内事業者試用 5: まとめ

表1 秋川渓谷ブランディング研究会WSの流れと実際の内容

実際のWSでの作業の流れ			事務局
開催日	主な議題とWS作業	メンバーの主な重要発言やキーワード等	WSのデザイン ・WS用作成資料
2013/7/29 第1回 19:00 から 約2H	・AKB研での地域ブランディングの考え方 ・スケジュールの確認 ・AKB研WSの進め方議論	・地域で行うノウハウがなかったのでは？ ・京都には既にイメージが束ねられた(京都という)言葉がある ・理想のライフスタイルのイメージから思想を構築 ・ソフトとハードでは売り方が違う	※AKB研究会進め方検討WS ・秋川渓谷地図 ・地域ブランディング資料 ・AKBの地域ブランディング件
2013/8/23 第2回 19:00 から 約2H	・理念の元となる秋川渓谷ライフスタイル(AK-LS)作成 ・個人の一日の理想LSを考える ・個人の理想のLSを全体で共有する	・朝5時起床にての自分時間 ・自然に合わせた生活リズム ・インスピレーション・創作活動 ・日常的な庭先BBQ ・手軽な田舎暮らし・素朴さ ・東京の清涼飲料水・童心に戻りたい人 ・ゆったりとした川の流れ、時間の流れ	※個人の秋川渓谷ライフスタイル ・個人ライフスタイルワークシート ・ロールプレイ用生活者アクト ・時間縦軸メンバー共有ワークシート ・個人の仕事・活動シート03

1: 背景と目的 2: 対象地概要と組織立上げ 3: 地域Branding-WS流れと成果 4: 地域内事業者試用 5: まとめ

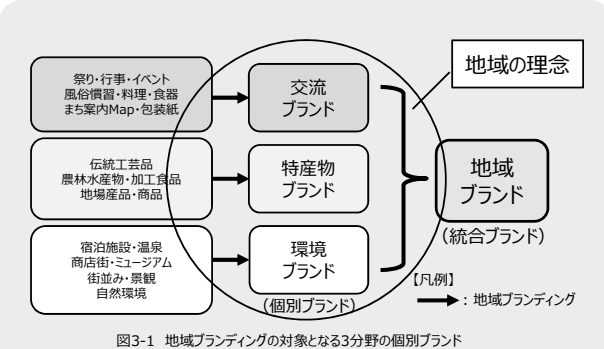
(ア) 個人の理想ライフスタイル作成作業



第2回AKB-WSの様子  
(2013/8/23・19:00～)  
◎五田市出張所会議室

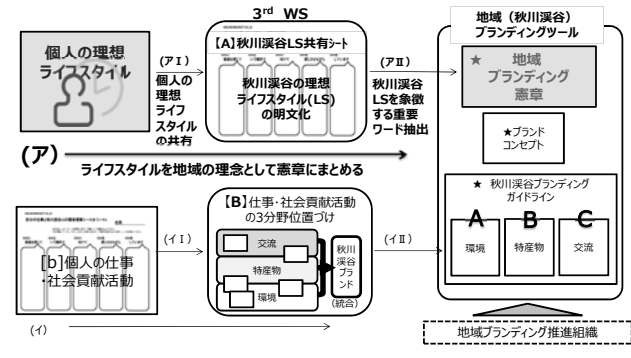
1: 背景と目的 2: 対象地概要と組織立上げ 3: 地域Branding-WS流れと成果 4: 地域内事業者試用 5: まとめ

#### 3-1 ライフスタイルから構築する地域の理念



1: 背景と目的 2: 対象地概要と組織立上げ 3: 地域Branding-WS流れと成果 4: 地域内事業者試用 5: まとめ

#### 3-1 ライフスタイルから構築する地域の理念



1: 背景と目的 2: 対象地概要と組織立上げ 3: 地域Branding-WS流れと成果 4: 地域内事業者試用 5: まとめ

### [A] 秋川渓谷ライフスタイル共有シート

1: 背景と目的 2: 対象地概要と相繼立上げ 3: 地域Branding-WS流れと成果 4: 地域内事業者試用 5: まとめ

### 秋川渓谷ブランディング憲章として地域理念を明文化

#### 秋川渓谷ブランディング憲章（案）

**【秋川渓谷ブランディング憲章の作成目的】**

- (1) 秋川渓谷ブランディング憲章は、今後作成する「秋川渓谷ブランディングガイドライン」の理念にあたるものとして策定します。
- (2) 秋川渓谷を軸とする観光やまちづくりの推進のため大きな方向性を示し、皆で共に意識し、地域ブランディングの取組を推進する際の指針となるものとして作成します。（ガイドラインを作成する際の指針にはなりません。）
- (3) 秋川渓谷地域内の観光に関わる事業者や組織から秋川渓谷への観光客までの、秋川渓谷地域の内部と外部の双方に向けて、秋川渓谷ブランディングの取組をアピールするためのものとして作成します。

秋川渓谷の価値は大きく3つの側面から語る事が出来ます。第一に、豊かな自然と自然と近接する立地が生む「環境・空間・立地」です。第二に、この環境・空間と近接する事で生まれる様々な「特産物」です。第三に、これら秋川渓谷ならではの環境・空間と特産物を活かした暮らし・体験・交流です。

私たちは、この3つの側面において秋川渓谷らしさを高め、そのイメージを統合して取り組みを進めるとともに、その視界を大きく広げたいことを「秋川渓谷ブランディング憲章」として宣言します。

**【環境・空間・立地について】**

- 秋川渓谷の自然、歴史、文化の価値の再発見に努め、その価値を守りながら活用することを目指す。
- 四季の移り変わり、一日の時間の移り変わりを感じながら過ごせる、ゆっくとした時間の流れが感じられる快適な環境づくり。
- 自然に向かい合う機会を増やし、心から近いことを活かした都市的価値の向上を意図しながら進めます。

**【特産物について】**

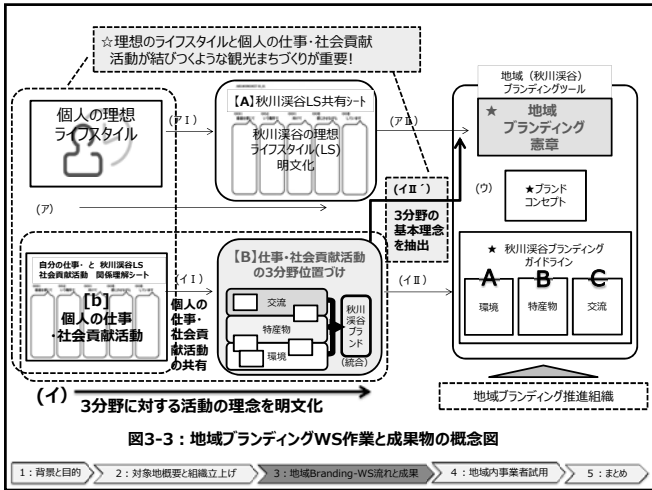
- 誰もが信頼し安心して手に取ることのできる産物づくりを続けることを目指す。
- 秋川渓谷地域の自然、歴史、文化のつながりを意識した特産物の伝え方や、新しい特産物づくりを進めます。

**【暮らし・体験・交流について】**

- 来訪者の声に耳を傾け、秋川渓谷の自然、歴史、文化を活かした体験を通して、地域内外の交流が生まれる機会づくりを進めます。
- 秋川渓谷の価値の本質を大切にしつつ、いつも新しい発見がある取り組みに努めます。

※この後、次の項目が確定予定です。  
 ◆秋川渓谷ブランディングガイドライン（具体的なアイデア・ヒント集）  
 ◆運用指針（運用方法）

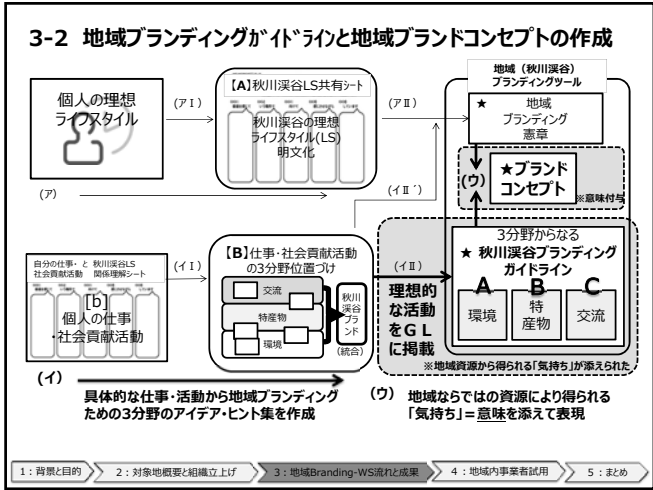
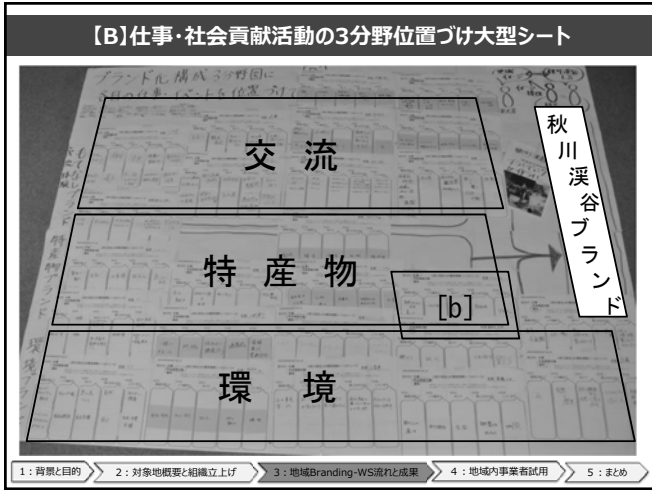
1: 背景と目的 2: 対象地概要と相繼立上げ 3: 地域Branding-WS流れと成果 4: 地域内事業者試用 5: まとめ



### 表1 秋川渓谷ブランディング研究会WSの流れと実際の内容

日次	内容	※秋川渓谷ブランディング
2013/11/11	秋川渓谷ブランディング憲章案確認	秋川渓谷ブランディング概念図
4/19:00-4/19:00	秋川渓谷コア資産イメージのポジショニング確認	秋川渓谷資産リスト コア資産イメージポジショニングシート
2013/12/16	秋川渓谷ブランディング憲章案意見交換	秋川渓谷ブランディング (Ver.0.5)
5/19:00-5/19:00	秋川渓谷ブランディングガイドライン（以下GL）作成作業	AKB憲章づくり概念図 GLページひな形シート
2014/1/23	秋川渓谷ブランディングGL試用報告	地域内事業者での刷と図像
6/19:00-6/19:00	秋川渓谷ブランディングGLテスト試用	秋川渓谷ブランディングイメージ+GL
約2H	秋川渓谷ブランディング憲章とGL運用イメージ確認	GL試用シート GLページひな形シート

1: 背景と目的 2: 対象地概要と相繼立上げ 3: 地域Branding-WS流れと成果 4: 地域内事業者試用 5: まとめ



秋川渓谷ブランディングのためのガイドライン

ブランド言葉 環境・特産物・体験

**A: 環境**

キーワード: 冒険心 adventure

秋川スタイル: 自然の美しさ、心地よさ、癒し

目指すこと 価値の仕方: 自然の美しさ、心地よさ、癒しを伝える

アイディア: 冒険心、自然の美しさ、癒しを伝える

アイディア、方法の具体例: 冒険心、自然の美しさ、癒しを伝える

**B: 特産物**

アイディア、方法の具体例: 冒険心、自然の美しさ、癒しを伝える

**C: 交流**

地域ブランディングのためのアイデア・ヒント集

■ 地域ならではの意味＝「伝えたい気持ち」が付与された A)環境・B)特産物・C)交流ブランディングのための意味付与型ガイドライン

1: 背景と目的 2: 対象地概要と組織立上げ 3: 地域Branding-WS流れと成果 4: 地域内事業者試用 5: まとめ

地域ブランディングツールの運用手順: ③+① → ②

③秋川渓谷ブランドコンセプト

①憲章 (基本理念)

地域資源 (環境, 特産物, 交流) 3分野統合

冒険心をくすぐる 奥渓谷

おだやかに楽しむ 秋川の水辺

リラックスできる 渓谷の温泉

東京の〇〇秋川渓谷

おしゃべりに自然を楽しむ スポット

ひらめきが得られる 観光・生活の地

②地域ブランディングガイドライン

A 環境 B 特産物 C 交流

■ ブランディングのための地域ならではの意味＝「伝えたい気持ち」が付与された A)環境・B)特産物・C)交流ブランディングのアイデア・ヒント集 (＝意味付与型ガイドライン)

地域ブランディングツールの作成プロセスモデル

■ブランドアイデンティティの構築と共有: ライフスタイルから

①憲章 (基本理念)

地域資源 (環境, 特産物, 交流) 3分野統合

③秋川渓谷ブランドコンセプト■意味付与型

おだやかに楽しむ 秋川の水辺

冒険心をくすぐる 奥渓谷

リラックスできる 渓谷の温泉

東京の〇〇秋川渓谷

おしゃべりに自然を楽しむ スポット

ひらめきが得られる 観光・生活の地

②地域ブランディングガイドライン

A 環境 B 特産物 C 交流

■ ブランディングのための地域ならではの意味＝「伝えたい気持ち」が付与された A)環境・B)特産物・C)交流ブランディングのアイデア・ヒント集 (意味付与型ガイドライン)

1: 背景と目的 2: 対象地概要と組織立上げ 3: 地域Branding-WS流れと成果 4: 地域内事業者試用 5: まとめ

第1回ワークショップの経緯・成果 T社 おけるオールシーズン集客プラン研究

SWOT分析の具体化

ファミリーパーク企画づくり

まとめ

A班

B班

「気持ち」からの思考により、S (強み) の意味 (価値) が再認識された。この場所で過ごす一日のストーリーが意識された。

1: 背景と目的 2: 対象地概要と組織立上げ 3: 地域Branding-WS流れと成果 4: 地域内事業者試用 5: まとめ

IV 地域内観光施設事業者への試用



第2回ワークショップの経緯・成果 T社 おけるオールシーズン集客プラン研究

ファミリーパーク企画づくり

まとめ

秋川渓谷ブランドコンセプト

環境的特徴に気持ち (意味) を付与した具体的な企画案

1: 背景と目的 2: 対象地概要と組織立上げ 3: 地域Branding-WS流れと成果 4: 地域内事業者試用 5: まとめ

### 社員参加型WS後のアンケート結果 (n=10)

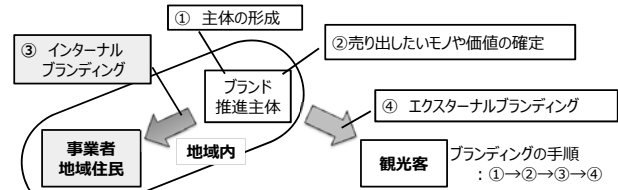
T社の社員6名(親会社の役員含む)・産学連携センター職員2名・学生2名

No.	質問	回答数						
		5	4	3	2	1		
①	これまで、御社がある野市にあることを意識していましたか？	4	1	1	4	0		
②	これまで、地域とつながる必要性をどのくらい意識していましたか？	2	5	2	1	0		
③	これまで、地域とつながり方として、どのような取り組みをしてきましたか。または、検討されたことがありますか。できるだけ具体的にあげてください。	(記述式)						
④	今回のワークショップを通して、地域ブランディングの視点の必要性を感じましたか？	6	4	0	0	0		
⑤	「気持ち」セットで、御社の資源の活かし方や事業企画を考えたというワークショップ作業は有効と思われましたか？	8	2	0	0	0		
⑥	A: 環境のブランディングやB: 特産物のブランディング、C: 交流ブランディングのイメージが持てましたか。また、それぞれのブランディングに対する必要性をどの程度感じましたか。 B: 環境・特産物・交流ブランディングを3分野セットで進めていくことに対して、イメージが持てましたか。同じ必要性についてはいかがでしょうか。 C: 地域ブランディングの視点からのこのような発想を社員に伝えたいと思いますか？	イメージが持てたか	環境	4	4	2	0	0
			特産物	4	2	2	2	0
			交流	3	3	3	1	0
			3分野統合	2	3	4	1	0
			必要性を感じたか	環境	4	5	1	0
特産物	4	5	1	0	0			
交流	6	4	0	0	0			
3分野統合	4	5	1	0	0			
⑦	地域ブランディングの視点からのこのような発想を社員に伝えたいと思いますか？	7	3	0	0	0		

[5段階評価]

### IVの作成した地域ブランディングツールの試用にて明らかになったこと

- 1) 地域資源を環境・特産物・交流の3分野で捉え、**3分野セットで「気持ち」(意味)からブランディングを考える方法が有効である。**
- 2) 一地域内事業者への**インターナルブランディング**が実現できた。新規事業が具体的な企画として実現する可能性が伺え、このような事業の展開により、地域内の観光施設が**地域ブランディング**に貢献する可能性がある。



1: 背景と目的 >> 2: 対象地概要と組織立上げ >> 3: 地域Branding-WS流れと成果 >> 4: 地域内事業者試用 >> 5: まとめ

## V. まとめ

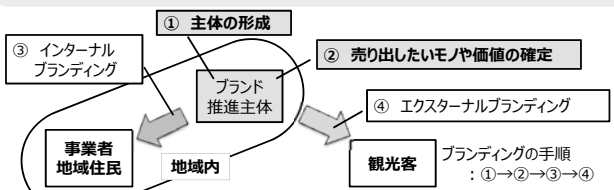


#### <参考文献>

- 1) 伊藤 裕一: ブレイス・ブランディング研究のレビューと今後の課題 (Journal of Place Branding & Public Diplomacy, Vol1-5: 2004-2009, 62編のレビュー論文), 商学研究科紀要 69, pp.249-263, 2009/11
- 2) 和田充夫他. 電通 obic project編: 地域ブランド・マネジメント, 有斐閣, 2009/6
- 3) 権安理: 廃校活用研究序説-戦後における歴史と公共生の変容-, 応用社会学研究No.53, 2011
- 4) 敷田麻実・内田純一・森重昌之(編著): 観光の地域ブランディング-交流によるまちづくりのしくみ, 学芸出版社, 2009
- 5) 須田寛: 観光~新しい地域(くに)づくり~, 学芸出版社, 2009/10
- 6) 小川孔緒: よくわかるブランド戦略, 日本実業出版社, 2001/11
- 7) 下村彰男: 観光地計画論の系譜, ランドスケープ研究73(2), 2009
- 8) 田中章雄: 地域ブランドとまちづくり, 日本都市計画学会, 都市計画 61(1), pp.16-19, 2012/02
- 9) 村下公一: 「地域ブランド」のすすめ-地域ブランド(地域版CB)の戦略的マネジメント手法について(青森県のケースを中心に)-, 青森県庁海外産業経済交流推進チーム(OIDT)資料, 2005
- 10) 崔瑛, 岡本直久: 観光地における地域ブランド構築の内部関係者による資源活用パターンと課題構築に関する研究-関東・甲信越地域の市町村を対象として-, 都市計画 (47), pp.105-116, 2012
- 11) David A. Asker and Erich A. Joachimstaler (2000), "Brand Leadership" 阿久津聡訳: ブランド・リーダーシップ「見えない企業資産」の構築, ダイヤモンド社, 2000/10
- 12) 博報堂ブランドコンサルティング: 図解でわかるブランドマーケティング[新版], 日本能率協会マネジメントセンター, 2000/12
- 13) 田中道雄・白石善章・濱田恵三: 地域ブランド論, 同文館出版, 2012/6
- 14) 石井淳蔵: ブランド 価値の創造, 岩波新書, 1999/9
- 15) 中嶋開多: 地元の人にとって「稼れぬ一線」は何かの議論-地域ブランディングというアプローチ【後編】. 日経ビジネス2011/5

### IIIの地域ブランディングツールを作成する段階から明らかになったこと

- 1) **地域のライフスタイル**と多様な地域を統合化した憲章やガイドライン(アイデア集)を積みあげつつ, コアとなるコンセプトを導き出すという**検討プロセス**がひとつの**モデル**となる。
- 2) 体験したときの気持ちなどの**意味付与した地域資源**の示し方は, 一級の観光資源がない他地域においても応用可能な地域ブランドの構築手法である可能性を見出した。
- 3) 数か月の期間で, 組織化までには至らなかったが, **地域で活動中の事業者参加**による地域ブランディングWSが, 地域ブランド推進主体の予備軍形成に一役を担えたといえる。



1: 背景と目的 >> 2: 対象地概要と組織立上げ >> 3: 地域Branding-WS流れと成果 >> 4: 地域内事業者試用 >> 5: まとめ

ご清聴ありがとうございました



補足資料

秋川渓谷ライフスタイル共有ワード

○○に価値を感じて	○○という場所	○○と一緒に	○○を感じながら	○○という過ごし方	一言でいうと
自然 山 自然空間 おだやかな川 歴史・文化 ゆったりした時間の流れ 寺社 立寄り・子育てのし易さ 地元交流の良さ 手軽にアウトドアを 楽しめる環境 人柄	秋川 子供の嬉しかった 川沿い 山や川	太陽 日の出・日の入	笑顔で 澄んだ空気 さわやかな風 静とやさしさ 季節 五感で、朝 都心と違う時間の流れ	ゆっくりと自然と触れ合う 自然を楽しむ 自然の中の1人(生物) 自然のリズムに合わせた 季節を感じる あきる野サイクル ポーとするか勢いに集中	パランスのいい場所 人間らしい生き方 1つの生物として生きる この土地に生かされている 美の自分に現れる いふちがある(食べれる) 住みよくなること リセットする 風を感じる 感覚的な小宇宙 身近な非日常 自然や人にやさしくなれる

【A】秋川渓谷LSの共有シート(写真)より作成

1: 背景と目的 >> 2: 対象地概要と組織上げ >> 3: 地域Branding-WS流れと成果 >> 4: 地域内事業者試用 >> 5: まとめ

補足資料

H21年メディア関係者向けPRツアーアンケート: 地域資源 (n=22)

※22 5名有効回答(45.5%)

質問項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
Q1: 秋川渓谷の自然環境	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q2: 秋川渓谷の歴史・文化	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q3: 秋川渓谷の食文化	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q4: 秋川渓谷の観光資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q5: 秋川渓谷の産業資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q6: 秋川渓谷の教育資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q7: 秋川渓谷のスポーツ資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q8: 秋川渓谷の健康資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q9: 秋川渓谷の芸術資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q10: 秋川渓谷の伝統資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q11: 秋川渓谷の産業資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q12: 秋川渓谷の教育資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q13: 秋川渓谷のスポーツ資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q14: 秋川渓谷の健康資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q15: 秋川渓谷の芸術資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q16: 秋川渓谷の伝統資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q17: 秋川渓谷の産業資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q18: 秋川渓谷の教育資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q19: 秋川渓谷のスポーツ資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q20: 秋川渓谷の健康資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q21: 秋川渓谷の芸術資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然
Q22: 秋川渓谷の伝統資源	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然

※1: 秋川渓谷の自然環境

※2: 秋川渓谷の歴史・文化

※3: 秋川渓谷の食文化

※4: 秋川渓谷の観光資源

※5: 秋川渓谷の産業資源

※6: 秋川渓谷の教育資源

※7: 秋川渓谷のスポーツ資源

※8: 秋川渓谷の健康資源

※9: 秋川渓谷の芸術資源

※10: 秋川渓谷の伝統資源

※11: 秋川渓谷の産業資源

※12: 秋川渓谷の教育資源

※13: 秋川渓谷のスポーツ資源

※14: 秋川渓谷の健康資源

※15: 秋川渓谷の芸術資源

※16: 秋川渓谷の伝統資源

※17: 秋川渓谷の産業資源

※18: 秋川渓谷の教育資源

※19: 秋川渓谷のスポーツ資源

※20: 秋川渓谷の健康資源

※21: 秋川渓谷の芸術資源

※22: 秋川渓谷の伝統資源

補足資料

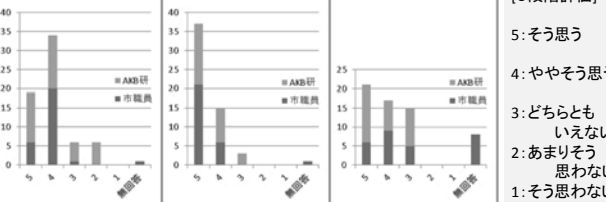
WSアンケートの結果 (AKB研+市職員:n=66)

- No1 AKB研究会で取り組もうとしている地域ブランディングのイメージをもつことができ了吗?
- No2 今回の会議は有意義なものでしたか? その理由や、会議の感想などをお聞かせください。(自由記述)
- No3 質問や発言できなかったこと、今後の会議で話し合った方がよいと思われることがありましたら、お聞かせください。(自由記述)
- No4 具体的に思い浮かぶかは別として、この会に今後どなたかを誘ってみたいですか?

No.1回答

No.2回答

No.4回答



[5段階評価]

- 5: そう思う
- 4: ややそう思う
- 3: どちらともいえない
- 2: あまりそう思わない
- 1: そう思わない

1: 背景と目的 >> 2: 対象地概要と組織上げ >> 3: 地域Branding-WS流れと成果 >> 4: 地域内事業者試用 >> 5: まとめ

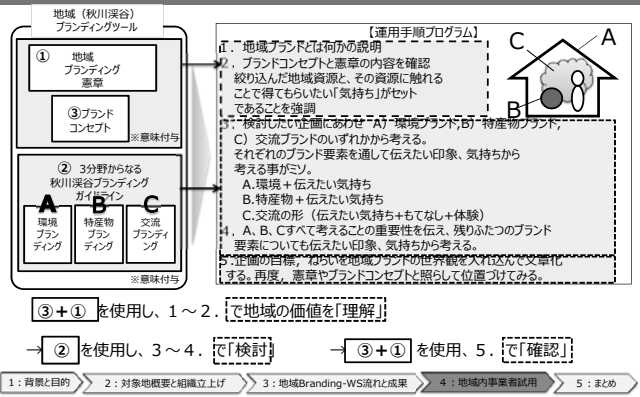
補足資料

H23年フィールドワーク授業学生提出レポート: 地域資源(n=21)

地域	自然	歴史	文化	食文化	観光	産業	教育	スポーツ	健康	芸術	伝統
秋川	山	川	寺	おだやかな川	歴史	農業	学校	サイクリング	自然	伝統	祭
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

補足資料

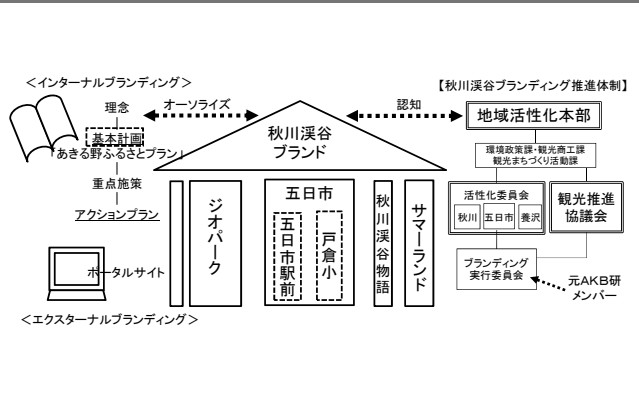
秋川渓谷ブランディングツールの運用手順プログラム



1: 背景と目的 >> 2: 対象地概要と組織上げ >> 3: 地域Branding-WS流れと成果 >> 4: 地域内事業者試用 >> 5: まとめ

補足資料

地域ブランディングツールの運用体制





## 質疑応答

Q. ブランディングのターゲットはだれで、どのようなメディアを使ったか。

A. ターゲットはしっかり定めていない。あきる野市でメディア関係者のモニターツアーをやってきていたので、ターゲットごとに示すものを変えるのではなく、地域でPRしたいものを出していく形式をとった。参加者がそこから発信していく形になっていた。

Q. 住民のライフスタイルを一言でいうと何か。そのような人が増えているのか。

A. 他の川との差別で、ゆるやかに流れていて、アクセスしやすい。早起きの人が多くて、庭で野菜を取っ手などと、創造的なインスピレーションを得られるもので、都心とは少し違ったライフスタイルだと思う。そのようなライフスタイルの人が多いため、ものづくりをする人が移住するということがあるよう。

## 本選審査委員のコメント

ターゲットは誰、そこにアウトリーチするメディアは？交流人口の増加？定住人口の増加？
本と論文のブランディングに固執せず、実際の取り組みについて考えを独自にまとめるべき。
地域の資源を活用して人が幸せに暮らせる道すじを示してほしい。
多主体の形成→他の地域資源もまきこむ形の方がより効果的なのではないか？また、AKCの人々におきた気持ち、意識の変化も知りたかったと思います。
多主体の協議、合意形成の手法を取り入れている点、とても興味深い一方で、どのような人々をワークショップに集め、ワークショップの参加者のネクストアクションをどのように作りこむのか、そのデザインを更に踏み込むと良いのではないかと思います。地域企業ブランディングに市民が関わるなど、更に有用性を高める工夫がまだまだできると思います。
地域がその気になってから、外部にPRの手法は良いが、地域に対しての取り組みが不明。
資料が多すぎたように感じた。結論がわかりづらかった。整理してほしい。
地域ブランディングを作る際に、地域の歴史をもっと深掘した内容があった方が良かったのではないかと。
早口が残念。もう少しポイントを絞る方がわかりやすいのでは。
手法としては企業ブランディングの応用としてはおもしろいが、効果が見えない。情報発信としては有効だが、成果は疑問。10分というプレゼン時間に対して、もう少し絞込みが必要。

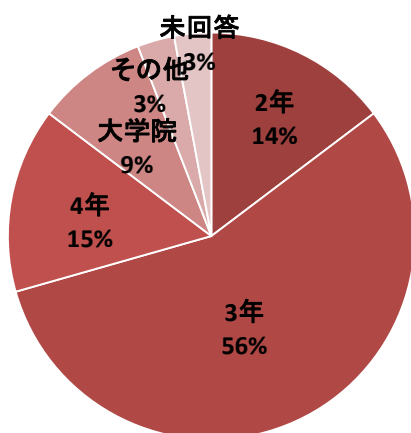


# 本選 アンケート結果

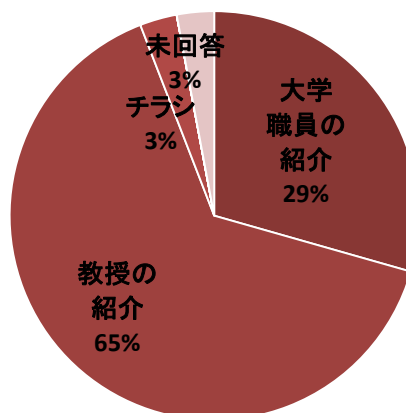
多摩の大学生  
まちづくりコンペティション

# 本選 エントリー団体 アンケート 回答者数=29

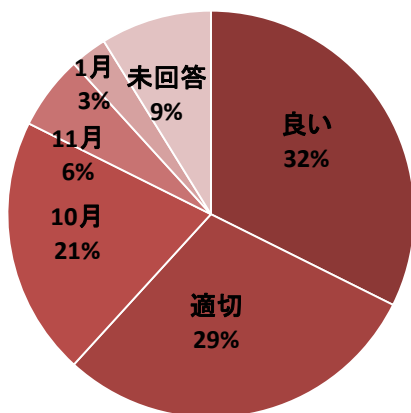
## Q1.学年について



## Q2.コンペを知った経緯



## Q3. 本選開催時期 12/20(土)



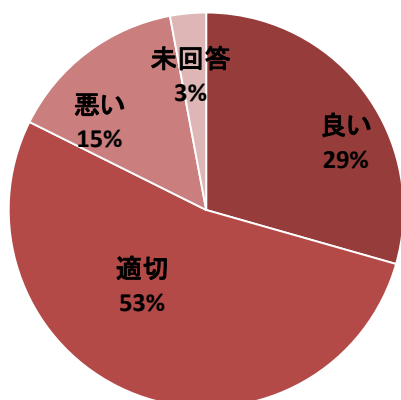
### Q1～Q3

エントリーした学生の半数以上の53%が3年生でした。4年生と2年生が15%、14%と続き、大学院生は9%でした。

このコンペを知った経緯は教授の紹介によるものが65%と高く、大学の職員による紹介を挙げた29%を加えると、94%が大学教職員の働きかけでした。

コンペの本選開催は12月20日でした。開催時期が「良い」「適切」と答えたのは6割強で、「10月」を中心にそれ以降を希望する学生は3割に及びました。

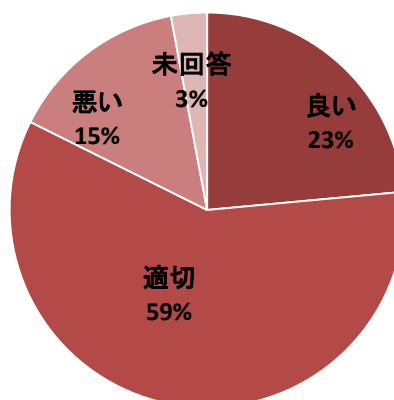
#### Q4.発表時間 10分間



##### コメント

- ・20分
- ・15分
- ・自由

#### Q5.質疑応答 5分間



##### コメント

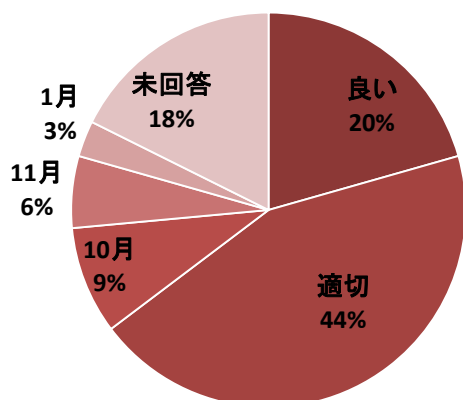
- ・自由
- ・質問が無いので3分くらいで
- ・少ない

#### Q4～Q5

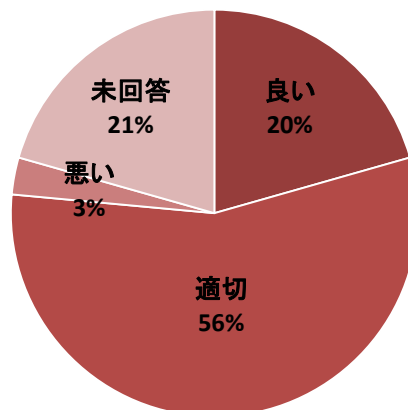
プレゼンの持ち時間10分間について問うと、「良い」「適切」と答えたのは82%。15%が「悪い」といい、その要因は「時間が短い。15分から20分ぐらいほしい」と言っています。

審査委員の質問時間についても9割以上が「良い」「適切」といい、15%が「もっと短くてよい」などと記入しています。

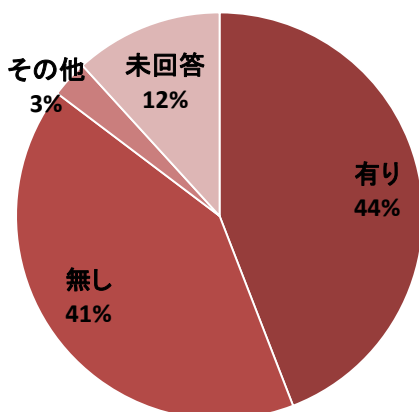
## Q6.リハーサル開催時期 11月



## Q7.リハーサル会の内容



## Q8.リハーサル会の必要性



コメント  
・必要なし

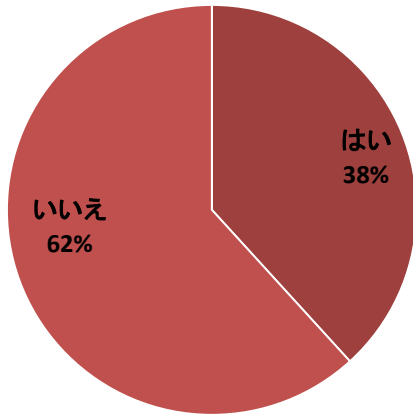
### Q6～Q8

12月6日午後(土曜日)に立川市の「たましんWinセンター」で行った、本選出場団体のリハーサル会について問うと、6割強が開催時期は「良い」「適切」と答えていますが、2割弱が早めに行ってほしいという結果でした。未回答18%。

また、このリハーサル会のねらいは、本選を想定した発表内容や技術、表現方法などについて予選審査を行った審査委員のアドバイスを受けるもので、こうしたリハーサル会について感想を聞くと、「良い」が20%、「適切」と答えた人が56%に至り、おおむね好評価を得ています。

しかし、その必要性を感じている学生は「有り」「無し」ともほぼ同数に近い40%台でした。

## Q9.来年度のコンペは参加を希望しますか



### コメント:はい

- ・おもしろかった
- ・地域活性化に興味ある
- ・様々な大学との交流、気づきが得られるから
- ・運営から関わりたいです
- ・活動を発表したい
- ・多摩のつながりを感じる
- ・自分たちの活動を広く知ってもらいたい
- ・他大学のやっている事が分かった

### コメント:いいえ

- ・大学を卒業している
- ・忙しい
- ・就活で忙しい
- ・年末は大変
- ・後輩に頼む

## Q9

本選のコンペを終えた学生たちは「来年度のコンペに参加を希望しますか」という問いに「はい」と答えたのは38%でした。その理由は「おもしろかった」「地域活性化に興味がある」「さまざまな大学との交流、気づきが得られるから」「多摩のつながりを感じる」「自分たちの活動を広く知ってもらいたい」「他大学のやっていることがわかった」など、参加して新たな高揚心が湧いたからだといえます。

一方、6割に及んでいる参加しない組の状況を見ると、今回のコンペの参加学生の半数以上が3年生であり、次回開催時には4年生に進級しており、「就活で忙しい」などのコメントにある通り、「後輩に頼む」ことになり、自己決定を避けたものと考えられます。

## Q10.参加した感想や希望などをご自由にお書きください

<p>いい勉強になりました。</p>
<p>本選に出てくるだけあって、レベルの高いプレゼンテーションを見ることができた。多摩地域が抱えている問題をピンポイントで把握しており、このコンペティションを行う意義が見えてきた。</p>
<p>様々なアプローチ方法があり、参考になった。ただ段取りをもう少ししっかりと組み、時間通りの運営をしてほしいと感じました。</p>
<p>時間内に始まるようにして下さい。運営は当日だけやっている気がします。私たちの活動はまちづくりコンペティションがメインではないのでいい経験になりました。司会が下手。</p>
<p>今回、ゼミとして初めて、このようなコンペティションに参加しました。準備段階からPPTの作成やプレゼンの練習など色々大変でしたが、とても良い経験になりました。</p>
<p>今回のまちづくりコンペティションは、様々な大学の方々の成果を聞くことができ学べる所がたくさんあり、良い機会になりました。ただ、時期が良くないです。</p>
<p>今回の活動はこのまちコンペティションの目的ではなかったが、まちコンペティションに出ることによって、まとめ目線が変わり、良い経験になりました。</p>
<p>今回のまちづくりコンペティション2014の体験はとても良い経験となりました。来年は就職活動に活かしていきたいと思います。</p>
<p>この度はまちづくりコンペティションに参加させていただき、他大学の学生や様々な企業の方や行政の方と関わるいい機会となりました。</p>
<p>日々の学生生活では経験することのない他大学・企業の方と関わりよい経験になりました。この経験を今後の就職活動などに活かしていきたいと感じました。</p>
<p>今回のまちづくりコンペティション2014で多摩地域の活性化というものに実際に触れることができ良かった。次回のまちづくりコンペティション2015にも見学として参加できたら良いと思う。</p>
<p>様々な大学の活動を知ることができ、その結果もわかりやすい。また自分達の活動と比較することで、違う視点から見えることもできたな、と感じたので力がつくと感じた。</p>
<p>参加者、団体、見学者に発表資料の配布をして欲しい。運営側の準備不足が目立った。予選でできていた時間管理ができていない点など。</p>
<p>発表はもっと盛大に行っても良いと思う。コンテストとして、より広い範囲に周知し、多摩の大学の活性化と行政・企業・金融がより繋がるようになると良い。</p>
<p>質疑応答の際に一般の方からも一組一人ずつ意見をもらうようにしてみたらいかがでしょうか。再度、明星大学で行う際は、もっと広い教室、会場を利用することをおすすめします。</p>
<p>面白かったです(色々な方の意見をきけて)</p>
<p>大変勉強になった。コンペティションへ向けて、我々の活動の可能性や意味を見直すことが出来た。今後はこのコンペを目標として活動する団体があればいいと思う。</p>
<p>他大学の活動を詳しく知れてとても参考になった。</p>
<p>一つの地域でこれほど違う活動が行われていて様々な角度から地域との関わりを見ることができました。</p>
<p>他大学の活動を知る機会はほぼ皆無なので、貴重な時間を過ごすことができました。</p>

今回まちづくりコンペティションに参加したことで、他大学の発表を聞き、そういう活動をやっているのだと感じることができました。

プレゼンを聞き、用語を勉強するべきだと実感しました。

実際の採点を見ていないから、なんとも言えませんが、趣旨と審査員の皆さんとの間に、何か温度差があるような感じがした。やはり配点(評価ポイント)を予選と本選で変えるのはおかしい。

予選の時よりは時間に無駄が無くよかったが、質問があまり出なかったのは残念でした。

質問が少なかったのが残念でした。

他の団体から学ぶこともあり、大学内で競うよりも大学外で競う方がより良い多摩を築くことができると感じた

他大学の活動を少しではあるが知れて良かった。

本選では、すべての団体の発表を聞くことができよかった。「まちづくり」は、範囲が広く、様々なアプローチがあるので、プロジェクトの意義を伝えるのが難しい。(10分では)

最初のリハーサルの時間が長い。色々な大学で行っている地域活性化に向けた活動が聞けて良かったが単にプロジェクトの成果報告で終わるのではなく、研究としての意味も欲しい。

リハーサル会はやる必要性を感じた。会場の設備がわからないので。ただ、別の日に実施すると負担が大きいので、そこらへんは工夫があれば良いと思いました。

交通の便がよい場所でやる。審査のポイントをわかり易くする。発表PPTや資料を配ると良いのではないかと思う。

来場者には資料(発表用PPTファイルなど)を紙で配布して欲しい。予選では発表時間を過ぎたらすみやかに終えるはずなのに本選では、その点が甘い。

各大学で取組んだ内容の報告・結果、または今後の展開を発表できると良い。各大学で発表の方針、目的が異なるため、発表内容をある程度統一して見ては。明治大学の発表は、目的・趣旨が違うと思います。

アイデア(Will)部門と今までの実績部門

特に無いが、会場設備を今後力を入れても良いコンペであると思う。評価の振り分けを明確にして欲しい。

もう少し準備を念入りに行ったほうが良いと思った。

特に変更なしで大丈夫だと思います。

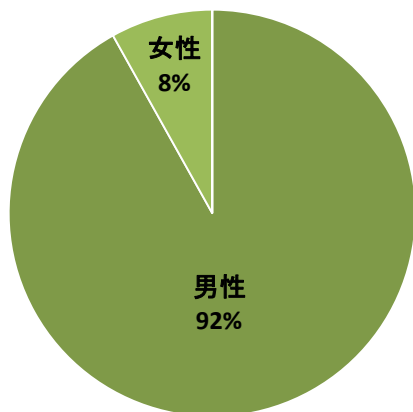
時計などを設置したほうが良いと思いました。

開会式の段取りをもう少し良くしてほしい。

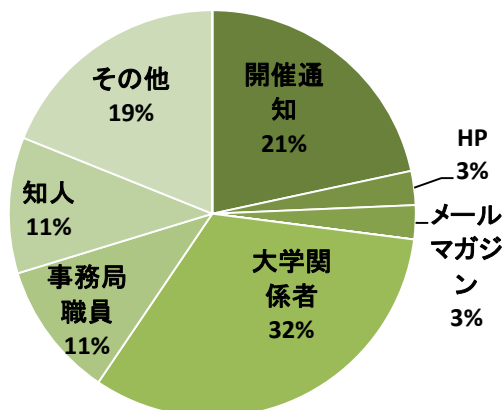
今度は、又違う大学でやってほしい(W杯の誘致のイメージ)。それから、実際の活動の出張版のようなものも行い、プレゼンテーションだけではわからない、各PJの良い部分を見せられるようにしてほしい(展示も同時開催しても良いかもしれない)

# 本選 見学者 アンケート 回答者数=10

## Q1.性別について



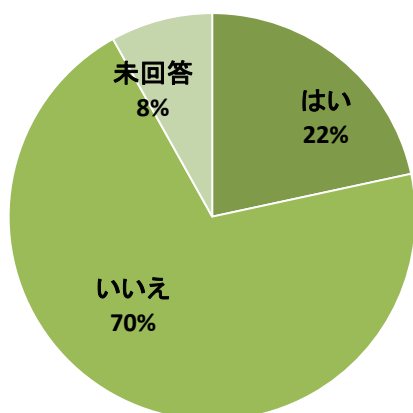
## Q2.コンペを知った経緯



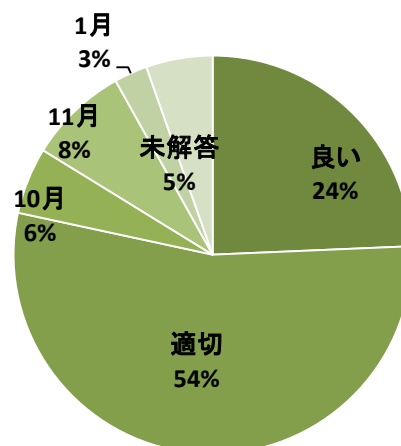
Q1～Q2

本選の会場を埋めたのは、9割以上が男性でした。このコンペを知ったのは全体の3割以上が大学関係者から、あるいは2割強に及んだ人たちは開催通知を手に入れたのがきっかけでした。主催事務局や知人からという人もそれぞれ1割強あり、人づてに知ったのが75%と高いものでした。

## Q3.予選は見学しましたか



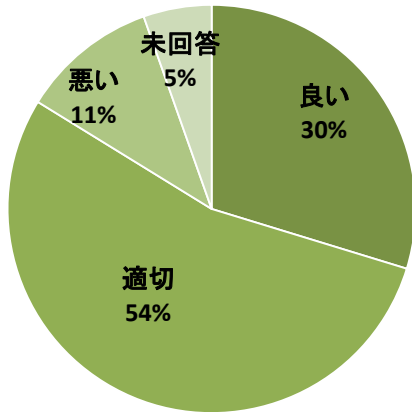
## Q4. 本選開催時期 12/20(土)



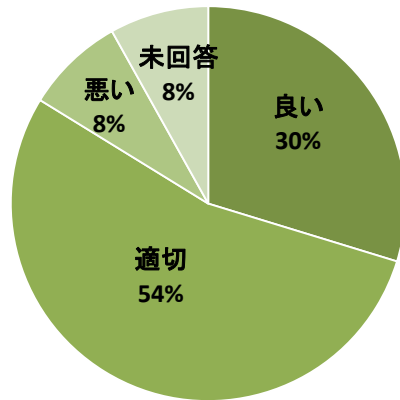
Q3～Q4

予選を見学しましたかと問うと、5人に1人強が予選も見学していました。本選に期待して見学に来られた人が7割と高い数値でした。また、全体の8割近くは本選の開催時期が“良い”と感じています。

### Q5.発表時間 10分間



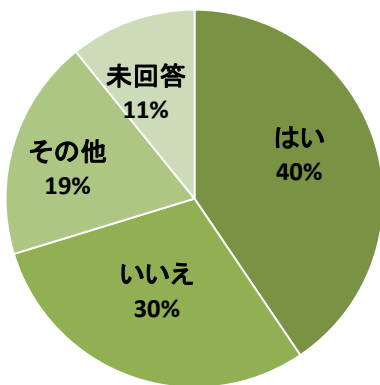
### Q6.質疑応答 5分間



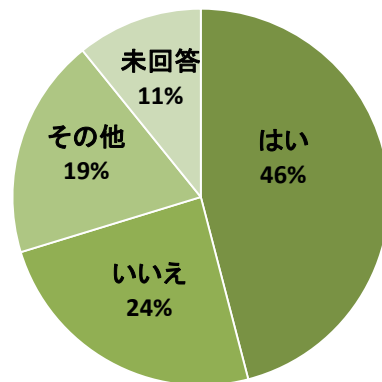
#### Q5～Q6

学生のプレゼン時間10分が妥当かどうかを尋ねると、84%が「良い」「適切」とみています。また、プレゼンに対する審査委員の質問時間5分間についても84%と高い支持を得ました。

### Q7.来年の予選見学を希望しますか 11月中旬



### Q8.来年の本選見学を希望しますか 12月12日(土)たましんRISURUホール



#### Q7～Q8

次回、予選を見学しますかという問いに対して、4割が「はい」と答えています。予選を見学していた人のポイントより18ポイント高く、本選を見学して改めて予選への関心を高めたのでしょうか。

このことは、来年も本選を見学すると答えた数値にも表れているように思われます。本選を見学した半数近くが次回も見学を望んでいるからです。

## Q9.興味のあるテーマや分野がありましたら教えてください

地元なので八王子南口
市場のプレゼンは自分たちの提案を述べてそれについての今後の取組みについて興味を持てた
地域の方々と一体となってやるというものがいいかなと思います。
地域活性化のための世代間の壁をどう取り払うか
大型商業施設と共存する地域商店街のあり方
世代間交流 高齢化(見守り)
中心市街地活性化
若者がまちづくりの課題に取り組む姿はとても頼もしく思えました。人口構造が変化する中で若者の存在や意見がますます重要になると思います
まちづくりが継続して進化するためには。超高齢化社会に挑む。
駅とまちづくりの関係性
人口減少社会に向けた様々な取り組み
エコノミック、ガーデニング
多摩地域の特性を活かすテーマ決定を!!例えば「多摩の将来ビジョンと関係する地域や団体の係り方」
まちづくりを行っている学生団体を色々知りたいと思いました
地域活性化、郊外へのインバウンド企画

## Q10.コンペティションの改善点や気になった点がありましたら、教えて下さい

モニターが見にくい
見学者の席の配置や椅子・机などの設備環境
会場が狭い
一般見学者にも資料があると良かった。会場がフラットより階段の方が見る側は見やすい。
配点は少なくとも良いので見学者にも投票する権利を与えてみてはかがでしょうか(例:見学者の中で最も評価の高いものに+5点を与える)
パワーポイントが文字ばかりで全く読めない発表あり。フォント○サイズ以上など指定すべき
全員マイクを使って欲しい。見やすいパワーポイントにしてほしい。後方からだと見えない部分があった
予想以上の反響から参加者が増えた為でしょうが、もう少し余裕のある会場を。本選に残った7チームの予選時の評価(優れた点と課題)
会場が狭かった

## Q11.参加した感想や希望などをご自由にお書きください

大手からえらい人達が来ていて規模におどろいた

いろいろな発表を聞き興味関心を持ちました。次回は前に立って発表するという状態になればいいと思います。

学生が関与する案件の出口戦略についても問うて欲しい

学生たちの発案・アイデアはとても参考になる。そのアイデアをどう活かしていくかは、行政や企業など支え、バックアップしていく側の力が必要だと感じた。

本日発表の際に使用したパワポをじっくり見たいので、ネットワーク多摩のHPに掲載していただけたらと考えています。

今回のコンペに参加した学生が将来のまちづくりのリーダーとなることを強く望む

プレゼン方法、配布資料のデザイン、運営方法等大変勉強になりました。来年度も期待しています。

学生のフレッシュさ、斬新なパワーや発案に刺激を受けました。とても楽しかったです。

プレゼン技法には一定水準以上のものが認められるが、学生らしいユニークな発案と強い説得意欲が1チームを除き感じられなかった。

学生の熱意高い能力、問題意識を知れてよかった。ぜひ今後も続けてほしい。



## 第 5 章

### 新聞掲載等

多摩の大学生まちづくりコンペティション

# 新聞掲載

予選について

2014年11月8日(土) 日本経済新聞(朝刊)

東京・多摩地区の大学生による地域の活性化活動を表彰する取り組みが、2014年度から始まる。多摩地区は人口減少や住民の高齢化、商店街の衰退などが課題になっている。大学生が地域で取り組む活動を地元の自治体や企業が審査、表彰して地域の活性化を後押しする。

多摩の大学や自治体、企

## 学生の地域活性化策 表彰

### ネットワーク多摩

#### 10大学18グループ発表

業で構成する公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩(東京都日野市)が主催し、今後も続ける。地域の現場で実際に活性化に取り組む活動を審査対象とする。

8日に予選会があり、明星大や東京経済大、中央大など主に多摩にある10大学

18グループが発表する。内容は商店街活性化や世代間交流、農産物のブランド化など多岐にわたる。12月の本選で最優秀賞を決める。

審査委員長の細野助博(中央大教授)は「若者の目線と知恵で、多摩が抱える課題を解決できればいい」と話している。

本選について

2014年12月26日(金) 日本経済新聞(朝刊)

## 地域の活性化策 多摩大最優秀賞

多摩地区

地元大学や企業、自治体で構成する公益社団法人の学術・文化・産業ネットワーク多摩(東京都日野市)は、東京・多摩地区の大学生による地域活性化策を審査し、最優秀賞に多摩大学を選んだ。

多摩大は諏訪小学校(多摩市)の児童が育てた野菜を学外で販売し、小学校と地域住民が交流する機会をつくった。優秀賞には法政大学によるJR八王子駅南側地域の活性化策と、実践女子大学のトンネルを利用した美術館構想の2つが選ばれた。

# 参加大学HP掲載

http://www.tama.ac.jp/topics/news/2014/12/-12014.html

多摩大学 HP より抜粋

多摩大学オフィシャルのウェブサイト。経営情報学部、グローバルスタディーズ学部、社会人大学院 (MBA) の紹介、イベント、入試情報、学費・学則情報

現代の志塾 多摩大学

ENGLISH

初めての方へ ● 資料請求 ● 交通アクセス ● スターパス特創費 ● お問い合わせ

サイト内検索  検索

大学概要 University Guide 学部・大学院 Faculty 研究 Research 地域連携・産学連携 Synergy 国際交流 International Exchange 就職支援 Career Support 図書館 Library

ニュースリリース

TOP > ニュースリリース

2015 News Release [Back Number] 2015 2014 2013 2012 2011 2010 2009 2008 2007 2006 2005

メディアクリッピング

カテゴリ

ニュースリリース (1312)

学部・大学院 (26)

経営情報学部 (749)

グローバルスタディーズ学部 (257)

大学院 (105)

梅澤佳子ゼミの活動が、公益財団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩主催「多摩の大学生第1回まちづくりコンペティション2014本選」にて最優秀賞と奨励賞を受賞

[2014/12/25]

2014年12月20日（土）に開催されました公益財団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩主催「多摩の大学生第1回まちづくりコンペティション2014本選」にて、多摩大学 梅澤佳子ゼミの活動「諏訪小学校と地域の連携づくり」が最優秀賞を受賞、同じく梅澤佳子ゼミの活動「緑を通じて世代を繋ぐ グリーンライフ・プロジェクト」が奨励賞を受賞しました。

若者の視点や感性を活かした、今ある多摩地域の魅力を発信できる企画や、今までにない多摩地域の新しい価値を創造して、多摩地域が抱える課題を克服することで未来に活力を与えることができる「実践的」試みや提案を募集した今回のコンペで、梅澤佳子ゼミの地域と連携した地道な活動が高く評価されました。



# 参加大学HP掲載

http://www.hosei.ac.jp/gendaifukushi/NEWS/topics/141224\_01.html

法政大学 HP より抜粋



# 参加大学HP掲載

http://www.jissen.ac.jp/activity/year2014/20141222\_gaku1.html

実践女子大学 HP より抜粋

The screenshot shows the homepage of Jissen Women's University. At the top, there are navigation links for '理念と伝統', '情報公開', '実践女子学園', and '実践Webマガジン'. Below this is the university's logo and name in both Japanese and English. A search bar and language options (Japanese, English) are also present. A main menu includes 'キャンパスライフ', 'キャリアと自立', '実践の学び', '社会への貢献', and '入学案内'. The featured article is titled '本学学生が「多摩の大学生まちづくりコンペティション2014」で優秀賞を受賞' (Our student won the Excellent Award at the 2014 Tama University Student Community Building Competition). The article text describes the competition, the student's project 'トンネル美術館' (Tunnel Museum), and the award ceremony. It also includes a sidebar with navigation links like 'ニュース', '学生の活動', and 'イベント'.

This block provides a detailed view of the award announcement. It includes the same text as the screenshot above, but with two photographs. The first photo shows a presentation slide titled 'トンネル美術館' (Tunnel Museum). The second photo shows three people: a man in a suit presenting a certificate to a woman, with another woman standing next to her. Below the photos, there is additional text explaining the project's connection to the 'ひのプロ' (Hi-Pro) initiative and providing links to related content.



公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩  
多摩の大学生まちづくりコンペティション 2014 報告書

---

発行日 2015年3月30日  
発行所 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩  
〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1  
明星大学 20号館 6階  
☎042-591-8540 fax042-591-8831  
E-mail:office@nw-tama.jp  
<http://www.nw-tama.jp>



公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩  
**多摩の大学生まちづくりコンペティション 2014 報告書**

発行日 2015年3月30日

発行所 公益社団法人 学術・文化・産業ネットワーク多摩

〒191-8506 東京都日野市程久保2-1-1

明星大学 20号館 6階

☎042-591-8540 fax042-591-8831

E-mail:office@nw-tama.jp

<http://www.nw-tama.jp>